

平成21年度

大学院生による授業評価結果報告書  
(前期分)

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
11	教職共通科目	30031000	学校教育の人間形成的役割	木内 陽一, 山崎 勝之, 皆川 直凡
12	教職共通科目	30032000	現代の諸課題と学校教育	小西 正雄
13	教職共通科目	30033000	子ども理解と生徒指導	山下 一夫
14	教職共通科目	30034000	子どもの発達支援	田村 隆宏, 木村 直子, 塩路 晶子, 島田 恭仁, 津田 芳見
15	人間形成	30111000	人間形成文化史研究	梶井 一暁
16	人間形成	30113000	教育哲学研究	木内 陽一
17	人間形成	30116000	発達健康心理学研究	山崎 勝之
18	人間形成	30120000	比較教育社会学研究	伴 恒信
19	幼年発達支援	30522000	幼年期教育学研究	橋川 喜美代
20	幼年発達支援	30513000	幼年期福祉研究	木村 直子
21	幼年発達支援	30516000	こころの発達支援研究	浜崎 隆司
22	幼年発達支援	30518000	幼年発達心理研究	田村 隆宏
23	幼年発達支援	30524000	幼年発達と幼児教育内容論	塩路 晶子
24	現代教育課題総合	30631100	総合学習総論	小西 正雄, 谷村 千絵

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
25	現代教育課題総合	30638000	文化間教育演習Ⅰ（基礎研究）	小西 正雄
26	臨床心理士養成	30425000	臨床心理学研究Ⅱ	葛西 真記子, 中津 郁子
27	臨床心理士養成	30432000	学校精神保健学研究	今田 雄三
28	臨床心理士養成	30448000	臨床心理面接研究Ⅱ	粟飯原 良造
29	特別支援教育	31160000	特別支援教育学研究論Ⅰ	八幡 ゆかり
30	特別支援教育	31166000	特別支援教育学習心理学研究論	島田 恭仁
31	特別支援教育	31171000	発達障害児生理・発達学研究	津田 芳見
32	特別支援教育	31150000	特別支援教育コーディネーター概論	井上 とも子
33	言語系	32144000	日本古典語研究	原 卓志
34	言語系	32146000	現代日本語研究	茂木 俊伸
35	言語系	32148000	日本文学研究Ⅰ	野口 哲也
36	言語系	32138000	言語教育基礎論Ⅰ	原 卓志, 茂木 俊伸
37	言語系	32153000	日本語教育学研究	小野 由美子
38	言語系	32156000	日本語文法研究	永田 良太

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
39	言語系	32161000	日本語音声表現研究	永田 良太
40	言語系	32140000	日本語 I	永田 良太
41	言語系	32228000	英米文化研究 I (文化史)	杉浦 裕子
42	言語系	32216000	英米文化研究 II (現代文化研究)	前田 一平
43	言語系	32220000	英米文学応用演習 II	太田 直也
44	社会系	33158200	歴史学演習 I	大石 雅章
45	社会系	33158300	歴史学研究 II	町田 哲
46	社会系	33158500	歴史学研究 III	原田 昌博
47	社会系	33158700	地理学研究 I	木原 克司
48	社会系	33159300	法学・政治学研究	麻生 多聞
49	社会系	33159500	社会学研究	山本 準
50	社会系	33159900	哲学・倫理学研究	齋木 哲郎
51	社会系	33160000	哲学・倫理学演習	齋木 哲郎
52	自然系	34125000	代数学研究	平野 康之

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
53	自然系	34126000	代数学演習	平野 康之
54	自然系	34215000	物性物理学特論	本田 亮
55	自然系	34220000	環境化学特論	今倉 康宏, 早藤 幸隆
56	自然系	34225000	進化生物学特論	工藤 慎一
57	自然系	34228000	地球惑星物質学特論	西村 宏, 村田 守, 香西 武
58	自然系	34229000	地球科学特論 I	村田 守, 西村 宏, 香西 武
59	自然系	34233000	地質学・古生物学特論	香西 武, 村田 守, 西村 宏, 小澤 大成
60	芸術系	35113000	声楽発声法	頃安 利秀
61	芸術系	35112000	音楽劇総合演習	草下 實
62	芸術系	35115000	ピアノ演奏基礎演習	森 正, 澤 由利子
63	芸術系	35117000	ピアノ演奏法	森 正, 村澤 由利子
64	芸術系	35116000	学校教材ピアノ伴奏法	山田 啓明
65	芸術系	35129000	管弦打楽器演奏基礎	山根 秀憲, 小林 冬子
66	芸術系	35120000	管弦打楽器総合演習	山根 秀憲

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
67	芸術系	35130000	指揮法基礎演習	山田 啓明
68	芸術系	35131000	楽曲分析研究	松岡 貴史
69	芸術系	35211000	絵画制作研究	西田 威汎, 鈴木 久人
70	芸術系	35214000	版画制作演習	武市 勝
71	芸術系	35216000	塑造制作演習	長岡 強
72	芸術系	35217000	石彫制作演習	野崎 窮
73	芸術系	35219000	視覚デザイン演習	松島 正矩
74	生活・健康系	36111000	スポーツ人間学研究	綿引 勝美
75	生活・健康系	36115000	スポーツ社会学研究	木原 資裕
76	生活・健康系	36117000	学校体育経営研究	藤田 雅文
77	生活・健康系	36121000	運動学研究	乾 信之
78	生活・健康系	36123000	スポーツ・バイオメカニクス研究	松井 敦典
79	生活・健康系	36127000	スポーツ情報研究	田中 弘之, 綿引 勝美, 松井 敦典
80	生活・健康系	36129000	学校保健学研究	吉本 佐雅子

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
81	生活・健康系	36131000	健康科学研究	廣瀬 政雄
82	生活・健康系	36133000	運動生理学研究	田中 弘之
83	生活・健康系	36211000	情報処理研究	菊地 章
84	生活・健康系	36219000	機械工学研究	宮下 晃一
85	生活・健康系	36221000	材料及び加工学研究	米延 仁志
86	生活・健康系	36222000	材料及び加工学演習	米延 仁志
87	生活・健康系	36235000	木質材料加工法演習	米延 仁志
88	生活・健康系	36224000	情報科学研究	伊藤 陽介
89	生活・健康系	36311000	家族・ジェンダー研究	黒川 衣代
90	生活・健康系	36315000	衣生活学研究	福井 典代
91	生活・健康系	36317000	食生活学研究	西川 和孝, 前田 英雄
92	生活・健康系	36319000	住生活学研究	金 貞均
93	国際教育協力	37121000	国際教育IT活用研究	松寄 昭雄, 小澤 大成
94	現代教育課題総合	30639000	文化間教育演習Ⅱ(地域研究)	太田 直也

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
95	現代教育課題総合	30641100	文化間教育演習Ⅳ（実践研究）	太田 直也
96	現代教育課題総合	30649100	環境教育特論Ⅱ（授業開発）	近森 憲助, 西村 宏
97	臨床心理士養成	30450000	臨床心理コロキウム	中津 郁子, 井上 和臣, 葛西 真記子, 山下 一夫, 粟飯原 良造, 今田 雄三, 吉井 健治, 久米 禎子, 曾川 京子, 阪根 健二, 小坂 浩嗣, 佐藤 亨, 末内 佳代
98	臨床心理士養成	30446000	臨床心理面接演習	粟飯原 良造, 今田 雄三, 葛西 真記子, 中津 郁子, 吉井 健治
99	臨床心理士養成	30433000	臨床心理査定演習Ⅰ	久米 禎子, 葛西 真記子, 今田 雄三, 粟飯原 良造, 佐藤 亨, 中津 郁子, 吉井 健治
100	特別支援教育	31161000	特別支援教育学研究論Ⅱ	大谷 博俊
101	特別支援教育	31164000	特別支援教育臨床心理学研究論	高原 光恵
102	特別支援教育	31153000	特別支援教育コーディネーター実地教育	井上 とも子
103	言語系	32173000	国語科教育学研究	村井 万里子
104	言語系	32175000	国語科授業研究	幾田 伸司
105	言語系	32179000	国語科教材開発研究	余郷 裕次
106	言語系	32276000	英語科教育特論Ⅰ	伊東 治己
107	言語系	32277000	英語科教育特論Ⅱ	山森 直人
108	社会系	33171000	社会科教育学研究	伊藤 直之



頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
109	社会系	33179000	社会科教材開発演習Ⅱ（歴史領域）	梅津 正美
110	自然系	34172000	数学科教育学研究	齋藤 昇, 秋田 美代
111	自然系	34174000	数学科授業研究	服部 勝憲
112	自然系	34175000	数学科教材開発研究	齋藤 昇, 秋田 美代
113	芸術系	35174000	音楽科授業演習	西園 芳信
114	芸術系	35172000	音楽科教育研究	長島 真人
115	芸術系	35171000	音楽教育史研究	長島 真人
116	芸術系	35273000	美術科授業研究	山木 朝彦
117	芸術系	35274000	美術科教材開発研究	山田 芳明
118	芸術系	35276000	美術科教育研究法演習	山木 朝彦, 山田 芳明
119	生活・健康系	36173000	体育授業計画研究	坂本 和丈
120	生活・健康系	36271000	技術科教育研究	尾崎 士郎
121	国際教育協力	37174000	国際教育教材開発研究	小澤 大成, 松壽 昭雄, 服部 勝憲
122	国際教育協力	37176000	国際教育教材開発演習Ⅱ	服部 勝憲, 小澤 大成, 松壽 昭雄

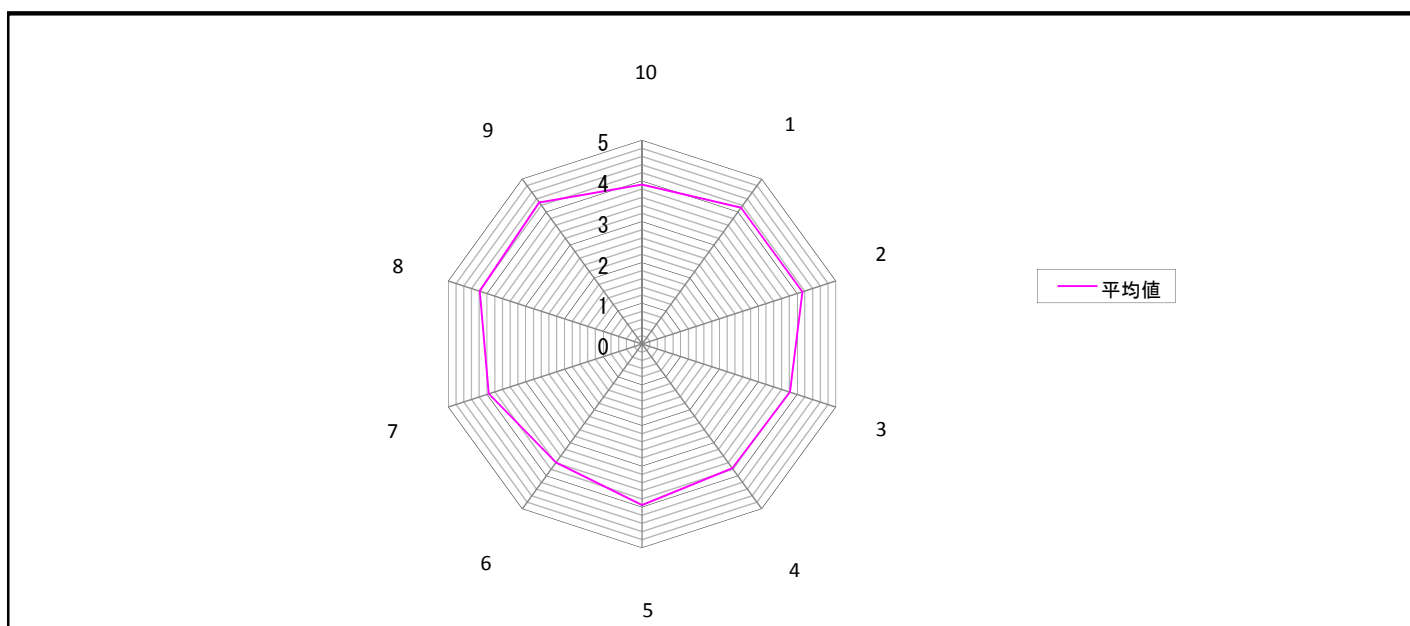
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
123		30211000	学級経営改善研究	久我 直人
124			教育課題探究(生徒指導基礎研究)	兼松 儀郎, 小坂 浩嗣

# 結果報告書

授業科目名 学校教育の人間形成的役割  
 評価実施日 平成21年7月29日  
 担当教員名 木内 陽一, 山崎 勝之, 皆川 直凡

回答者数 23 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	11	4			1	4.1
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	9	2	2		1	4.1
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	8	4	2	1	1	3.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	7	6		2	1	3.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	8	9	2	2	1	1	4.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	7	6	4	3	2	1	3.6
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	10	6	1	5		1	4.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	8	5			1	4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	5	5			2	4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	7	5	1	1	1	3.9



## 教員のコメント

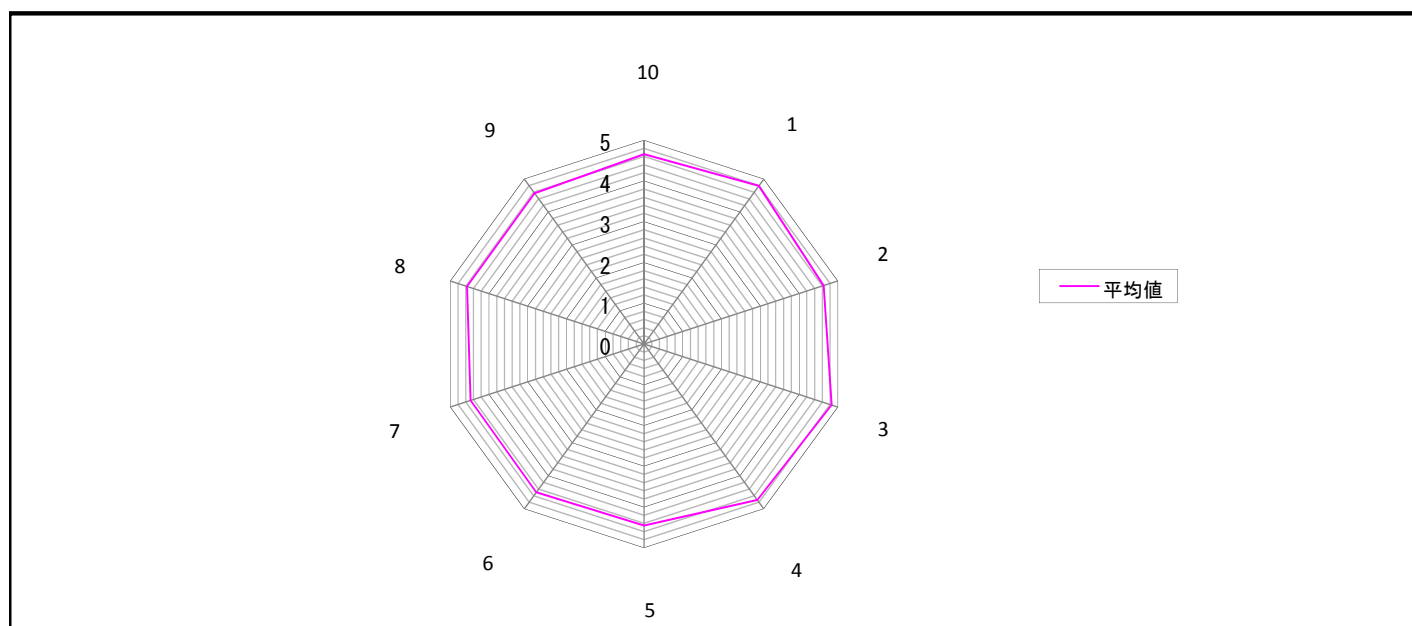
本講義は、木内(教育哲学)、山崎(発達心理学)、皆川(教育心理学)が担当し、それぞれの分野の特質を述べることにしている。全体的には、満足度の高い講義であると思う。受講生の感想を見ると、ディベートを行った教員の授業方法に対する評価が高かった。それぞれの分野の特質に応じた講義方法をさらに考えていきたいと思う。

# 結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と学校教育  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 小西 正雄

回答者数 44 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	36	7	1			4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	33	7	3	1		4.6
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	38	5	1			4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	34	8	2			4.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	27	12	3	2		4.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	28	10	6			4.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	27	11	6			4.5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	30	11	1	2		4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	28	14	1	1		4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	33	8	2	1		4.7



## 教員のコメント

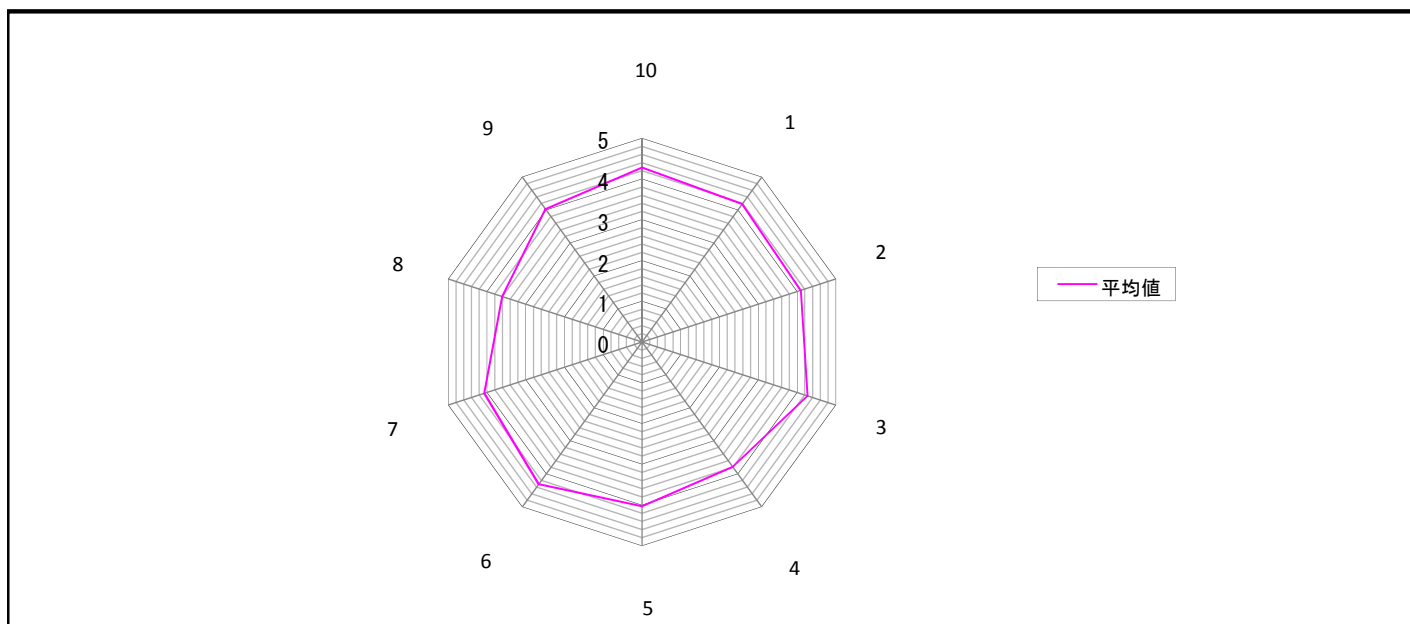
今年度も圧倒的な支持を得ることができて幸いである。「実践とほどよい距離」を保つことを常に意識し、教職大学院との差別化を図ったが、その教職大学院在籍者が少なからずこの講義を聴講に来てくれたことは意味深い現象であると考えている。唯一気になったのは授業のスピードが速いという指摘で、昨年度も同様の指摘があった。注意したつもりであるがまだ改善されていないようである。来年度は相当意識してこの点を改善したい。なお、(3)の設問について「実践力の育成につながったかどうかなどは実践してみないとわからないので、このようなことを問われても答えようがない」という批判があった。

# 結果報告書

授業科目名 子ども理解と生徒指導  
 評価実施日 平成21年7月22日  
 担当教員名 山下 一夫

回答者数 152 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	55	73	17	5		2	4.2
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	53	68	22	8		1	4.1
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	70	57	19	5		1	4.3
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	39	50	48	5	4	6	3.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	56	55	26	11	1	3	4.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	71	61	16	4			4.3
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	56	56	32	7		1	4.1
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	32	52	46	18	3	1	3.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	51	58	37	5		1	4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	73	58	12	8	1		4.3



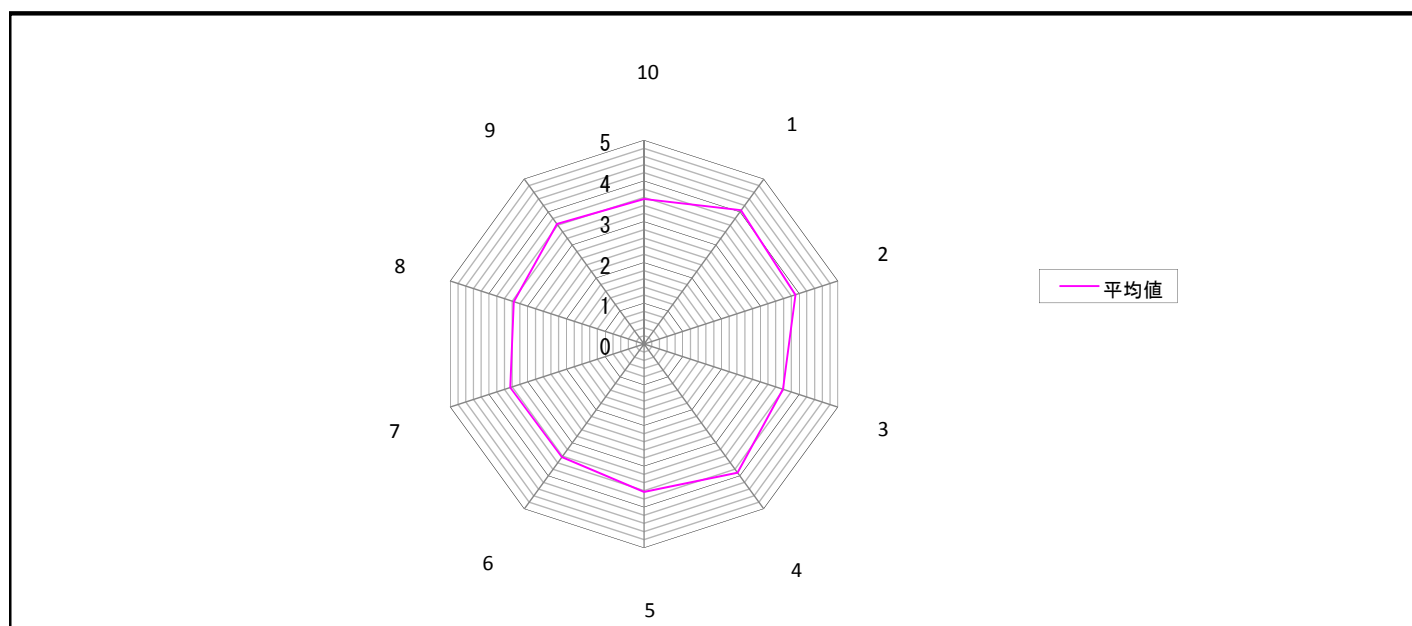
## 教員のコメント

受講者は150人以上であるが、「(10)総合評価」4.3、「(1)(2)(3)授業内容」4.1~4.3、と高い評価を得た。学生の記述評価では、改善点として「板書」を挙げる者が多かったが、全体的に授業内容や授業方法など私が努力し工夫している点を高く評価しているようである。

# 結果報告書

授業科目名 子どもの発達支援  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 田村 隆宏, 木村 直子, 塩路 晶子, 島田 恭仁, 津田 芳見      回答者数 149 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	48	67	29	4	1	4.1
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	41	70	23	11	3	3.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	35	43	47	17	5	3.6
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	48	49	44	6	2	3.9
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	34	53	37	20	4	3.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	28	49	36	29	6	3.4
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	29	44	48	19	8	3.5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	27	40	49	21	10	3.4
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	30	51	54	12	2	3.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	34	46	45	17	7	3.6



## 教員のコメント

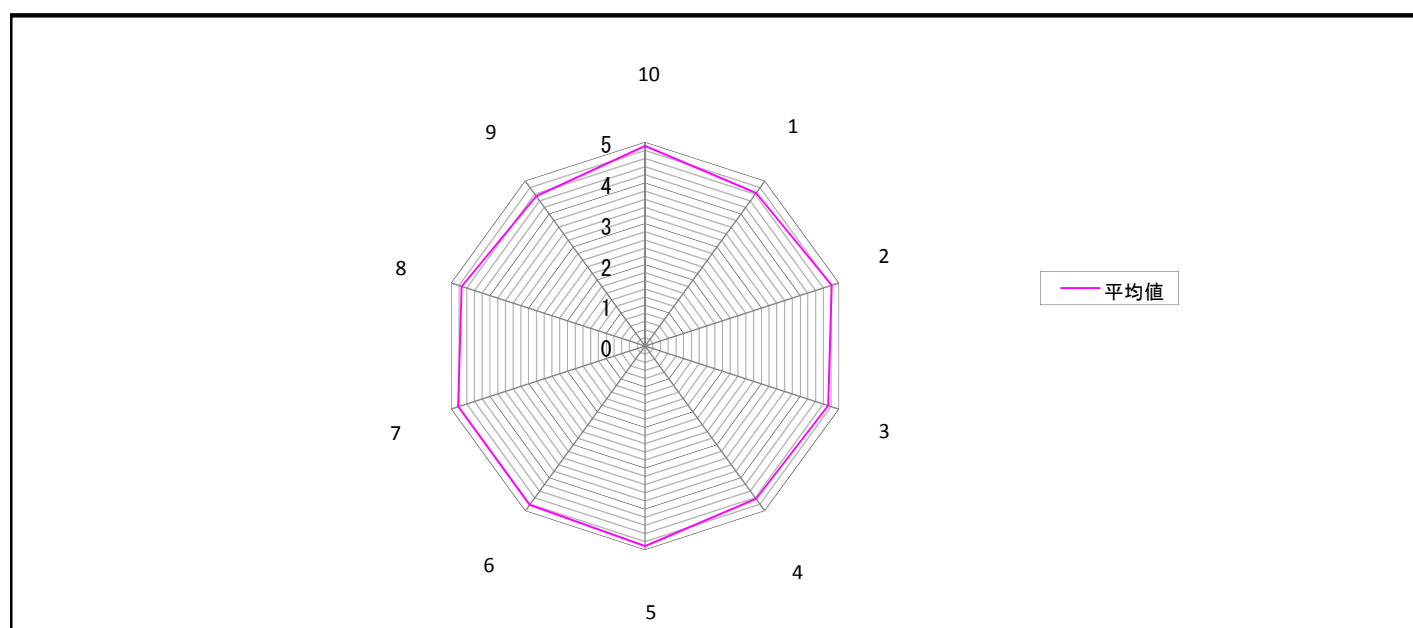
アンケートの評定に関する結果では、すべての項目において、概ね受講者の半数以上が5の「そう思う」、4の「ややそう思う」と回答しており、評定平均値も中央値3を上回っていたので、各質問項目のに関わる内容については一応の水準で達成されていたと考えられる。ただし、1の「そう思わない」や2の「あまりそう思わない」に回答した者が比較的多かった項目として、(3)「教師の実践力につながる内容であった」、(5)「授業の進む早さは適切であった」、(6)「受講生にわかりやすく説明した」、(7)「配布された資料は適切だった」、(8)板書や視聴覚機器の使用は適切であった」が挙げられるため、これらの点については今後、さらに改善が必要である。自由記述の特に改善点については、資料が提示された時間が短く、メモできなかったため、あらかじめプリントアウトしたものを配布してほしいとの意見が比較的多かったため、今後、この点についての改善が必要であると思われる。

# 結果報告書

授業科目名 人間形成文化史研究  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 梶井 一暁

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	4				4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3				4.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	4				4.6
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	10	1				4.9
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	9	2				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9	2				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	3				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	5				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	1				4.9



## 教員のコメント

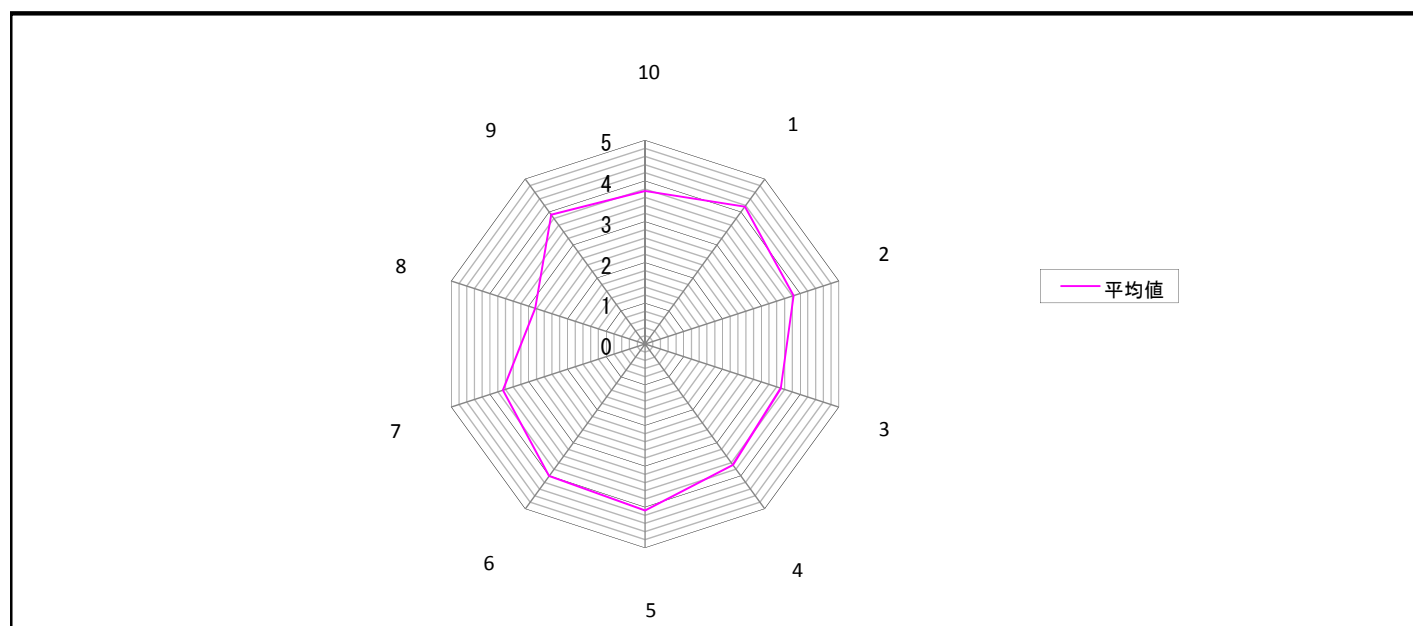
高い評価を得られたことを、さらなる改善のための積極的な土台としたいと思う。  
 (5)(7)に関して、授業者は、近年の教育文化史的研究における資料論の展開をふまえ、新たな資料(絵図や音声)を盛り込んで授業内容を構成した。これにより、やや過剰な教材提示と急いだ授業進行があったかと、自身は課題をとらえていた。多様な資料を読み解くことを建設的に楽しむ態度を有する受講者に恵まれ、今回の好意的な評価を得たと思う。  
 ひきつづき、授業改善につとめたい。

# 結果報告書

授業科目名 教育哲学研究  
 評価実施日 平成21年7月23日  
 担当教員名 木内 陽一

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	3	2	1		4.2
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	4	5			3.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	5	2		3.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3	5	1		3.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4	6	1	1		4.1
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	4	4			4.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	6	3		1	3.7
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。			11		1	2.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3	3		1	3.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	7	1	2		3.8



## 教員のコメント

この講義では、西田幾多郎『善の研究』（講談社学術文庫）を読み、毎回、1-2名にレポートしてもらい、それを手がかりに議論を深めるということを行った。特記すべきは、ドイツ人留学生マティアス・ドレフスさんに参加してもらったことだろう。参加者のレポートは、日本語と英語で作成し、留学生も内容が理解できるようにしてもらった。参加者の努力に敬意を表したい。全体的に見て、以下のような点に気づいた。第一に、回を重ねるごとに、参加者の西田哲学に対する理解が深まっていき、レジュメのレベルが、急速に上昇した。第二に、英語が堪能な受講者3名が、留学生と日本人受講者のコミュニケーションを可能ならしめ、有意義な時間となった。第三に、議論の中でとくに興味深かったのは、神の概念であった。ドレフスさんは人格神を念頭においていたようだが、西田のいう神は、実在の根底にある「統一的あるもの」であるという。こうした、比較思想的な議論が有意義であったと思う。

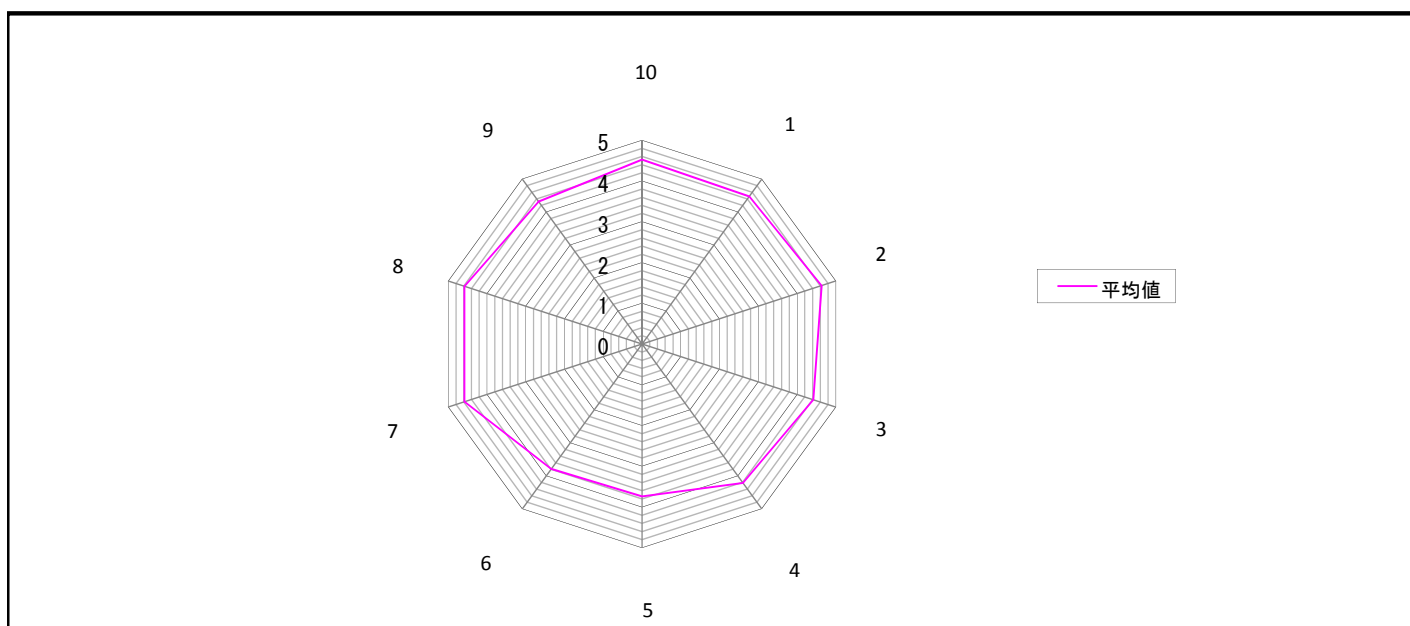


# 結果報告書

授業科目名 発達健康心理学研究  
 評価実施日 平成21年7月21日  
 担当教員名 山崎 勝之

回答者数 19 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	4	3			4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	5	1			4.6
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	4	2	1		4.4
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	3	3	2		4.2
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	5	5	8	1		3.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	5	9	2	2	1	3.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	12	6	1			4.6
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	6	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	4	3	1		4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	5	2			4.5



## 教員のコメント

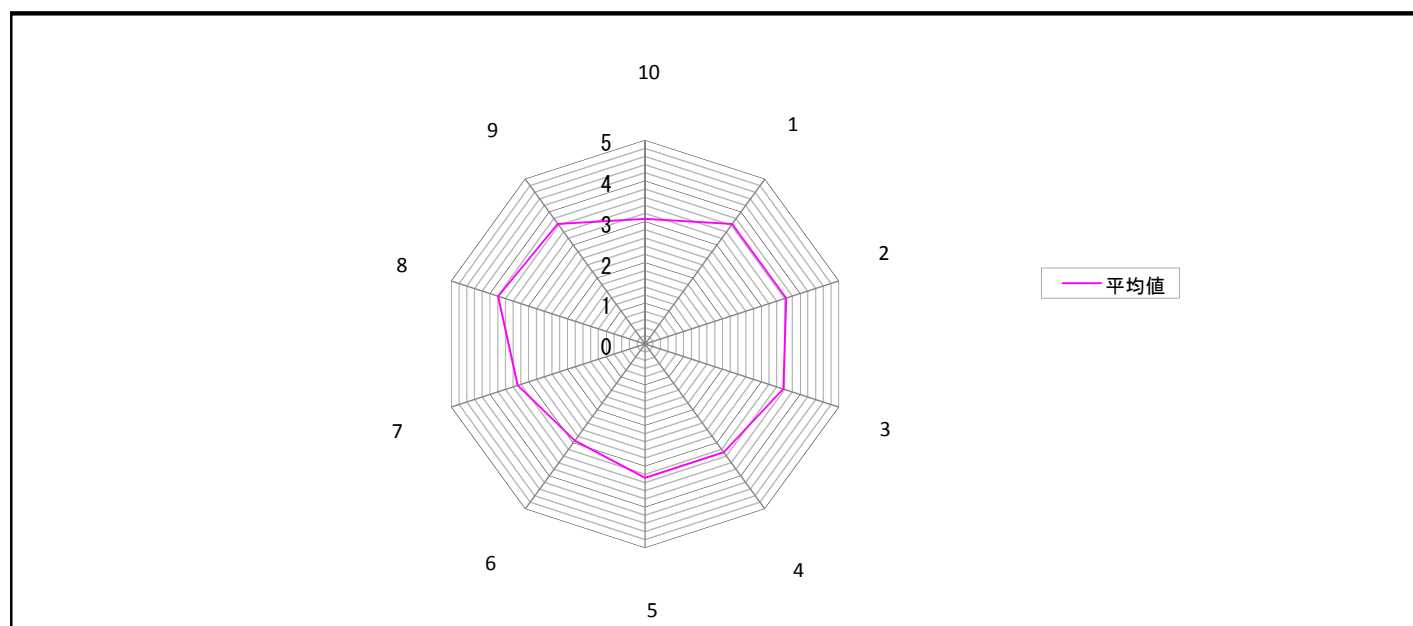
今年この授業は、討議時間を増やすことに重点を置いた。単なる知識の伝授では意味がなく、論理的な思考と発言力、そして独創性ある考えの育成を最重視した。この重点目標は、多くの学生に受け入れられ、その形成に寄与できた授業になったのではないと思われる。また、例年どおり、授業内容の水準は高く設定され、その水準を下げる方向ではなく、その水準でも理解できるように授業方法に多くの点で工夫が凝らされた。しかし、まだ理解が困難なところも少なからずあったようで、この点は今後の課題となった。真摯な受講生の授業態度にも助けられ、終始大学院らしい授業を展開できたことは幸いであり、受講生に感謝したい。

# 結果報告書

授業科目名 比較教育社会学研究  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 伴 恒信

回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	6	3	1	1	3.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	6	3	1	1	3.6
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	7	3	1	1	3.6
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	4	8		1	3.3
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	3	4	3	1	3.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2	2	5	3	2	2.9
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	4	5	2	1	3.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	7	3		1	3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	6	3	1	1	3.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2	7	1	2	3.1



## 教員のコメント

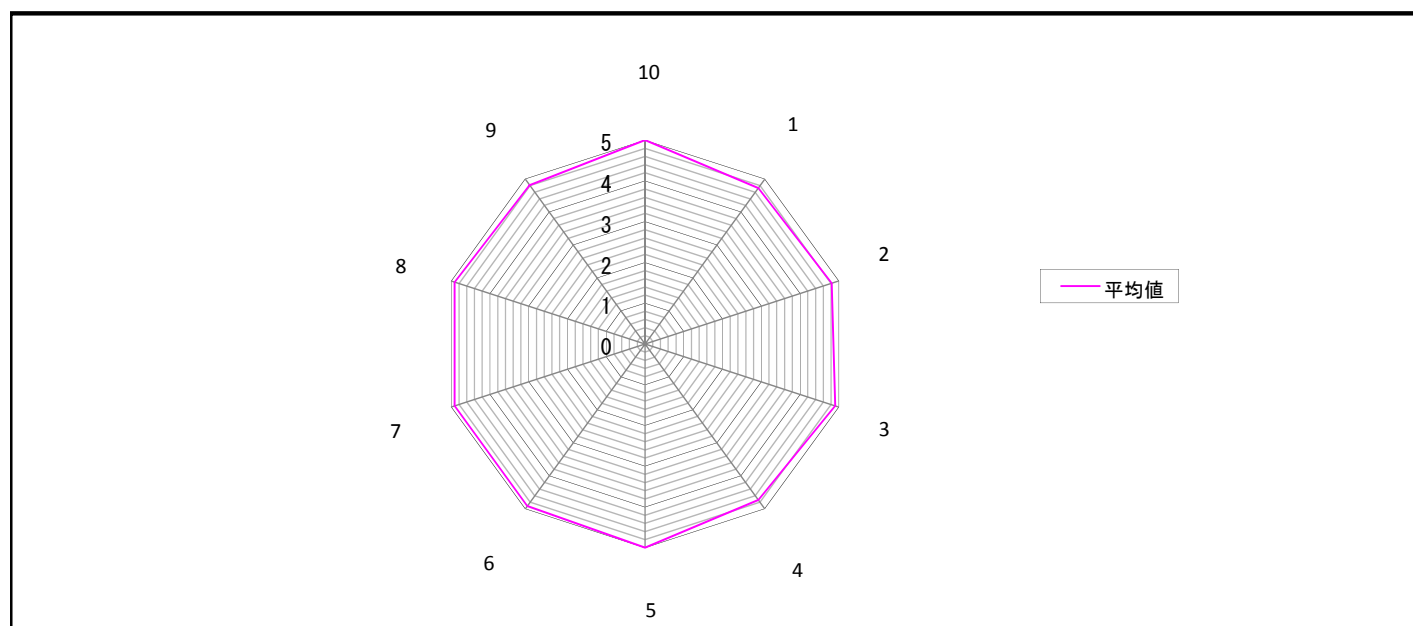
現代の教育事情や問題を国際的視点から考察することを講義の目的にして、昨年度講義者がヨーロッパやアメリカの現地で収集した最新の英文資料を教材にして直接学生自身に読ませ、発表させる授業を行った。現職教員の院生2名は多大な関心を示し、熱心な取り組みを見せてくれたが、アメリカ合衆国の首都名も初代大統領も知らない(バリと答える者もいる状態)多くの学部卒の院生にはかなり基礎的な英語の文章も読み理解できなかったようである(グループに分けて、グループごとにネットで送られてきた訳文を毎回丁寧に添削し、基礎文法のコメントまで加えたのはあったが...)。熱心に取り組んだ方の院生は、「日本や欧米を比較し、教育や社会の問題について考えるゼミであるのに、受講生に意識が低すぎる者が見られ、全体としてムードを悪くしているように思いました。受講生の問題意識が一番「問題」です。」「授業を受けてみて、大学院の学生の興味関心や学力が実に「多様」であり、講義の内容を自分のものとしてできていない学生も多く、先生が苦労されているのがよくわかりました。」と他の院生達の受講態度をアンケートに叙述する一方、「実際の英語の文献にふれてみることで、単なる知識としてでなく、その資料の背後に見える考え方に少し目が向くようになったと思います。」「「詰め込み教育」「ゆとり教育」「学力低下」等で右往左往していることも世界的な流れの中で見ていくと、何をもっと大切に考えていかなければならないのかが見えてくると感じました。」といった感想を述べ、正に講義者のこの講義に込めた真意を的確につかんでくれていたことが分かる。他方、昨今の人間形成コースでは多数派となってしまった学部卒でもともと学習意欲を持っていない者にとっては、「なぜ英訳をさせたのかわからない。」「英語を訳すことを求められても困る。」とオリジナル資料から内容を読み取り考察するという学問の基本すら通用しなくなったようである。今年の授業は学生に媚び、安易さに流れる最近の授業形態から少し学問的方向に揺り戻す試みであったが、平均点的には試みは果たせなかったようである。

# 結果報告書

授業科目名 幼年期教育学研究  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 橋川喜美代

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	3				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	3				4.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	11					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	10	1				4.9
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	10	1				4.9
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11					5.0



## 教員のコメント

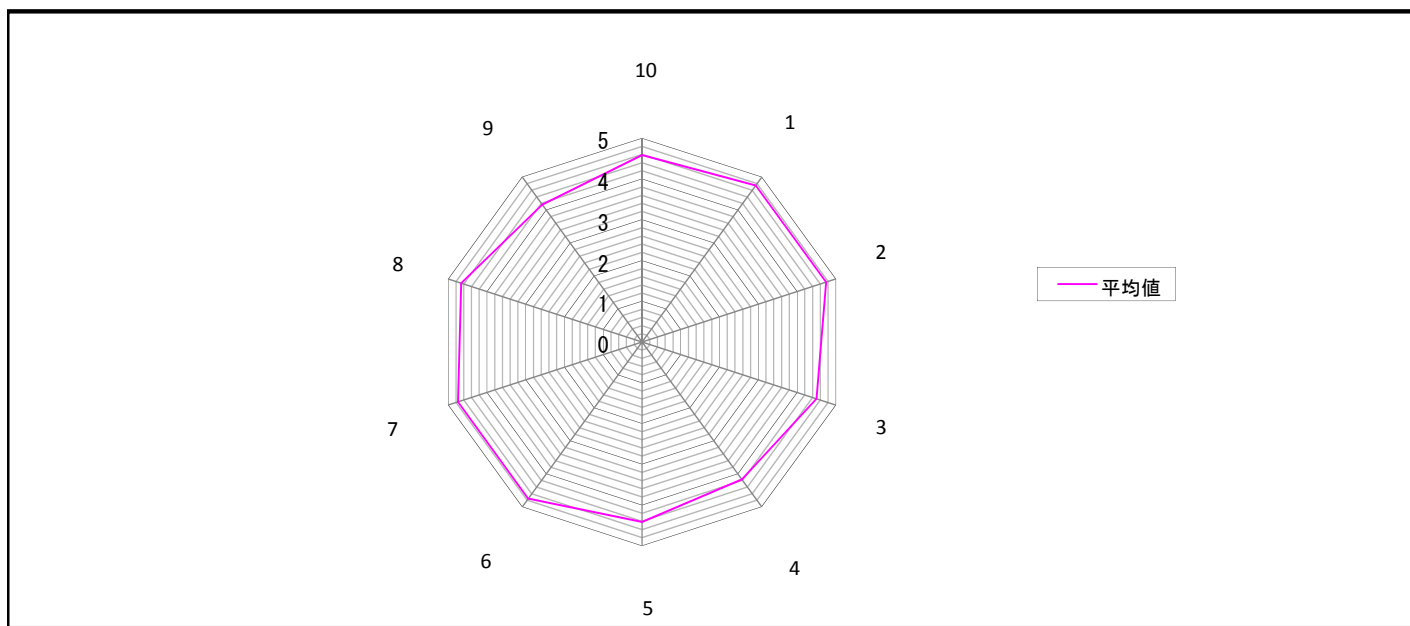
評価から判断し、この授業が内容・方法の両面において、受講者の満足を得るものであったことに安堵している。受講者がこの授業でよかったとあげている点は、①幼児教育の歴史的背景や現代の課題が学べたこと、②現場での観察ができたこと、③双方性の授業であったこと、④保育者としての基礎的な部分が学べたこと、⑤いろいろな考え方や保育の視点となっている理論について学べたこと、⑥授業内容がおもしろかったこと、⑦海外の幼児教育について学べたこと、⑧保育者から見た子どもの育ちや教育方法だけでなく、研究者としての見方を知ることができたこと、⑨保育園での観察記録をレポートにまとめ、相互に発表し合うことによって自らの保育の省察ができたこと、などであった。⑧⑨のよかった点は現場である保育園に入り観察できたことに加えて、幼児とのかかわり方や記録の分析に興味を持ったということであるとすれば、今回現場に入ったことの意味は大きい。忙しい時間を割いていただいた現場の先生に感謝する次第である。こうした評価を続けて受けるためにも、項目(1)「授業概要の適切な表現」と項目(4)「成績評価の方法の説明」について、検討しておく必要があるものと思う。授業者として、今年度は成績評価の方法を留意して説明してきたと思っているのだが、受講者の身になって検討してみることとしたい。

# 結果報告書

授業科目名 幼年期福祉研究  
 評価実施日 平成21年8月6日  
 担当教員名 木村 直子

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	3				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	3				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	4	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	4	3			4.2
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	7	3	2			4.4
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	9	3				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9	3				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	2	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	6	2			4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	3	1			4.6



## 教員のコメント

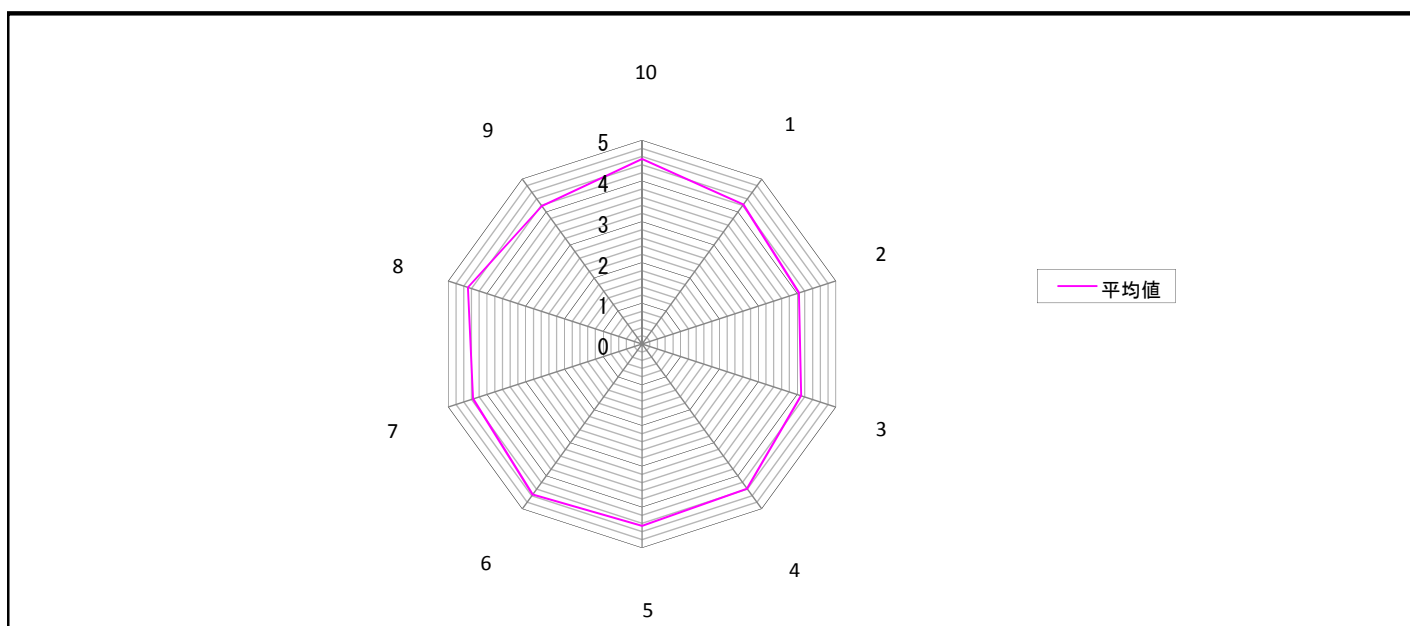
例年少人数の授業であったが、今年度は多くの方(25名)が履修してくださった。そのため部屋が狭く、受講者には不便をかける点多かった。また、アンケートを配布するのが遅く、全員にアンケートをとることができなかったことが残念である。授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができ、そのことが、総合的に多くの院生の満足に繋がったように思う。しかし、授業の進め方等詳細に見ていくと、改善の余地が残る。特に、板書や進むペースについては、より分かりやすい記述や院生のスピードに合った対応が求められているといえる。また今後の課題として、テキストや参考書などを随時紹介することによって、授業内容を補足し、院生の主体的積極的な取り組みにつながる可能性を広げていかなければならないと感じた。

# 結果報告書

授業科目名 こころの発達支援研究  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 浜崎 隆司

回答者数 39 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	15	18	6			4.2
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	15	9		1	4.1
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	20	6	1		4.1
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	20	14	5			4.4
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	23	11	5			4.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	26	9	4			4.6
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	19	15	5			4.4
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	22	14	3			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	21	4	1		4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	23	14	2			4.5



## 教員のコメント

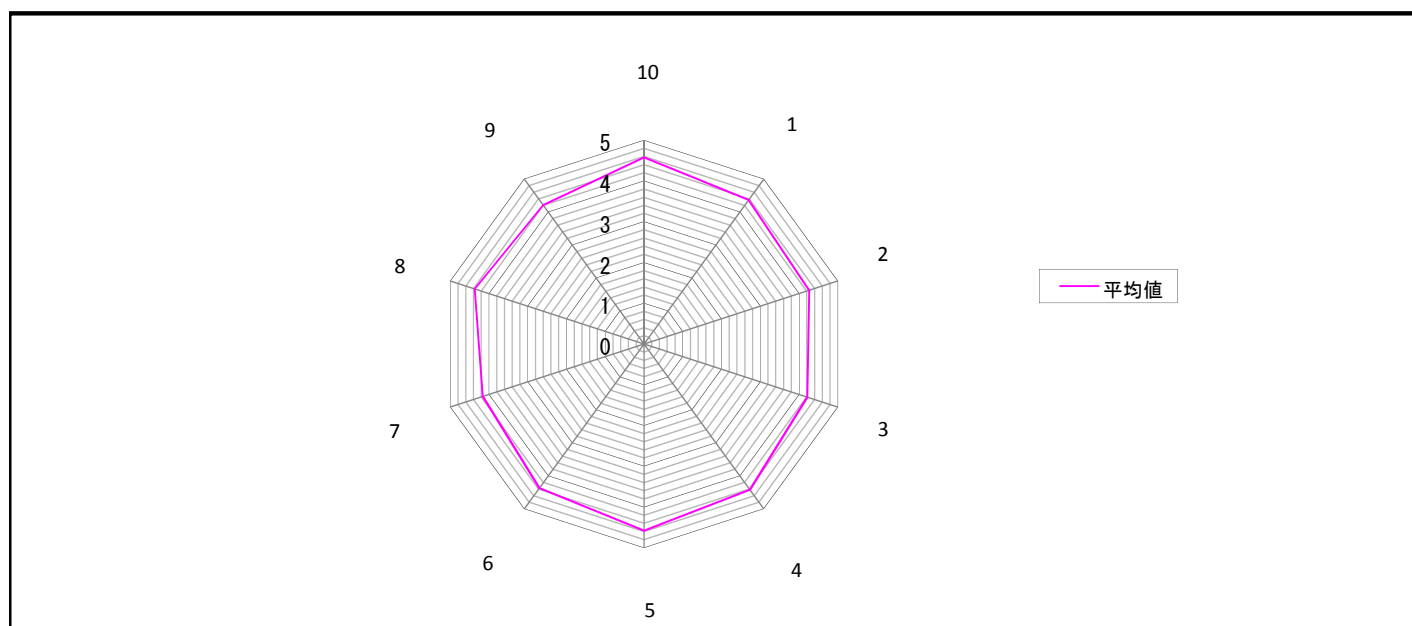
この授業は、視聴覚資料を用いて、親子関係、仲間関係、教師と生徒との関係をもとに、子どものこころの発達についての概論とその支援について心理学的視点から講義している。心理学を専攻していない院生も対象としているので、心理学的知識がなくてもわかりやすく理解できるように工夫している。今年は、講義だけでなく、実際に、子どもの遊びの発達を理解させるために、大学内で遊びの経験を通しての実践授業も初めてこころみた。その結果、授業の内容に関しては専門的知識および教師の実践力につながらないと評価するものも1名ほどいたが、その他は39名中約8割の受講生が専門的知識および教師の実践力につながると評価していた。今後も、最新のデータを取り入れながら、この内容で継続していきたいと考えている。授業の進め方については、8割～9割前後の受講生が、成績評価、進行速度、説明の仕方、資料の配布と提示について高い評価を得ていた。テキストは使用していないが、必要な資料は配布や提示は今後も継続していきたいと考えている。総合結果も平均点が4.5と高い評価であったので、今後も新しい資料やデータを用いながら最新の子どもの発達およびその支援に関する講義を展開していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 幼年発達心理研究  
 評価実施日 平成21年7月23日  
 担当教員名 田村 隆宏

回答者数 19 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	10	1			4.4
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	10	2			4.3
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	11	2			4.2
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	9	1			4.4
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	11	8				4.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	8	10	1			4.4
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	7	8	4			4.2
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	8	2			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	11	2			4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	8				4.6



## 教員のコメント

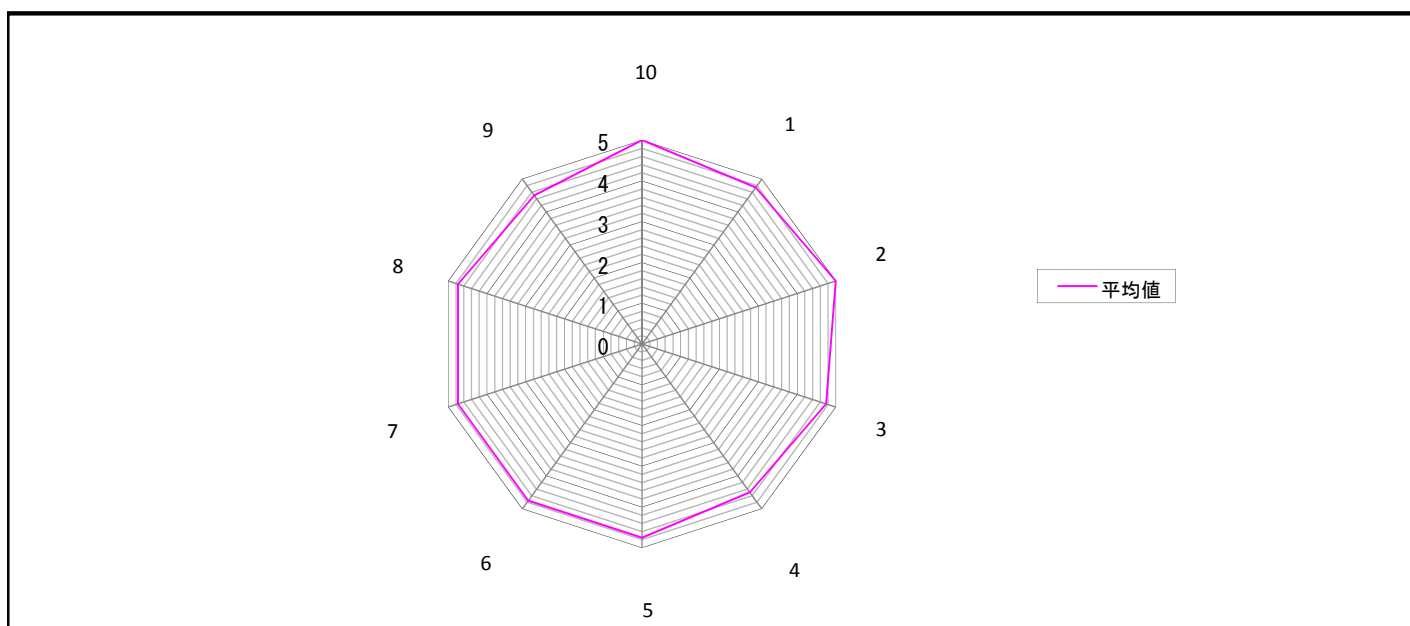
アンケートの評定に関する結果では、すべての項目において、ほとんどの受講者が5の「そう思う」、4の「ややそう思う」と回答しており、評定平均値も4を上回る比較的高いもので、各質問項目のに関わる内容についてはある程度の水準で達成されていたと考えられる。自由記述では、よかった点として、「板書をメモする時間をきちんと確保されていたのがよかった」「受講生がプレゼンすることで、自発的に理解を深めることができた」との意見が多かった。今後もこれらの点についてはさらに精錬させて改善を図りたい。改善すべき点にコメントは見られなかったため、基本的に今のやり方を進めつつ、さらに受講生の理解や学びを深める方策を探りたい。

# 結果報告書

授業科目名 幼年発達と幼児教育内容論  
 評価実施日 平成21年7月24日  
 担当教員名 塩路 晶子

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

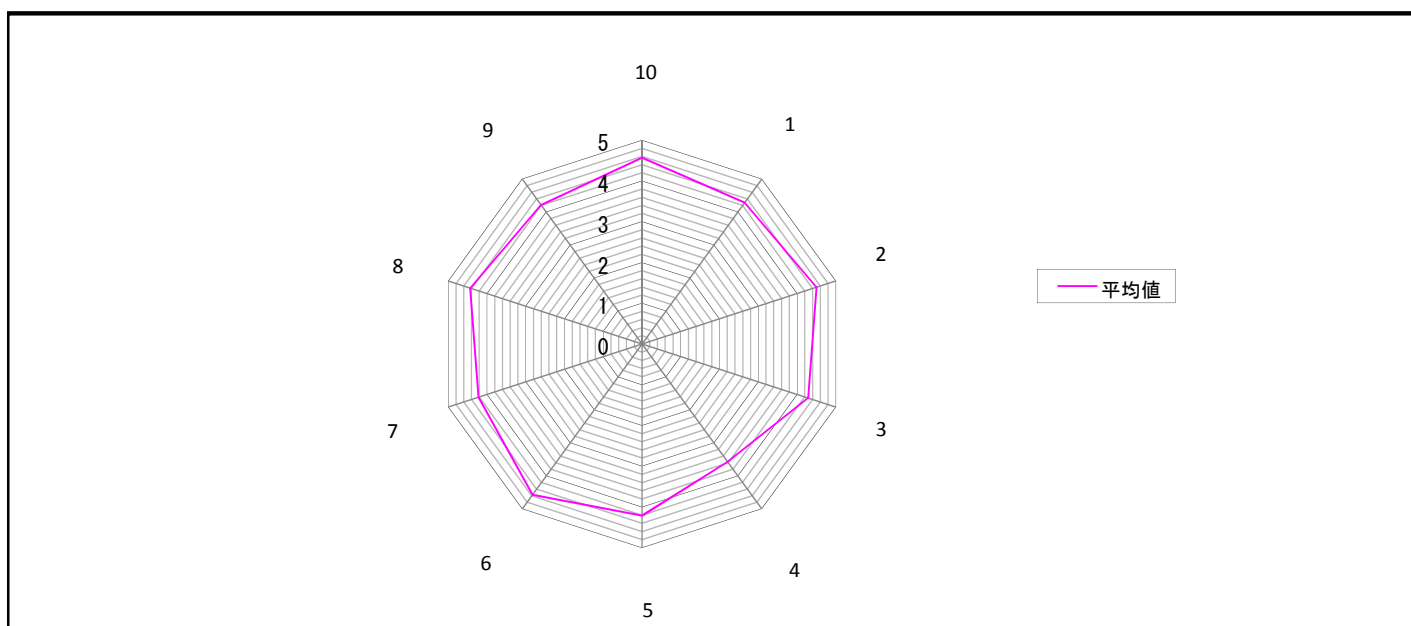
概ね良い評価をいただくことができた。  
 項目(7)(8)や自由記述にあるように、受講生は、講義中に配布した資料・文献、視聴覚教材等を通して内容理解を深めることができたようである。  
 本講義がめざしていた「子どもの生活や遊びを中心にした保育」の日本と諸外国(主にアメリカ)の保育内容を歴史的・現代的な観点から学ぶ、という目的は概ね達成され、受講生の専門的知識および教師の実践力の育成に少しは寄与できたと考えている。  
 本講義の今後の課題としては、基本的には講義のスタイルをとりつつも、幅の広いニーズをもつ受講生がより主体的に講義に参加できるように、授業方法上の工夫をしていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 総合学習総論  
 評価実施日 平成21年7月21日  
 担当教員名 小西 正雄, 谷村 千絵

回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	10				4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	7				4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	6	2			4.3
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	6	7			3.6
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4	9	1			4.2
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	8	6				4.6
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5	7	2			4.2
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	8				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	7	2			4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	6				4.6



## 教員のコメント

共同担当者のうちの1名が、出産を控えた体調の不良のため、予定よりも早めにバトンタッチがなされたため、授業計画のかなりの組み替えを余儀なくされたわりには、そこそこの評価を得て安堵している。来年度は評価方法を改善したい。

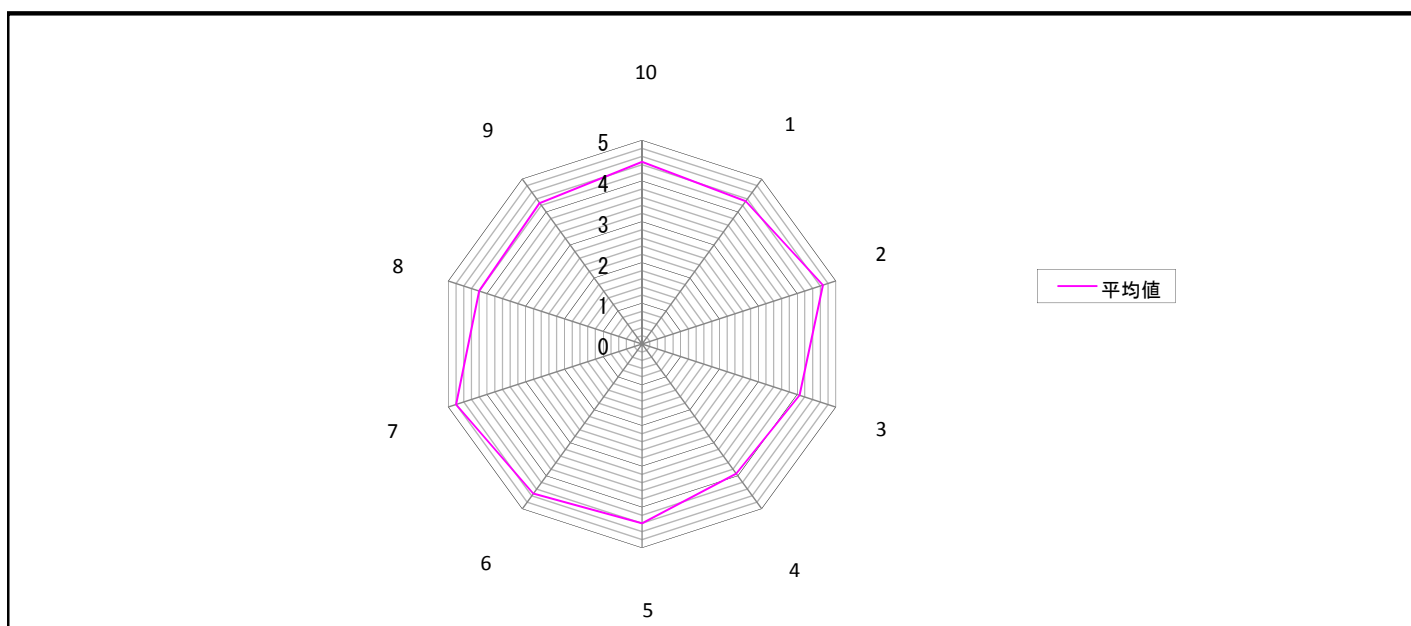


# 結果報告書

授業科目名 文化間教育演習 I (基礎研究)  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 小西 正雄

回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	4	3			4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	5				4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	5	3	1		4.1
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	6	3		1	3.9
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	7	7	1			4.4
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	9	5	1			4.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	12	3				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2	5			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	8		1		4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	5		1		4.5



## 教員のコメント

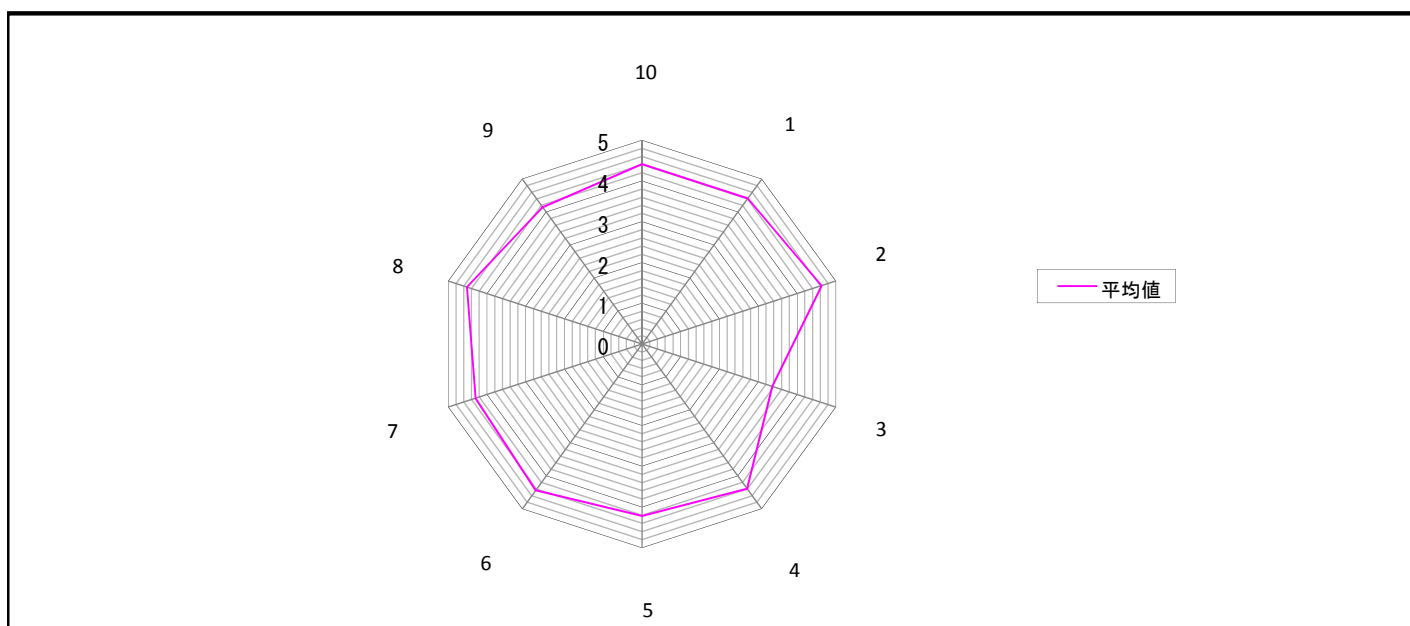
この授業は実質的には論文購読であるが、単に論文の内容理解にとどまらず論文作成のためのテクニックなど、修士論文作成に結びつく方法論の实地指導という側面ももたせたため、2, 6, 7が高得点になったものと思われる。演習のため評価に難しさが残るが、来年度はさらに工夫を加えたい。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究Ⅱ  
 評価実施日 平成21年7月24日  
 担当教員名 葛西真記子, 中津 郁子

回答者数 41 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	19	20	2			4.4
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	27	13	1			4.6
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	14	12	7	2	3.4
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	22	13	6			4.4
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	15	22	2	2		4.2
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	20	19	2			4.4
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	18	18	4	1		4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	22	18	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	24	4	1		4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	20	18	3			4.4



## 教員のコメント

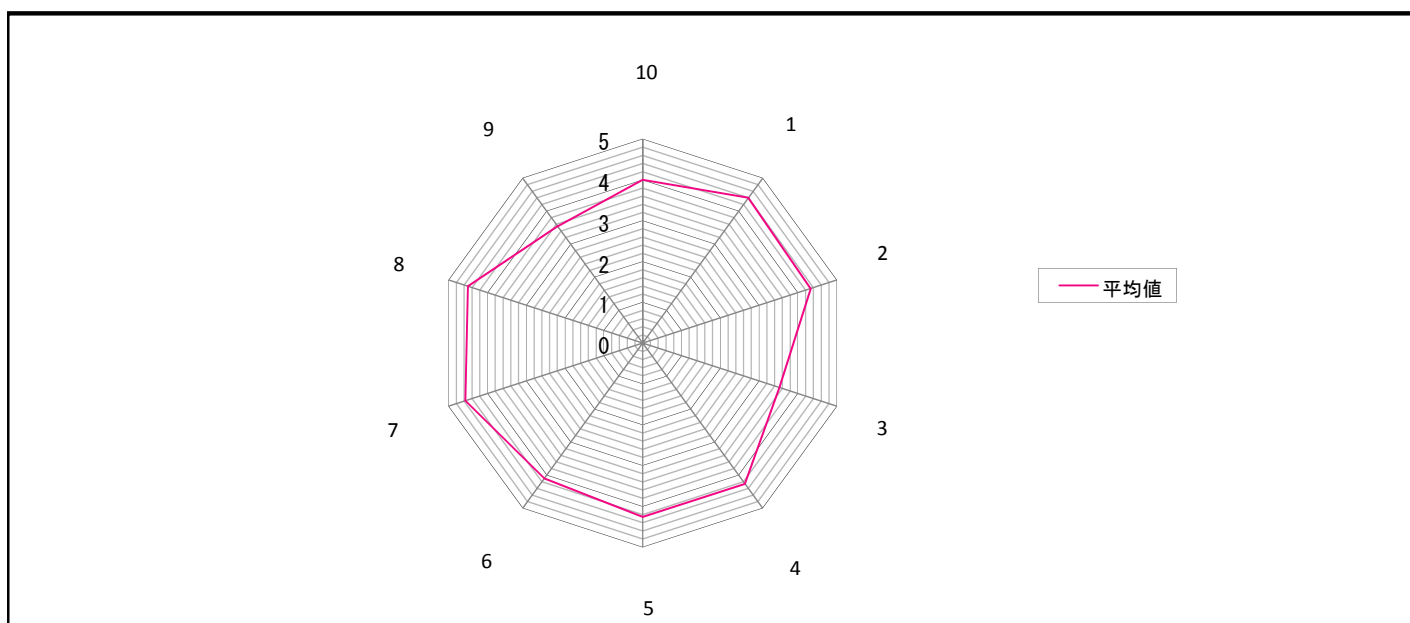
質問項目からの全体の評価は、4.4であり、概ね受講者からよい評価を得られた。その中で一番低かった(3.4)項目「教師の実践力の育成につながる内容であった」については、本授業の目的が臨床心理士を養成するために必要な知識や技術を学ぶものであるため、そのような評価につながったと思われる。講義の中では、特に、意識して、現職教員が学校現場でかかわる可能性のある児童生徒や保護者、他の教職員との連携、問題への対応についての講義もしたが、物足りなかったか、あるいは、受講生の中で、現職の教員は、4名だけなので、他の受講生は、この目的で授業をうけていないため、低くなったとも考えられる。自由記述からは、前半の中津担当分については、「絵本・視聴覚機器等の使用でわかりやすかった。」「もっと子育て支援について聞きたかった。」など肯定的なものが多かった。後半の葛西担当分については、「具体的な事例をもとにした内容でわかりやすかった。」「精神分析の理論をかみ砕いて説明してくれてよくわかった。」「パワーポイントの資料がわかりやすかった。」など肯定的なもの、改善点として、「1年の後期から1年間くらいかけてこの授業をしてほしかった。」「時間が短かった」というものもあった。この点については、カリキュラムの問題であるので、コースで対応を考えたい。また、別に、「1時間目の授業が8時からあったので、集中力が続かなかった。」というのが、数名おり、この点についても、なんらかの対応を考えたいと思う。

# 結果報告書

授業科目名 学校精神保健学研究  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 今田 雄三

回答者数 42 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	22	16	3	1		4.4
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	21	16	3	2		4.3
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	22	9	6	1	3.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	19	16	6	1		4.3
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	22	10	9	1		4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	17	16	4	3	1	4.1
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	28	11	2	1		4.6
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	24	16	1	1		4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	12	16	4	1	3.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	15	14	11	2		4.0



## 教員のコメント

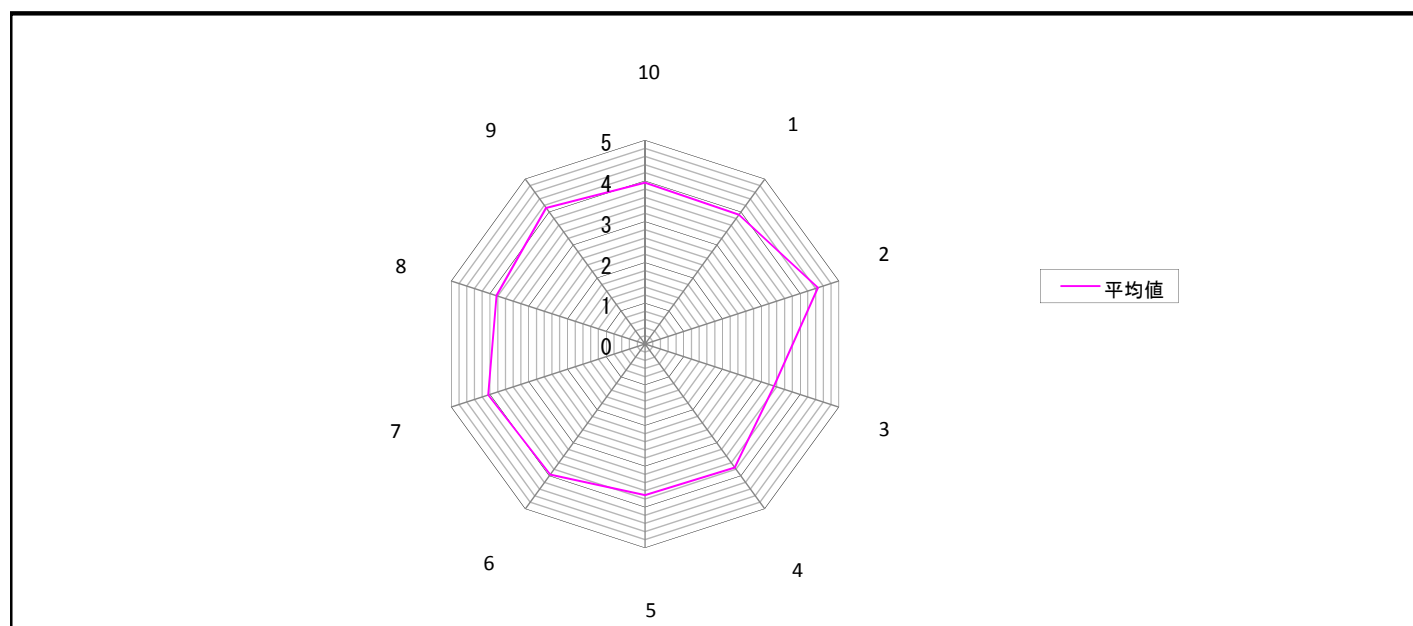
総合評価を含め、質問項目10項目中の8項目において、評価の平均値が4.0点以上となっており、本授業は受講者から高い評価を得たものとする。特に配付資料や視聴覚機器の使用に関する項目では4.5点以上の評価を得ており、担当教員が本授業に関して教材の準備に力点を置いて臨んでいたことが十分受講生に伝わり、評価されたものと思われる結果であった。なお、(3)「教師の実践力につながる内容であった」および(9)「授業に主体的・積極的に取り組んだ」の2項目についてはそれぞれ評価の平均点が3.5点となっており、他の項目に比して相対的にやや低い評価となっていた。今後はより学校現場における実践や学童期・思春期の実際の相談事例との関連を意識出来る授業展開を工夫するとともに、受講者が主体的に取り組める短い演習等の要素を授業に取り入れることも検討していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理面接研究Ⅱ  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 粟飯原良造

回答者数 25 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	11	1	3	1	1	3.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15	6	2	1		1	4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	8	8		4	1	3.3
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	5	5	1	3	1	3.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	7	7	7	2	1	1	3.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	9	9	3	2	1	1	4.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	10	10	1	1	2	1	4.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	11	5	1	1	1	3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	14	2	1		1	4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	8	3	1	2	1	4.0



## 教員のコメント

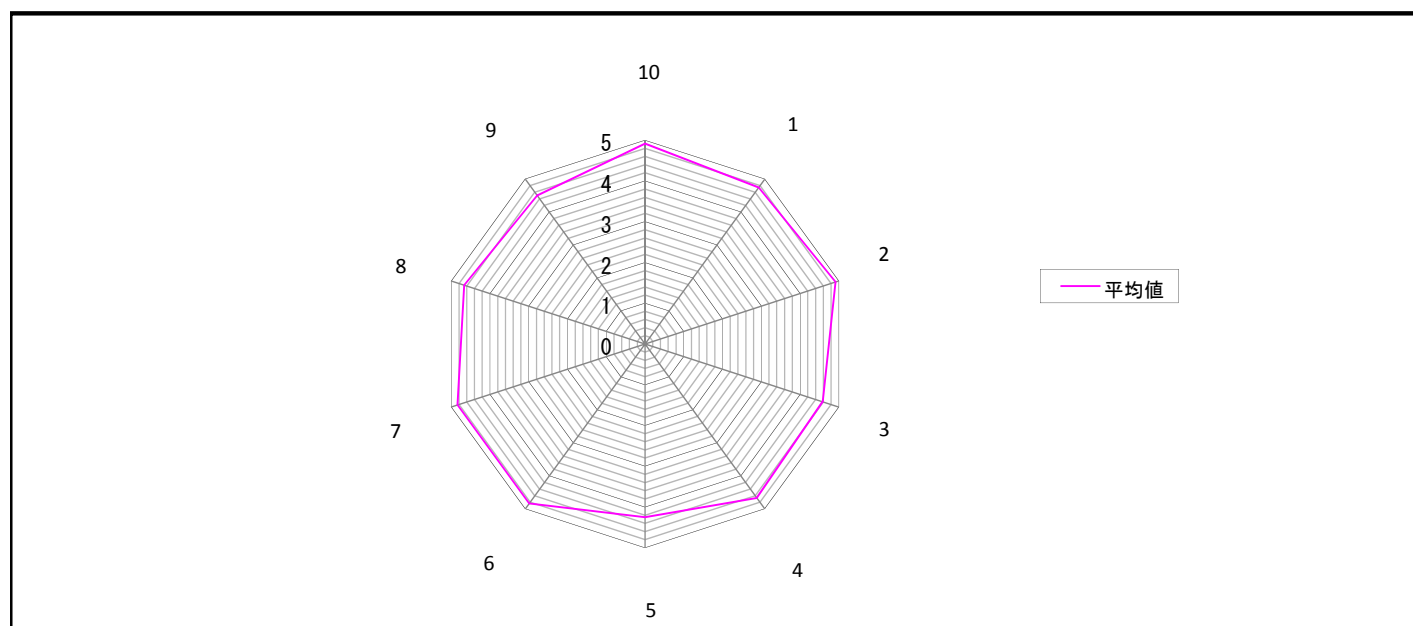
回答者25名中1名は全項目に回答していなかったが、他の24名は全項目に回答していたので、回答があった24名で検討した。総合評価では24名中18名(75%)が受講してよかった、ややそう思うと回答したことから、ほぼ授業は満足な成果を得たと考えられる。その理由として、積極的に授業に取り組んでいたと回答した受講生は24名中21名で、教員の目からは、1～2名を除く全受講生が授業に積極的に取り組んでいたため、受講生の自分を厳しく見る目で教員の授業にも厳しい目で評価してくれた結果であると考えられる。評価が低かった「教員の実践力の育成」については、本授業の目的とは違った質問項目でありながらも3.3であったことは高く評価できた。他の項目は3.8～4.5であり、とくに「専門知識を深める」は4.5と最も高く、本授業の専門性育成の目的を達成できたと考えられる。本授業に「積極的に・主体的に取り組んだ」にそう思う、ややそう思うと答えた21名の授業評価は、「受講してよかった」と思う、ややそう思う合わせて18名、どちらとも言えない2名、そう思わない1名であった。そう思わないと思った1名を詳しく見ると、「授業に積極的に・主体的に取り組んだ」にややそう思うと答え、他の質問項目にはあまりそう思わない、そう思わないと答えていた。本授業に「積極的に・主体的に取り組んだ」にどちらとも言えない、あまりそう思わないと答えた3名は、「受講してよかった」には、どちらとも言えない1名、あまりそう思わない1名、そう思わない1名であった。このことから、積極的に授業に取り組む受講生には好評であるので、本授業に対して積極的に・主体的に取り組む姿勢を受講生がとれるように工夫することが教員に求められる。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育学研究論 I  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 八幡ゆかり

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	3				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1				4.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	5				4.6
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	4				4.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4	7	1			4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	10	2				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	10	2				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	4				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	1				4.9



## 教員のコメント

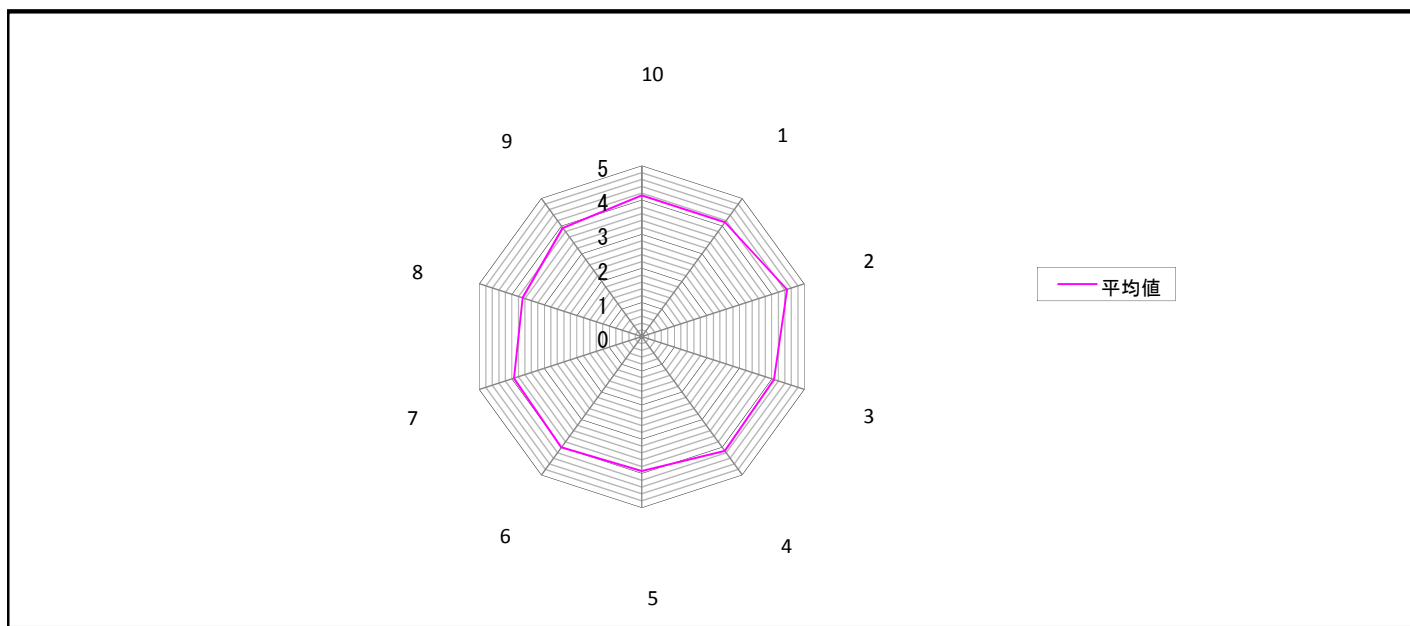
総合評価が、4.9であったことから、本授業について受講者の満足度は高かったと考えられた。その理由について考えるために、各項目について検討してみた。まず初めに、本授業科目の授業区分が専門科目に位置していることから、該当する項目「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」の評価をみると、4.9と、全項目中、最も高かった。また、本学が重視している「(4)教師の実践力の育成に役立つ内容であった」の評価は4.6であった。そして、本授業では学生が主体的に学ぶことを意図したが、それに該当する項目「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」の評価が4.5であった。このように、専門性、実践力、主体性、といった3つの視点において高得点を示していたことが総合評価の高さにつながったと考えられた。今後も、これら3つの視点を念頭に置き、授業内容を計画していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育学習心理学研究論  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 島田 恭仁

回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	9	2			4.1
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	8				4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	9	1	1		4.1
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	5	4			4.1
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4	6	5			3.9
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	8	2	1		4.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	6	5			3.9
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	3	7	1		3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	10	3			3.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	9	2			4.1



## 教員のコメント

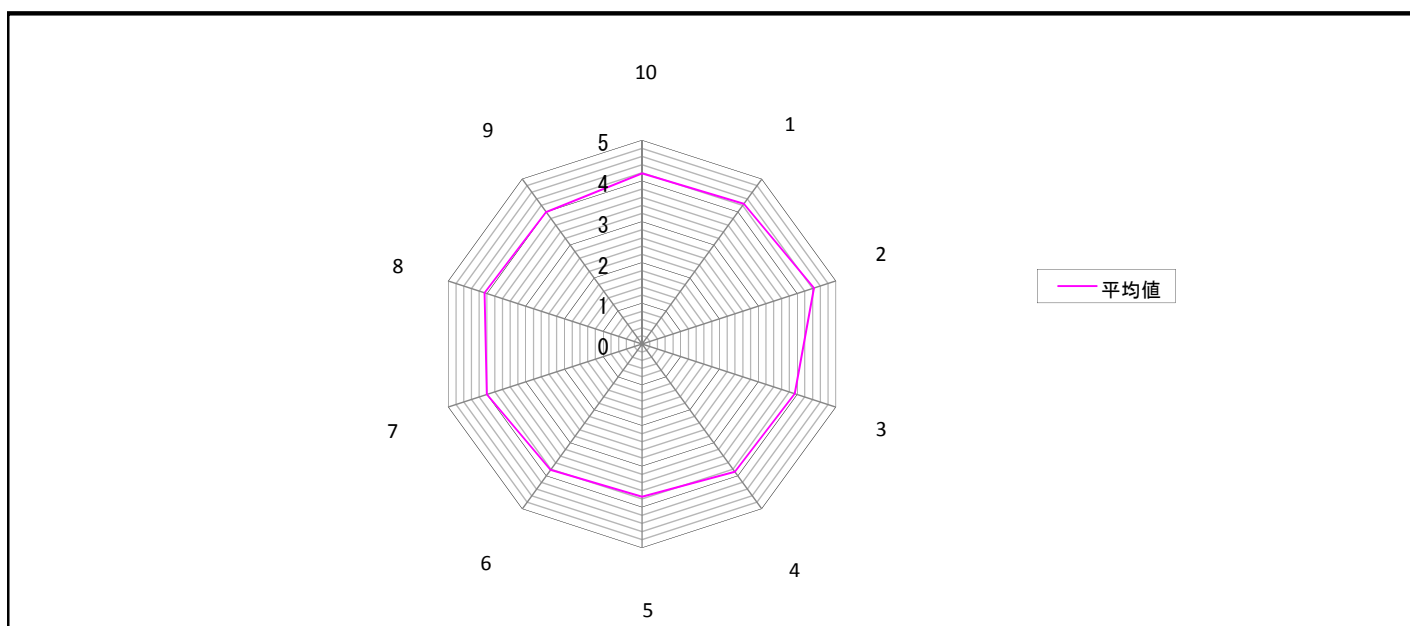
問2で受講生15名中15名全員が、5または4の高い評価を行ったことから、本講が受講生の専門的知識を深めるのに役立つ内容だったことが分かった。知的障害児と発達障害児における学習困難の諸相について、心理学の実験データに基づいた理論的な知見を紹介しただけでなく、具体的なアセスメント法と事例についても詳述したことにより、教員としての専門的な知識・技能を求めるニーズに応えることができたと考えられる。また問3でも15名中13名が高い評価を行ったことから、教師としての実践力の育成にも役立つことが分かった。しかしながら、問8では3の評価を行った受講生が多く、中には2の評価を行った者もいたことから、今後は特に視聴覚機器の利用についての工夫が必要であると考えられた。次年度は、パワーポイントを使用して、個別指導計画に基づいて作成した教材の例を具体的に紹介するなど、授業の進め方を工夫したい。

# 結果報告書

授業科目名 発達障害児生理・発達学研究  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 津田 芳見

回答者数 16 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	10	1			4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	9				4.4
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	7	5			3.9
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	8	5			3.9
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	8	6			3.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	1	11	4			3.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	10	3			4.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	9	3			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	6	5			4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	11	1			4.2



## 教員のコメント

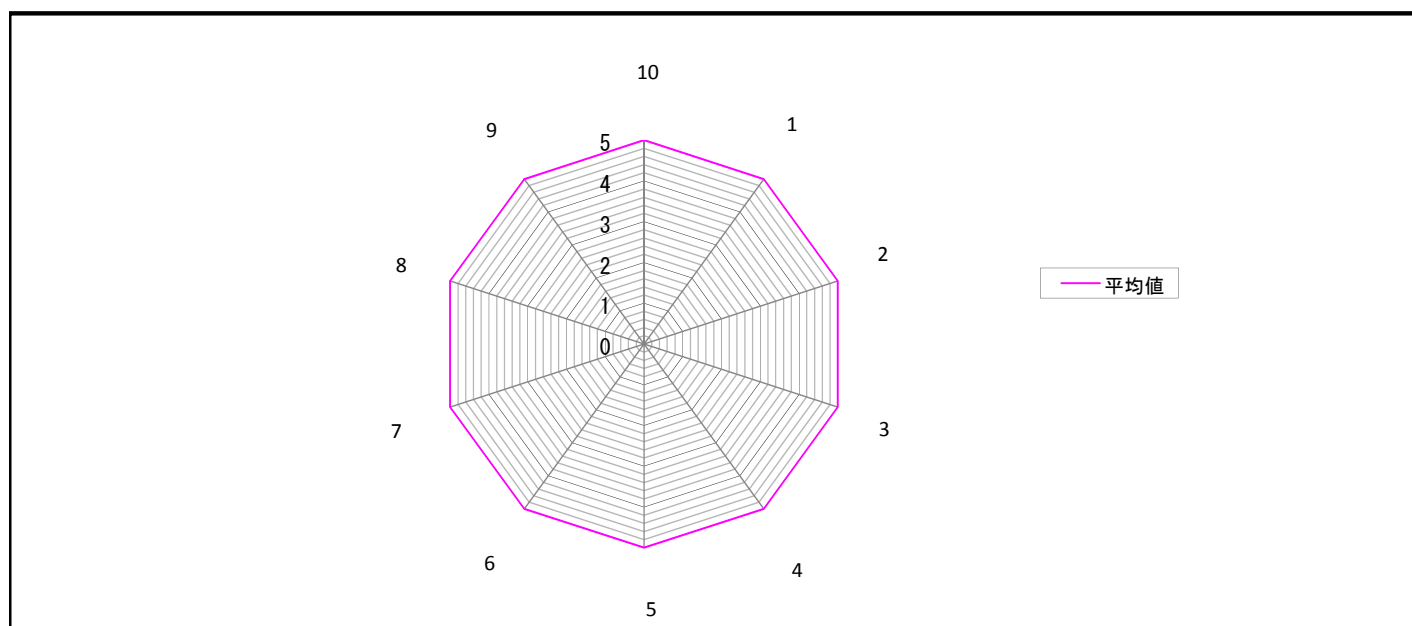
授業の内容については、概要、専門的知識、実践力の育成など、おおむね高かった。授業の進め方については、ビデオや、DVDを使用したことが、評判がよかった。授業への取り組みは、熱心に主体的に取り組んでくれた人が多かった。この授業は、本来、特別支援教育のベースとなる障害児発達生理・発達学研究についての講義であるため、学生側の理解度には、参加の積極性についてはバラツキが多いと考えられるが、よく学んでくれていると思われる。発達障害児の生理的・病理的特性を理解して、研究にどう取り組むか、今後の授業に反映させていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター概論  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 井上とも子

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



## 教員のコメント

受講生は、特別支援教育コーディネーター養成分野の3名、聴講生が7名の授業であった。どの受講者も非常に熱心に取り組み、かせられた課題に対しても真摯な態度でレポートし発表できていた。このレポートによって、自ら調べ、学ぶ姿勢、コーディネーターとして重要な主体性が培われたものと思われる。また、発表の際の視覚的プレゼンテーションに工夫が見られ、コーディネーターとして必要な資質における「校内委員会の運営・会議の促進」に関する資質もコーディネーターとしての基礎的知識・理解と共に高まったものと思われる。しかし、発表以外に、受講者の意見や考えを引き出す機会が少なく、「学び合う」姿勢に欠けていた面もあることは、否めず、来年度の課題としたい。教育現場の実態を含めた話題の展開に努めた点において、自由記述欄で支持されており、来年度も、単なる概論ではなく、実践に結びつける方法論も含めながら授業を展開していきたい。

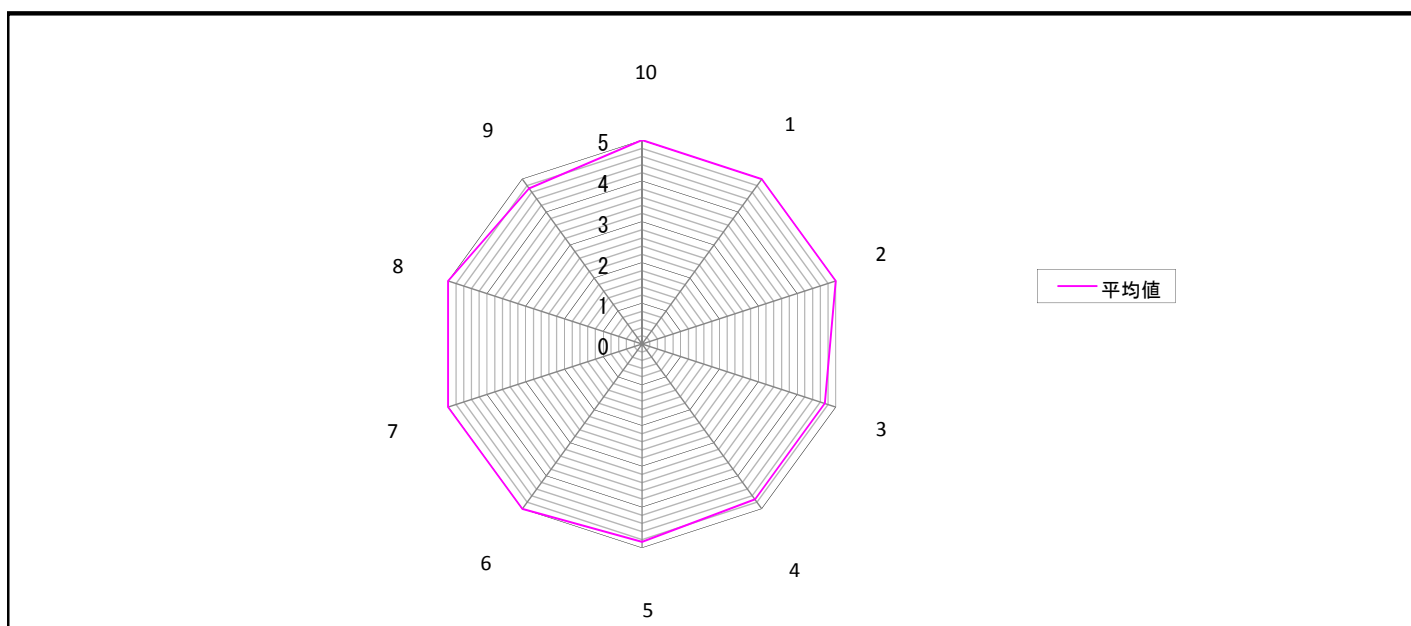


# 結果報告書

授業科目名 日本古典語研究  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 原 卓志

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2				4.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	6	1				4.9
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



## 教員のコメント

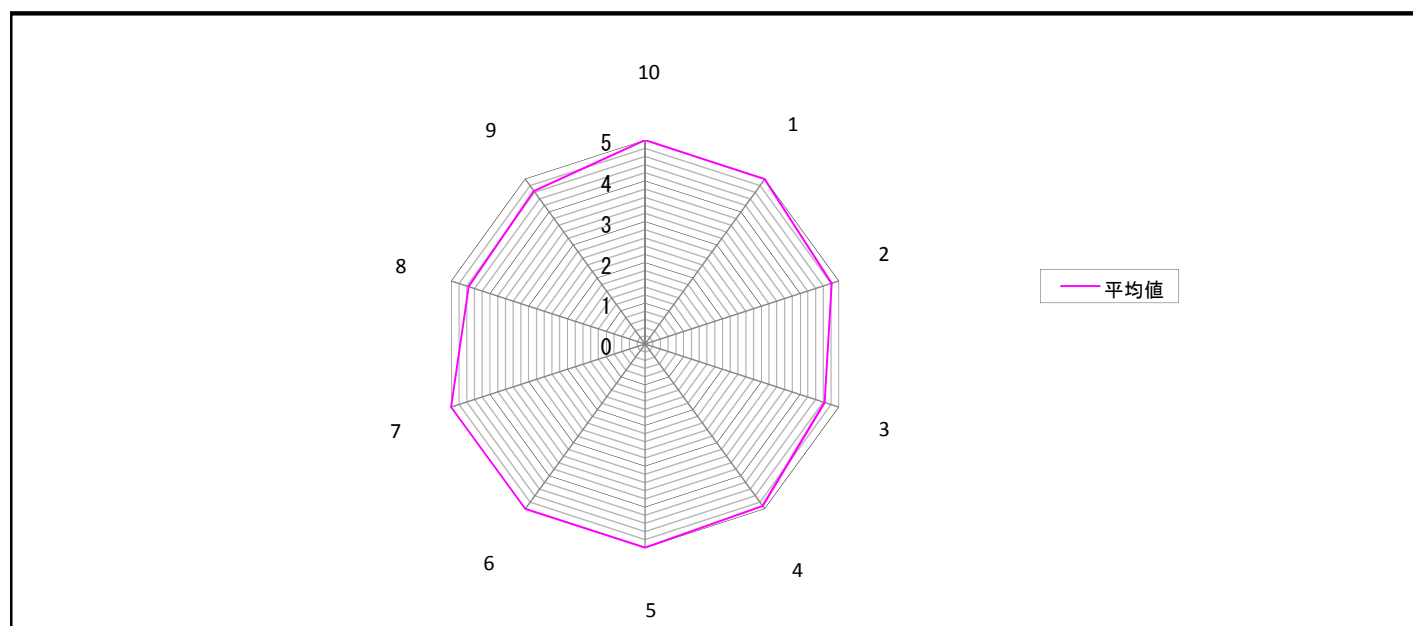
お世辞に近いものもあるのだろうが、あまりにも高い評価を得て、コメントのしようがない。熱心に取り組む受講生とのディスカッションを通して、新しい発見をすることもあり、非常に楽しく『平家物語』を読むことができた。担当者としては、受講生諸君にお礼を言いたいくらいである。このたびの高評価によって天狗にならぬよう自戒しつつ、来期の授業にも取り組んでいきたい。

# 結果報告書

授業科目名 現代日本語研究  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 茂木 俊伸

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	4				4.6
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	1				4.9
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	11					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	11					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	11					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	3	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11					5.0



## 教員のコメント

本授業では、現代日本語の語彙・文法などに関する諸問題を題材としながら、ことばの分析・研究において必要となる視点や技術に対する理解を深め、これらを獲得することを主な目標とし、講義を行った。受講者数は11名(+聴講3名)であった。授業評価の総合評価は5.0、全項目の平均値は4.85であり、授業のねらいと方法については概ね高く評価されたと考えられる。「もっともこの授業を受けたいですが、15回だけで終わってしまいました」というコメントは、授業担当者としてうれしいかぎりである。

今年度は特に受講者の意欲の高さを感じたが、このことは項目9の評価(4.64)にも表れている。また、例年評価が分かれる項目3も、今年度は比較的高い評価(4.64)であった。授業で扱った内容を単なる技術として理解するのではなく、各自の専門分野や実践に活かすために再解釈しながら受講できていたためだと思われるが、このことも受講者の意欲の表れと解釈できる。

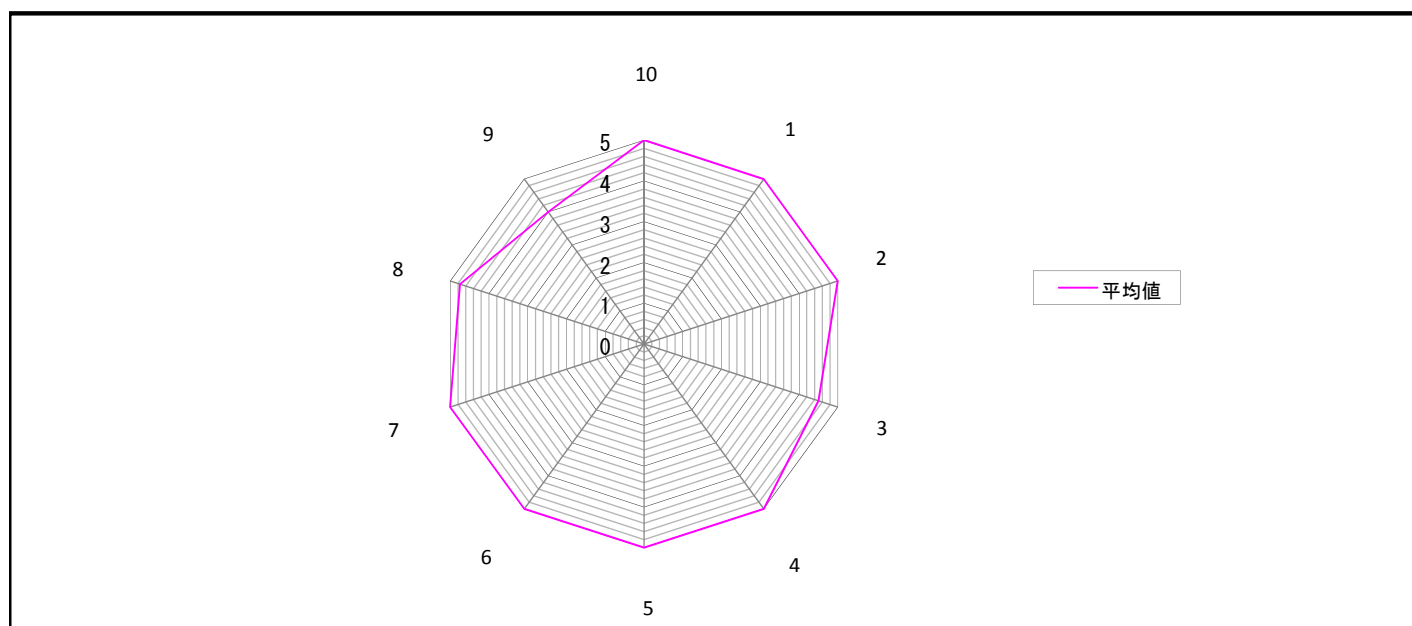
最も平均値が低かった項目8(4.55)については、主に板書の問題だと認識している。意識して改善していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本文学研究 I  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 野口 哲也

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2		2			4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

受講者が少数だったこともあり、概ね好評価を得られた。自由記述による回答においても、時間をかけて文学作品を読むという作業自体に高い満足度が示されている。

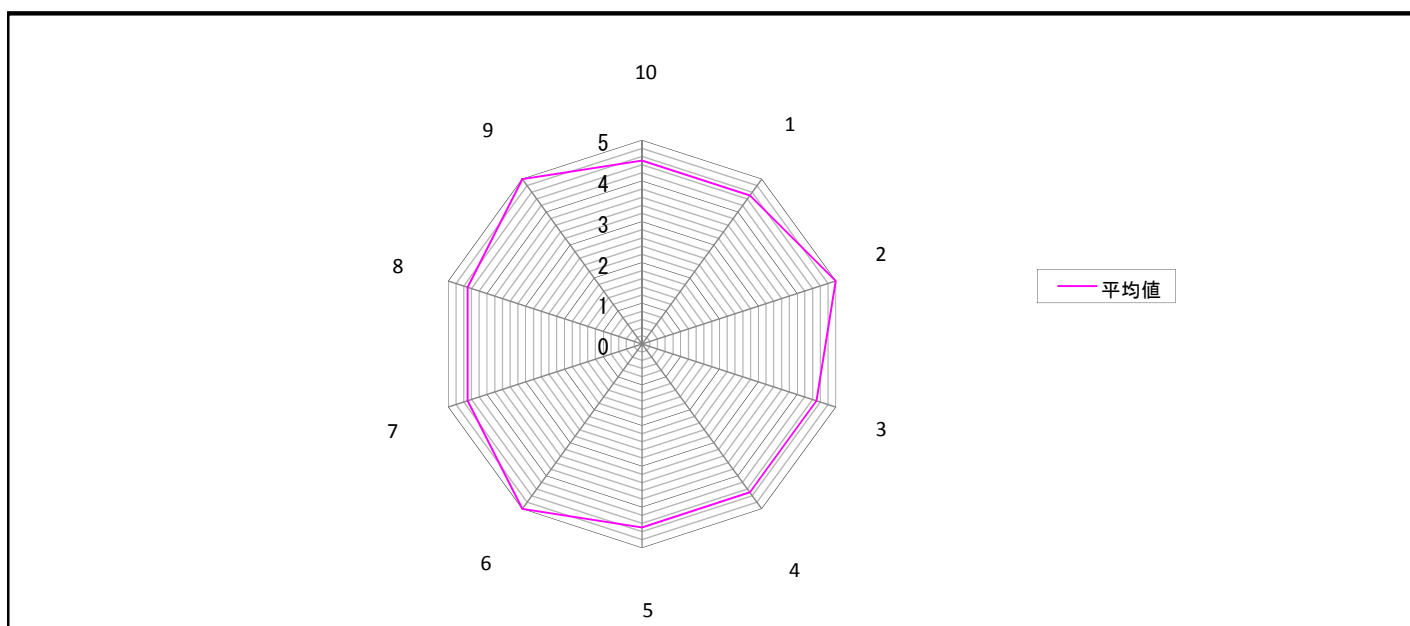
ただし、授業に対する主体的な取り組み(9)という点では若干の問題が残されていることが分かる。特に少数名で行った本授業では、受講者自身による発言・発表をはじめ、より積極的な学習活動を展開する余地があったはずである。講義科目ではあるが、双方向的な授業形態も視野に入れつつ、次年度以降の改善を期することとしたい。

# 結果報告書

授業科目名 言語教育基礎論 I  
 評価実施日 平成21年7月23日  
 担当教員名 原 卓志, 茂木 俊伸

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



## 教員のコメント

受講生わずかに2名というこじんまりとした授業であった。その2名の評価が、このように高かったことは担当者として喜ばしく感じられる。

特に、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」という項目の評価が4.5であったことは、実践力の基礎となることを授業内容にするという本授業の趣旨が受講生に伝わったことを示していると思われる。

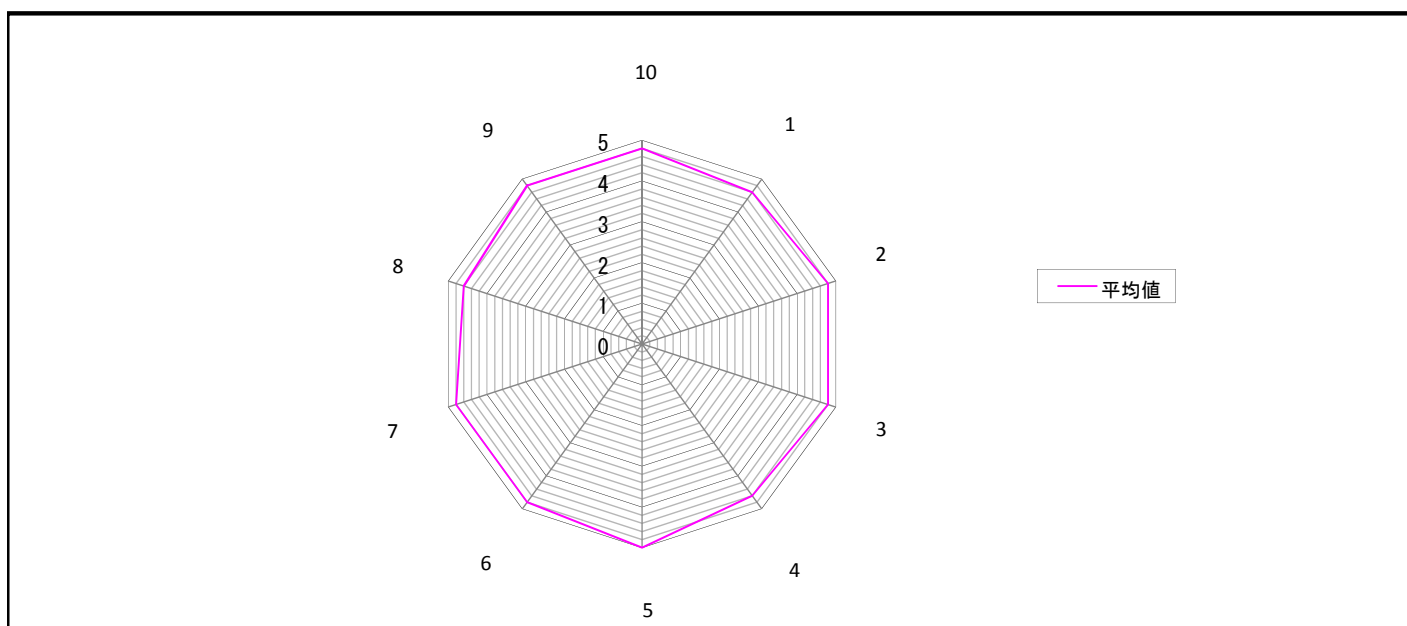
今後は、如何にして受講生を増やすかということが課題となる。特に、本授業が英語科と国語科との合同授業であるが故に、英語に対する苦手意識から受講を躊躇する様子がかがわれる。担当者間の連携を深め、英語・日本語の違いをこえた「言語の教育」という大きな視野と広がりを持った授業内容を開発していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語教育学研究  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 小野由美子

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2				4.6
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



## 教員のコメント

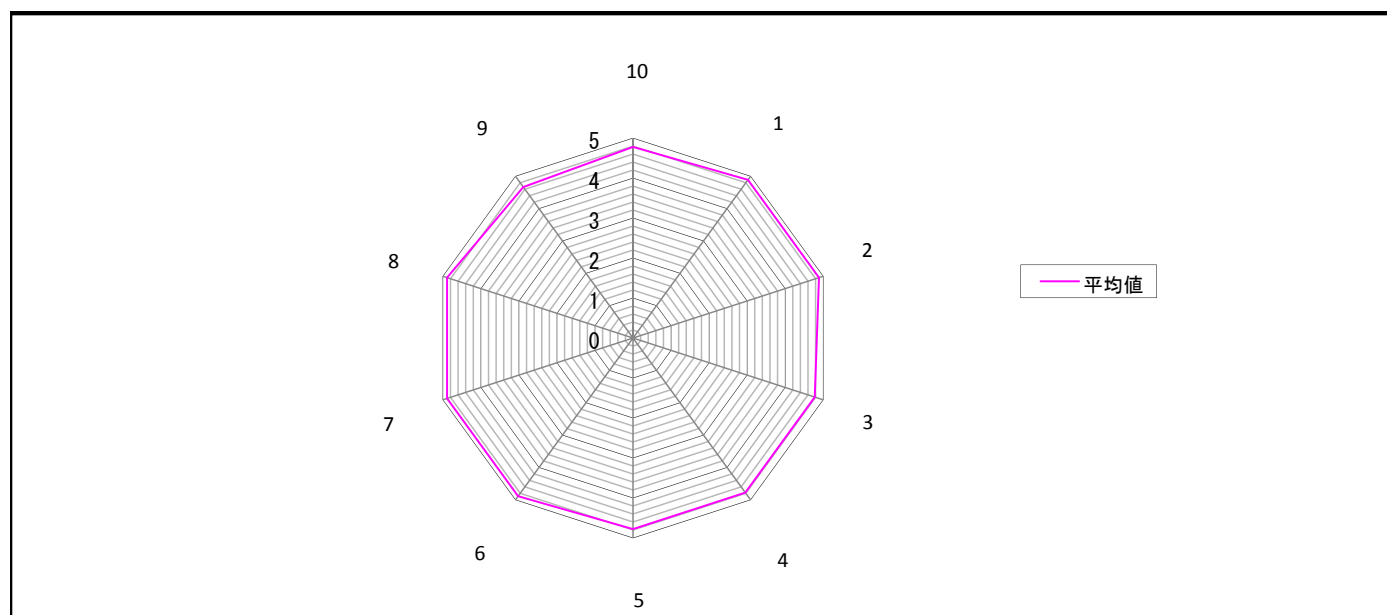
本講義では担当教員が行なう講義の他に日本語教育学に関わる専門家を特別講師として招き、学生に対して幅広い知識を体得させ、さらに学生同士でのグループディスカッションを毎授業行うことで、学生の理解が深まったものと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 日本語文法研究  
 評価実施日 平成21年7月29日  
 担当教員名 永田 良太

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				1	4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1				1	4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2				1	4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8		1			1	4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	2				1	4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1				1	4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1				1	4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1				1	4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3				1	4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	2				1	4.8



## 教員のコメント

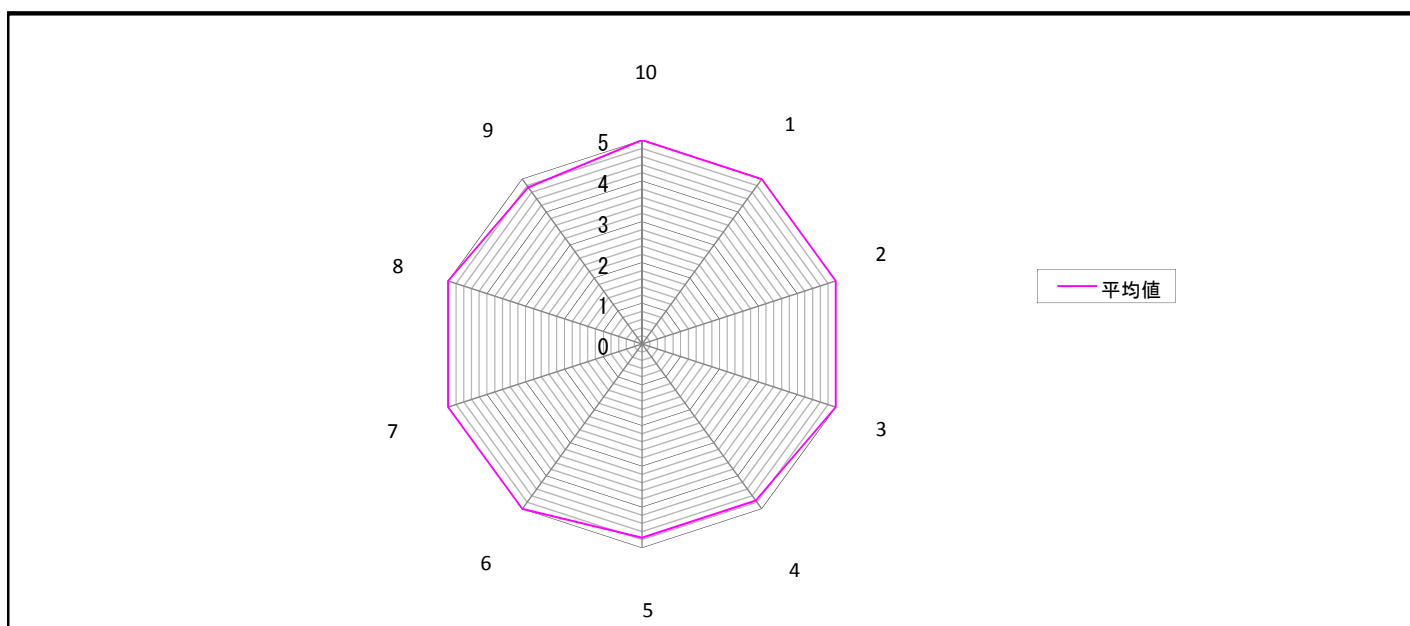
本授業は、日本語の文法規則を意識化するとともに、日本語教師として必要な文法的知識を身につけることを目標とした。今回の評価結果を見ると、いずれの項目も高い評価を得ており、本授業に対して受講者自身も達成感を感じているものと思われるが、今後の課題として、項目(3)「実践力の育成」、項目(5)「授業の進む速さ」、項目(9)「授業への主体的な参加」という3点が挙げられる。特に、「実践力の育成」に関して、日本語学習者でもある留学生の意見をもとに、指導上の問題点について言及したが、今後は教科書や教材を分析するなど、さらに実践を意識した授業作りに努めたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語音声表現研究  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 永田 良太

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					2	5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					2	5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					2	5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				2	4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				2	4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					2	5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					2	5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					2	5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				2	4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					2	5.0



## 教員のコメント

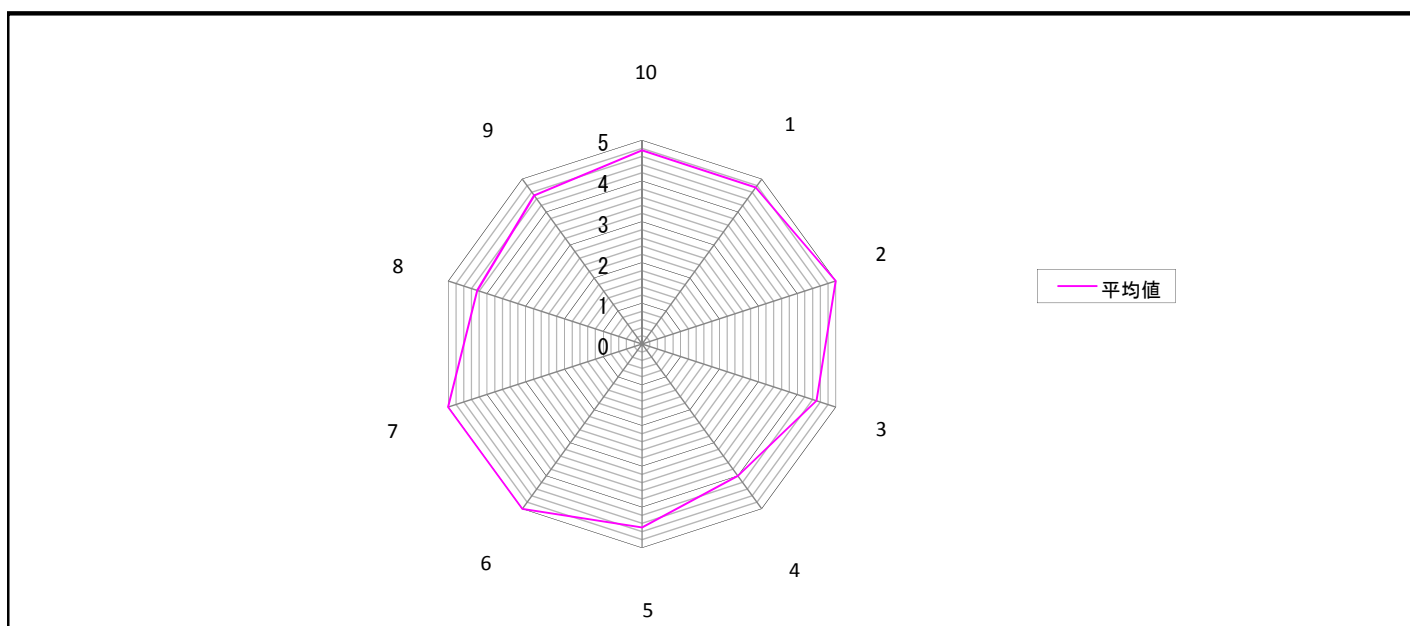
本授業は、普段無意識に発している日本語の音声を意識化するとともに、日本語教師として必要な音声学的知識を身につけることを目標とした。このような授業目標を達成する上で、留学生の参加を得たことは有意義であった。他の言語と比較することで日本語の音声の特徴を明らかにすることができ、また、日本語学習者としての視点からの発言により、習得上の問題点を確認することができた。このような受講者間の相互作用もあり、概ね上記の目標を達成することができた。今回の評価結果を見ると、いずれの項目も高い評価を得ており、受講者自身も達成感を感じているものと思われる。今後は、項目(4)「成績評価についての説明」、項目(5)「授業の進む速さ」、項目(9)「授業への主体的な参加」などといった点に留意することで、授業の更なる改善を図っていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語 I  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 永田 良太

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				1	4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					1	5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3		1			1	4.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2	1			1	4.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	2				1	4.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					1	5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					1	5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	3				1	4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				1	4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				1	4.8



## 教員のコメント

本授業では、レポートや論文を書くための日本語力を身につけることを目標としたが、漢字圏・非漢字圏の学習者や様々な日本語レベルの学習者が混在していたため、授業を進める際に困難さを感じることもあった。この点について、項目(5)「授業の進む速さ」の評価を見ると、さらなる配慮が必要であると思われる。また、テキストを中心に授業を進めたが、項目(7)「教科書の適切さ」の評価を見ると、テキスト自体は適切であったと思われる。但し、項目(8)「板書や視聴覚機器の使用の適切さ」の評価を見ると、学習者のレベルに配慮して、テキスト以外にも様々な媒体を用いて理解を促進する工夫が必要である。今回の結果を踏まえ、多様な学習者に対応できるような授業作りに努めたい。

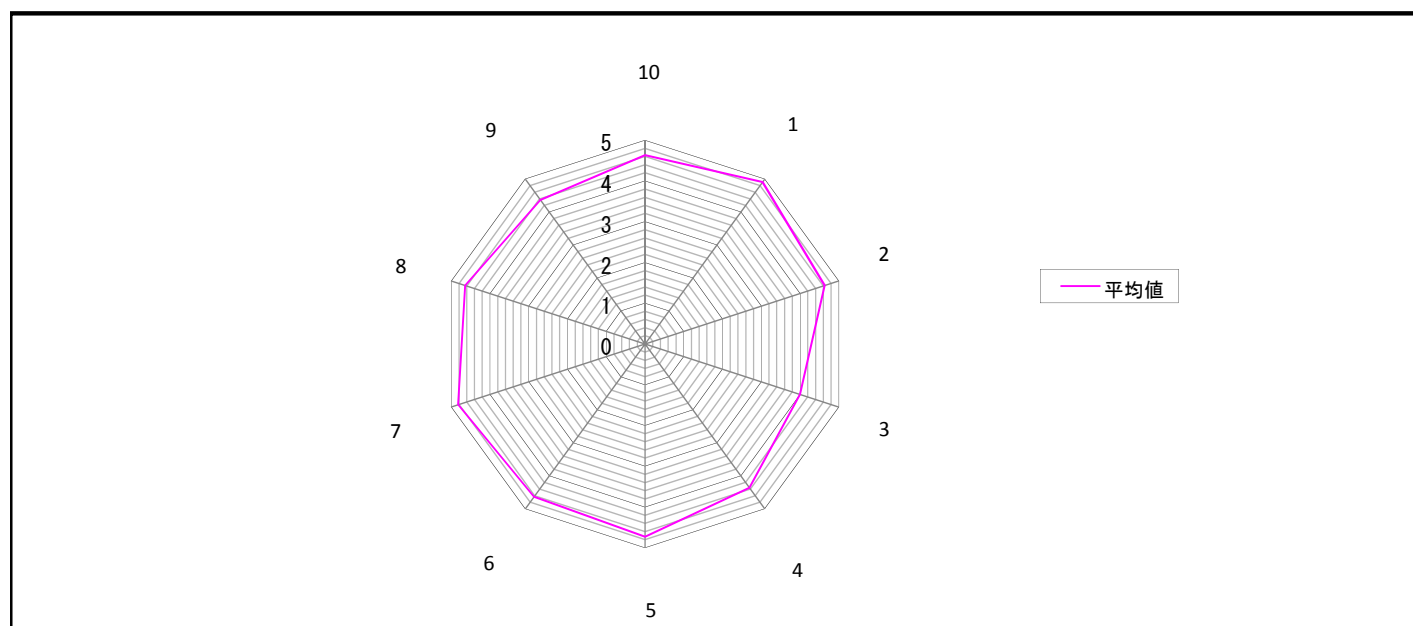


# 結果報告書

授業科目名 英米文化研究 I (文化史)  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 杉浦 裕子

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2	1			4.6
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3	4			4.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	3	2			4.4
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	8	3				4.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	8	2	1			4.6
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9	2				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3	2			4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	2	1			4.6



## 教員のコメント

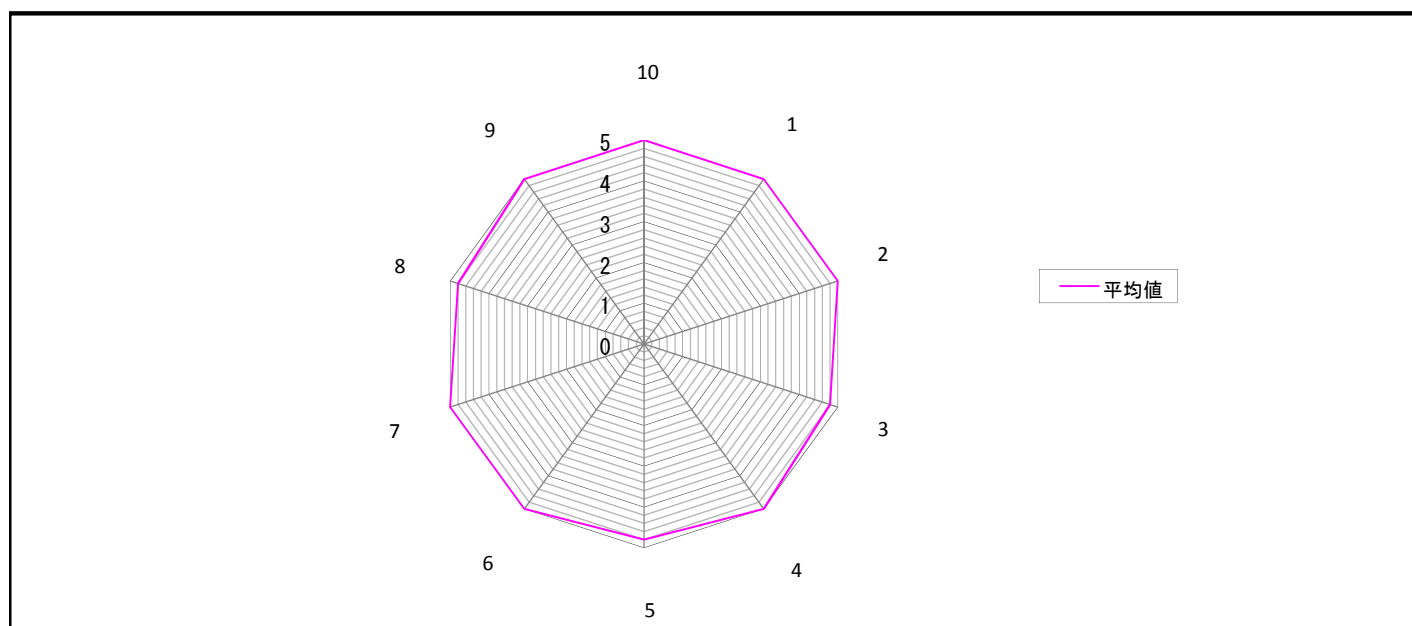
今回、シェイクスピア作品の中でも人気が高く、我々の日常に近づけて考えやすいテーマを扱った『夏の夜の夢』を講読することで、受講生の皆さんにはシェイクスピアを身近に感じてもらえたようです。殆どの受講生にとってシェイクスピア作品を原文で読むのは初めての体験だったようですが、皆さんよく予習してくれました。授業では映画を見たり、ディスカッションをしたり、役割練習を取り入れるなどして、講読の授業が単調にならないように工夫したり、また授業外でもmoodleを利用して感想や質問のやりとりをできたことが、総じてこの授業の評価がよかった要因だと思います。学校現場ですぐに役立つ実践的授業ではありませんが、受講生の読解力は確実に鍛えられたと思います。最初に予測していた以上に受講生の皆さんがシェイクスピアに高い関心を示してくれたことは大変嬉しく、今後もいろんな作品を読んで一緒に考えていきたいと思いました。

# 結果報告書

授業科目名 英米文化研究Ⅱ(現代文化研究)  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 前田 一平

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



## 教員のコメント

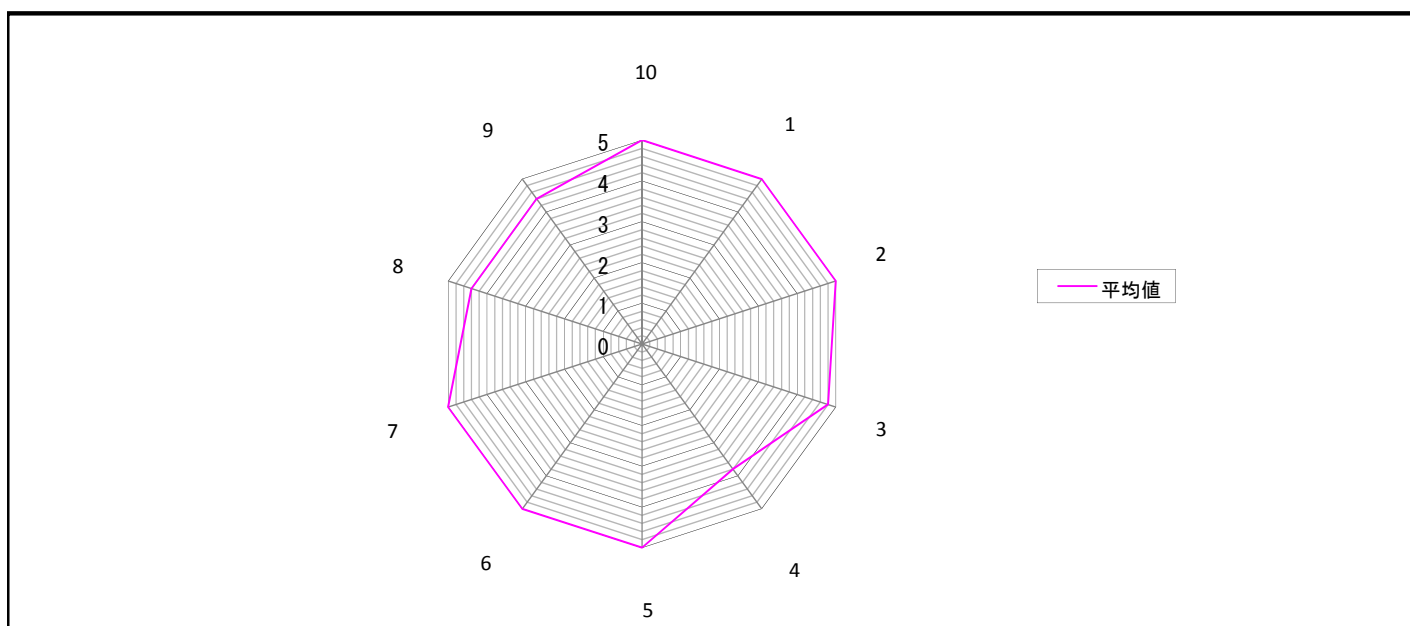
評価については何も言うことはない。すべての項目で5あるいは限りなく5に近い評価を得ている。しかし、決して100点満点の授業ができたわけではないので、この評価は過大評価と思わざるを得ない。普段、文学作品を読むことはあまりなく、ましてや未知の世界と思われる日系アメリカ人の歴史や物語に接することのない英語教員にとって、授業内容よりも教材そのものが新鮮で好奇心を刺激したものと思える。本学就任以来15年ほどアメリカ文学の授業にアジア系文学を取り入れてきたが、授業実施内容と方法に形ができてきたこと、学部生であれ大学院生であれ、あるいは現職教員であれ、人種問題を中心に据えた異文化理解としての文学研究は興味関心をひくものであることが実感できる。その意味で、今回の授業評価によってこの授業の意義を再認識した。

# 結果報告書

授業科目名 英米文学応用演習Ⅱ  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 太田 直也

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1	1	1		3.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4			1		4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1			4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



## 教員のコメント

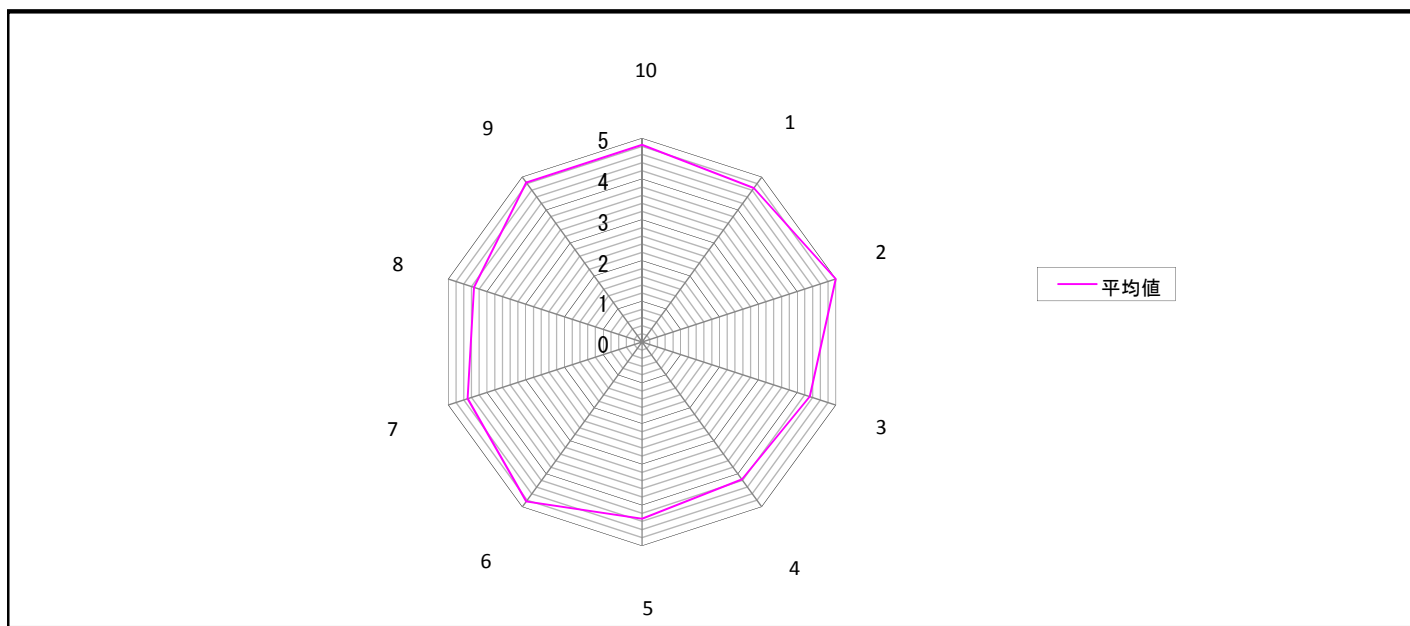
英詩の精読に主眼をおいた授業であった。当初予定していた作品すべては読めなかったが -- 特に現代詩についてはやや数が少なかったし、ディラン・トマス以降の詩人については採り上げることができなかった -- 英詩の構造と「読み方」に関しては必要最低限の解説が出来たと考える。極めて勤勉で優秀な受講者たちに恵まれ、有意義な時間となった。

# 結果報告書

授業科目名 歴史学演習 I  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 大石 雅章

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				1	4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					1	5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	4				1	4.3
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	5				1	4.2
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	4				1	4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	5	1				1	4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3				1	4.5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	4				1	4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				1	4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				1	4.8



## 教員のコメント

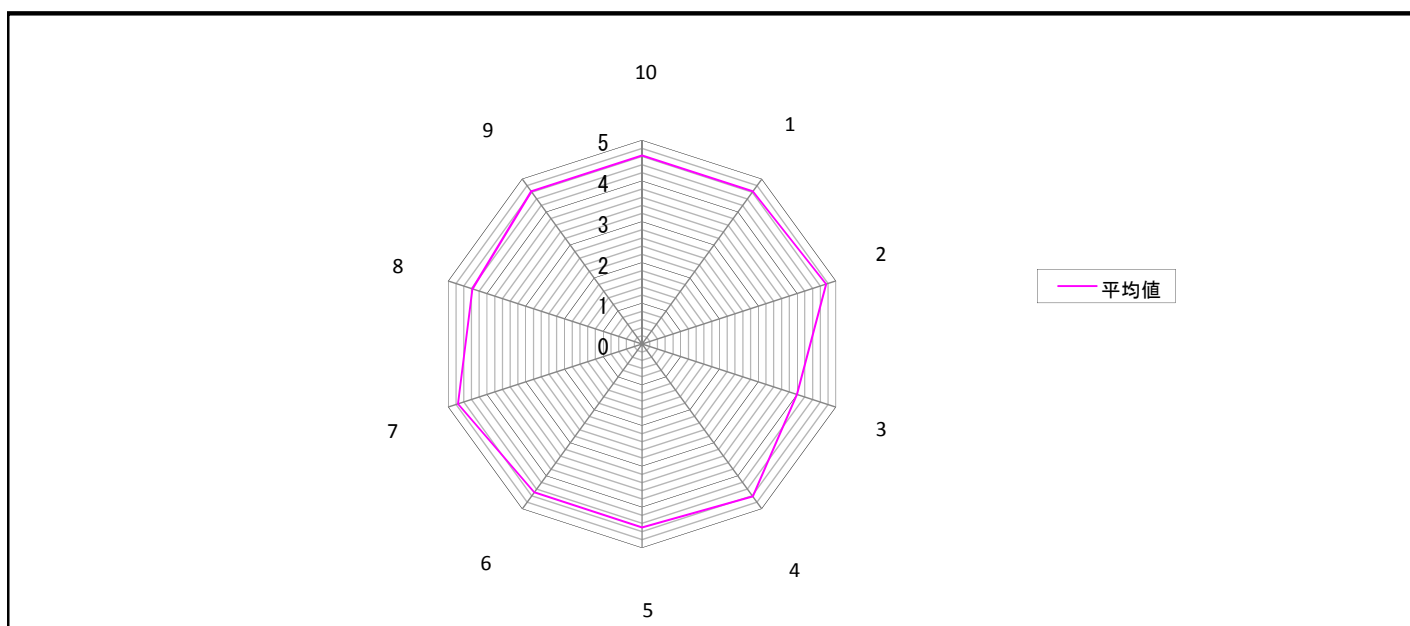
授業の内容については、教科の専門的能力を高めるための「歴史学演習 I」であるために、(2)の専門知識を深める点という点では、5.0の高い評価を得たが、(3)の教師の実践力の育成という点では4.3の評価となり、今後この点をいかに改善していくかが課題としてこのころ。また授業の進め方については、(4)成績評価の方法の説明(4.2評価)や板書の仕方(4.3評価)など改善していく必要がある。総合評価としては4.8の評価を得ており、受講生にとって意義ある授業であったと評価し得る。

# 結果報告書

授業科目名 歴史学研究Ⅱ  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 町田 哲

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	3				4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	3			4.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1	1			4.6
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	5	2	1			4.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	5	2	1			4.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	3	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	3				4.6



## 教員のコメント

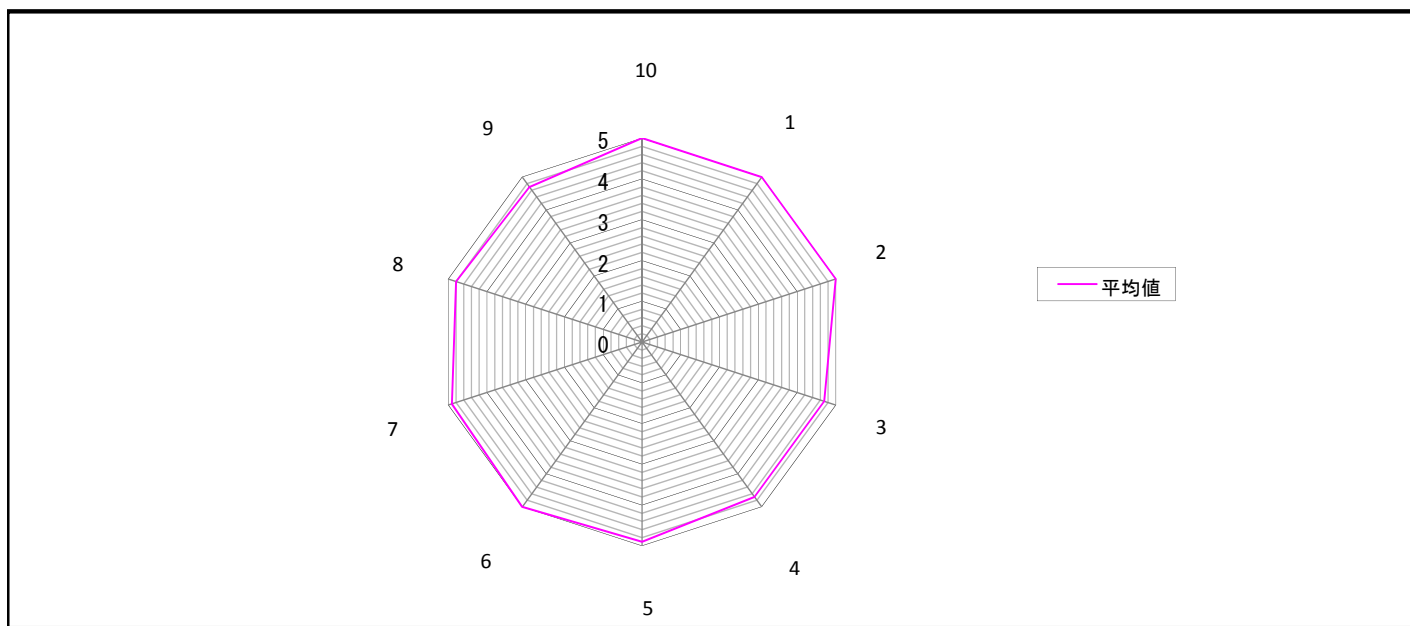
この講義では、日本近世社会の成立と構造の特徴について、多角的に捉えることのできる力量の獲得を目標としている。具体的には、山口啓二『鎖国と開国』をテキストとして読み進め、受講生がまずその内容を理解し、また近年の歴史学の成果を補足的盛り込みながら教員側がそれについて解説を行う形で行った。受講生は概ね積極的に授業に参加し、事前の理解を目指し、読解した内容をまとめる作業についても、だんだん力とつけてきた感がある。教員側も、テキストには欠ける具体的な史料や絵画史料をできるだけ提示するのはもちろんのこと、歴史的解明の手続きについても伝えることができるように努力した。その点が上記のような概ね好評を得ることができた点に反映したものと考えられる。唯一低い3「実践力の育成」については、実践力を、即席の力量あるいは教材確保とみるのであれば、当然低い評価となるだろう。しかし実践力に至るための、歴史的思考力、あるいは歴史的現在における歴史学のあり方を問う点でいえば、十分その期待に応える内容になっていたと考える。今後の課題としては、今少し受講生の意欲・発言を引き出せるような工夫が必要かと考える。

# 結果報告書

授業科目名 歴史学研究Ⅲ  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 原田 昌博

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3				4.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	3				4.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	9	1				4.9
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	10					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9	1				4.9
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10					5.0



## 教員のコメント

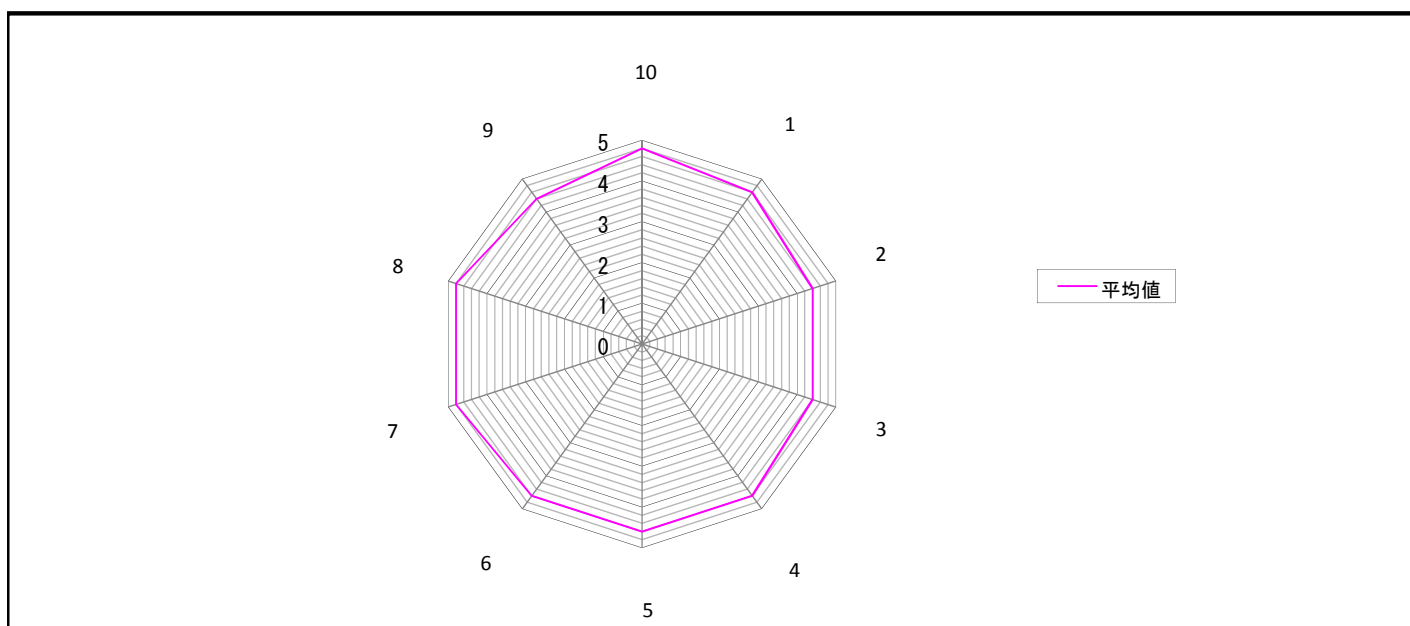
全体的に見て、各質問項目とも「5」の評価が最も多く、「4」を含めるとすべての評価となる。この点から、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。とりわけ、回答した10名中、質問1、2、6、10では全員、質問5、7では9名が「5」と評価しており、授業の計画性、専門性、授業の進む速さ、教員の説明の分かりやすさについてはとりわけ満足度が高い。その他の質問でも回答者10名中、7名以上が「5」の評価をしている。最後に、質問10で全員が「5」と評価している点からも、学生は本授業に満足していたと結論づけることができるだろう。

# 結果報告書

授業科目名 地理学研究 I  
 評価実施日 平成21年8月27日  
 担当教員名 木原 克司

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3				4.4
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3				4.4
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2				4.6
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	2				4.6
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



## 教員のコメント

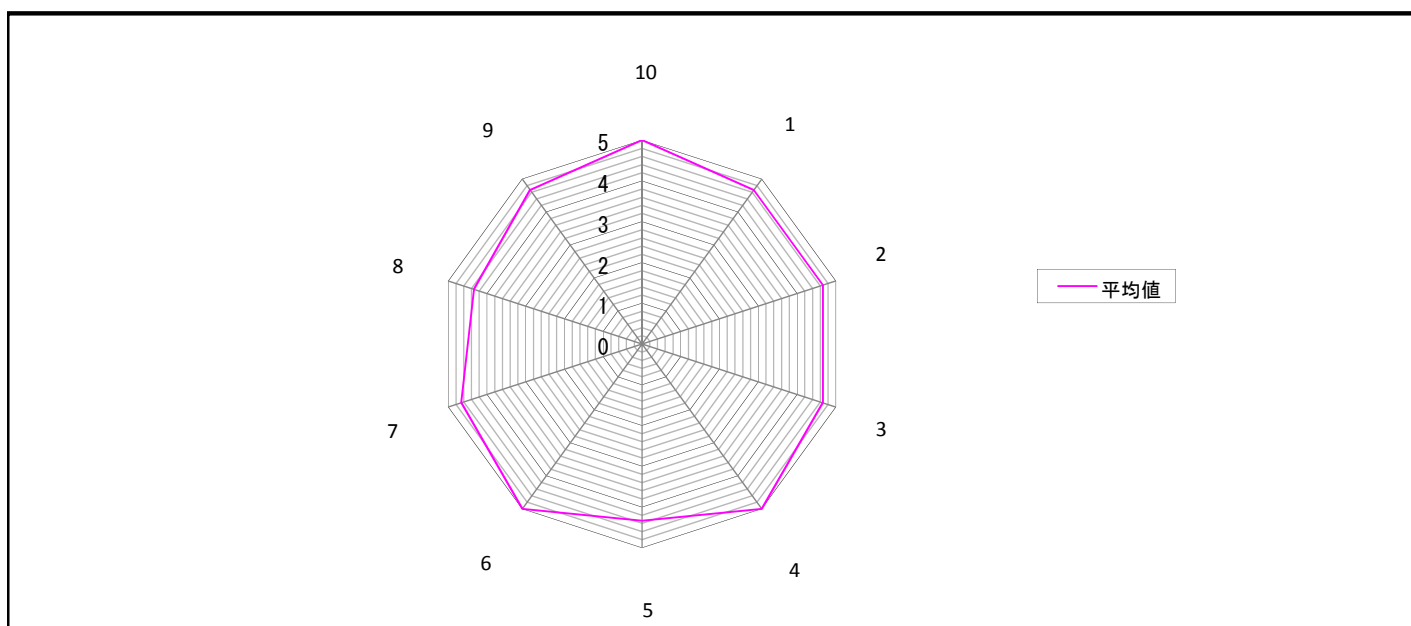
授業内容、授業の進め方、学生の授業への取り組みなど9項目の質問に対して4.4以上の評価を受けており、授業としては満足のいく結果が得られたと考えている。特に授業評価前の8月末に例年通り授業内容に関連する飛鳥・藤原・平城地域の1泊2日の巡検を行ない、現地において発掘現場の見学や現地授業を実施したことで学生から授業内容を十分に理解し得たと高い評価を得たことが4.8という高い総合評価に反映されているように思える。今後も授業終了後に巡検を組み入れて行きたい。

# 結果報告書

授業科目名 法学・政治学研究  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 麻生 多聞

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	1	2				4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



## 教員のコメント

今期は、子安宣邦『国家と祭祀－国家神道の現在』（青土社、2004）を講読するという内容であった。憲法原則からの状況主義的で無原則的な逸脱が憲法9条および20条に関わってなされているという現状認識を踏まえながら、日本という近代国家がどのように形成されていったのかを問うという内容であったが、毎週の講義では十分な予習とそれに基づく活発な発言が見られ、教官の立場にとっても大変やりがいのある時間だったように思う。この場を借りて、受講してくれた皆さんに感謝申し上げたい。

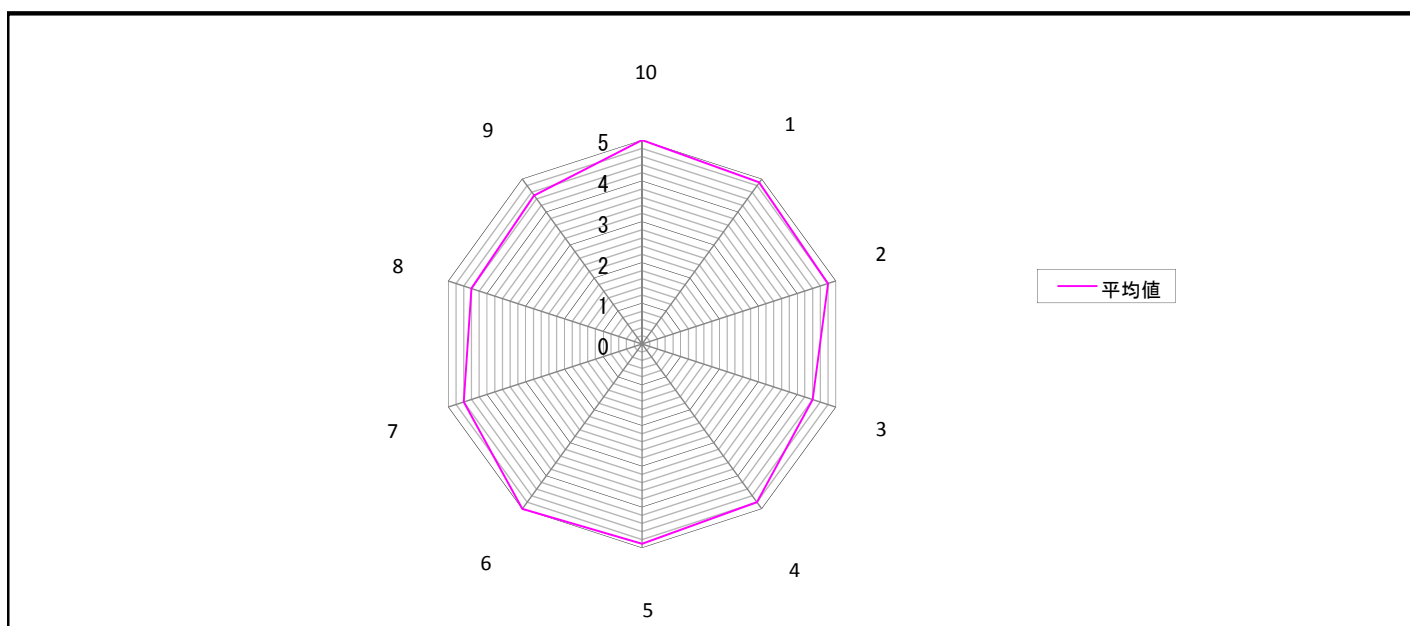


# 結果報告書

授業科目名 社会学研究  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 山本 準

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	6				4.4
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	9	1				4.9
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	10					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	6	4				4.6
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	6				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10					5.0



## 教員のコメント

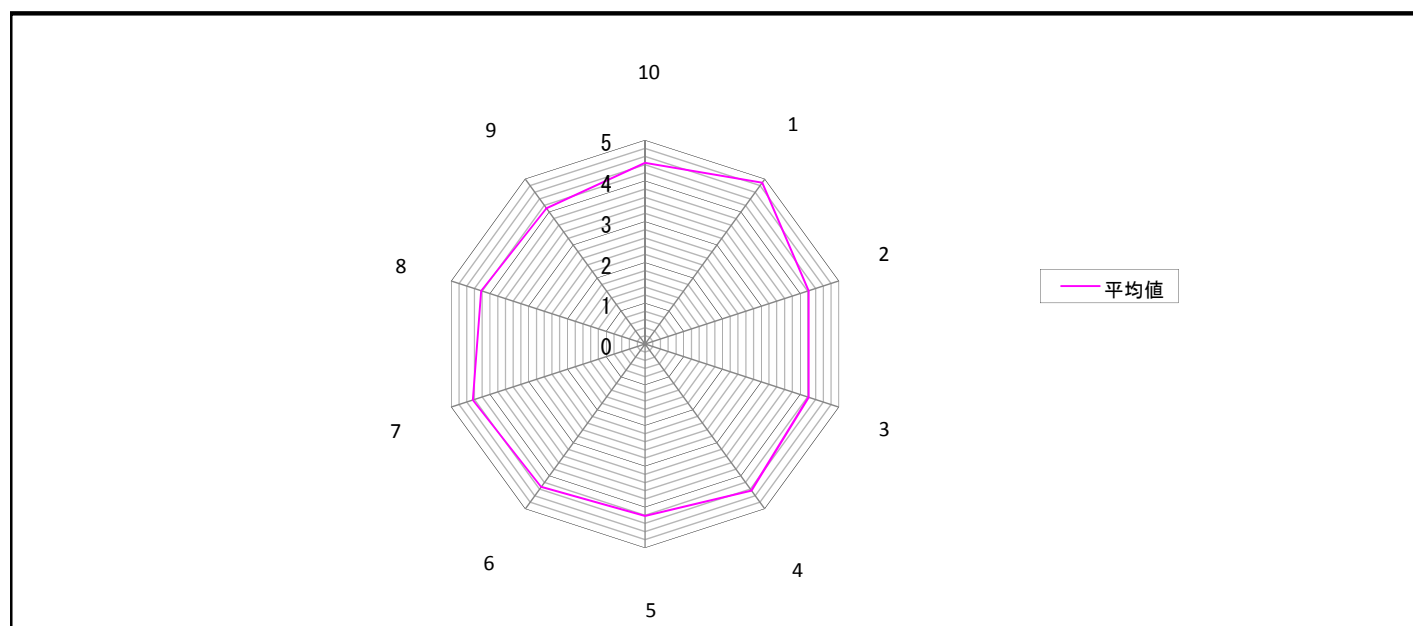
「社会学研究」の授業は、全体として好評を得られたように思える。問10の総合的評価で全員が5の評価であったことは大いに自信となる。しかし詳細に見ていくといくつかの課題も浮かび上がってくる。問3の「教師の実践力につながる内容であったか」では4.4であった。また問8「板書や視聴覚機器の利用は適切であったか」の質問では4.4であった。評価の中でこの二つの項目が相対的に低かったのである。ただ、教師の実践力につながるかというところでは「社会学研究」という講義から考えると、教師がすぐに実践に使えるような知識や技術をあたえるような講義をすることは困難であろうと思える。また板書や視聴覚機材の利用については、視聴覚教材をほとんど使わなかった講義であったことによるものであろう。視聴覚教材の利用を今後検討していく必要はあると思われる。

# 結果報告書

授業科目名 哲学・倫理学研究  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 齋木 哲郎

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	3	2			4.2
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3	2			4.2
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	3	1			4.4
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4	3	2			4.2
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	4	1			4.3
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	5				4.4
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	5	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4	2			4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	3	1			4.4



## 教員のコメント

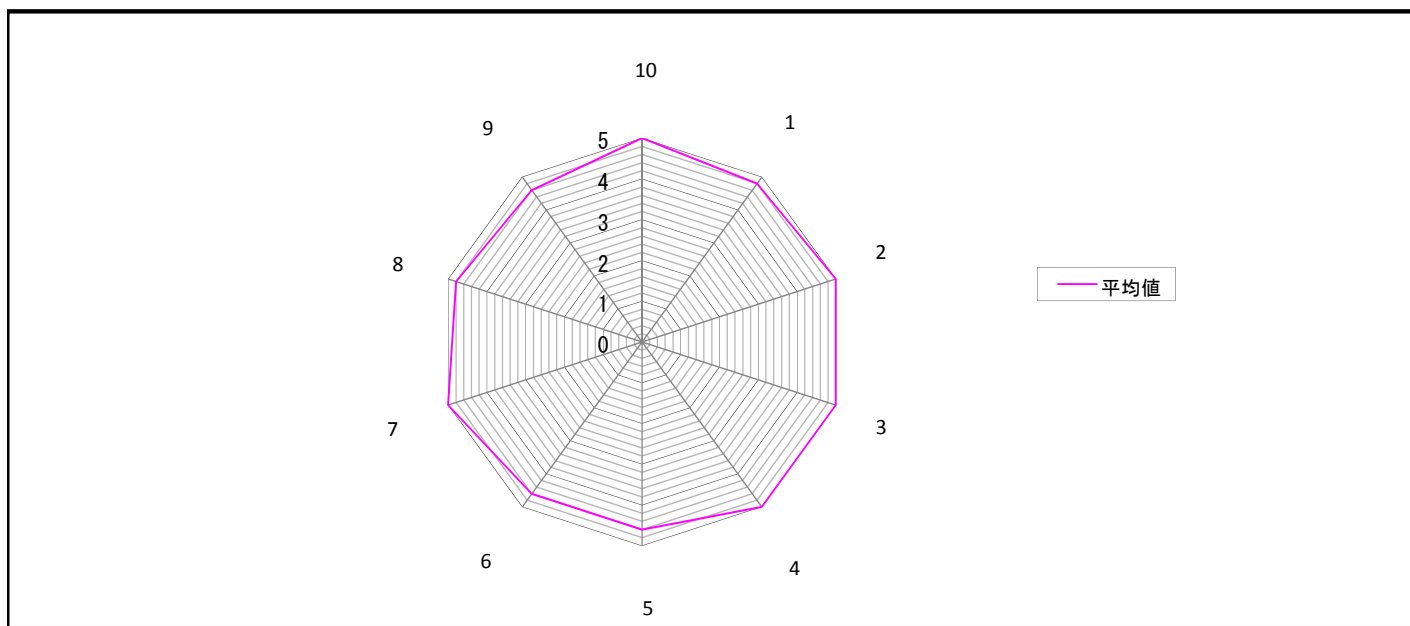
本年度は受講生11名で、アンケートに答えたのは9名。採用試験や個人的な事情で2名がアンケートに答えられなかった。9名のうち、2名が中国からの留学生という構成である。学生から戴いた講評では今回「高校『倫理』『世界史』の指導で難を感ずる思想の説明を十分にしてもらった」というのが唯一。教えるのが非常に難しい分野でありながら、受講生の皆さんからはそれなりに理解していただいたということであろう。今年度の授業は成功したものと思う。

# 結果報告書

授業科目名 哲学・倫理学演習  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 齋木 哲郎

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				1	4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					1	5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					1	5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					1	5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	2				1	4.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	2				1	4.6
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5					1	5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				1	4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				1	4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					1	5.0



## 教員のコメント

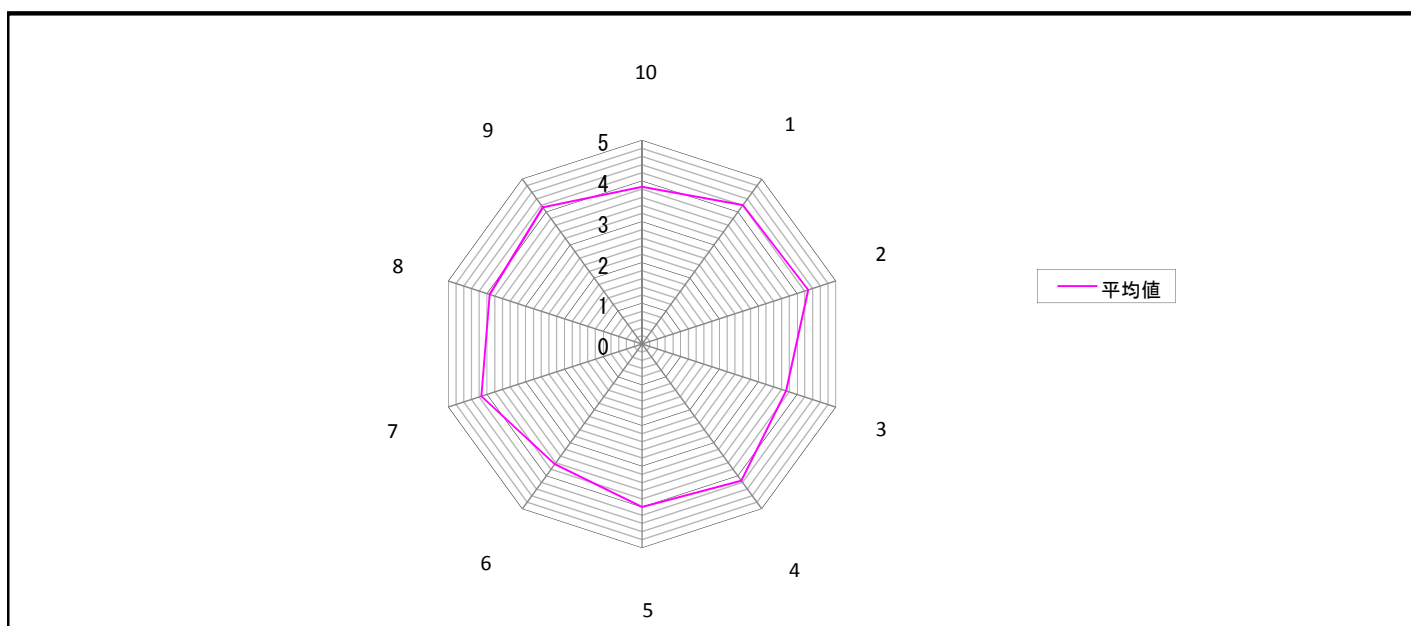
受講生は5名。内2名が中国からの留学生。朱熹の『論語集註』をテキストとに用い、漢文の訓読法、及び中国語による音読によって授業を進めた。学生からの講評を掲げると「日本史や思想史に不可欠な漢文をしっかりと勉強できたので、史料を読む力がつけられてよかった」「論語集註をじっくり読めて為になった。今回以降の部分もこれから読み進めていって、更に儒学を学んでいきたい」「重要な句法の説明や独特の読み方の解説が分かり易かった。今まで漢文がとても苦手だったので、少しだけ読めるようになった気がする」「大変実践的であった」「社会科学系の科目に入っているが、国語の人たちももっととるとよいと思いました」の通りである。中国の留学生からのコメントはなかったようである。総じて学生達にはやくだったものと思う。

# 結果報告書

授業科目名 代数学研究  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 平野 康之

回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	9	1			4.2
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	8	1			4.3
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	9	3	1		3.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	8	2			4.1
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4	7	2	1		4.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	6	2	3		3.6
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5	6	3			4.1
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	5	5			3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	5	2	1		4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	8	4			3.9



## 教員のコメント

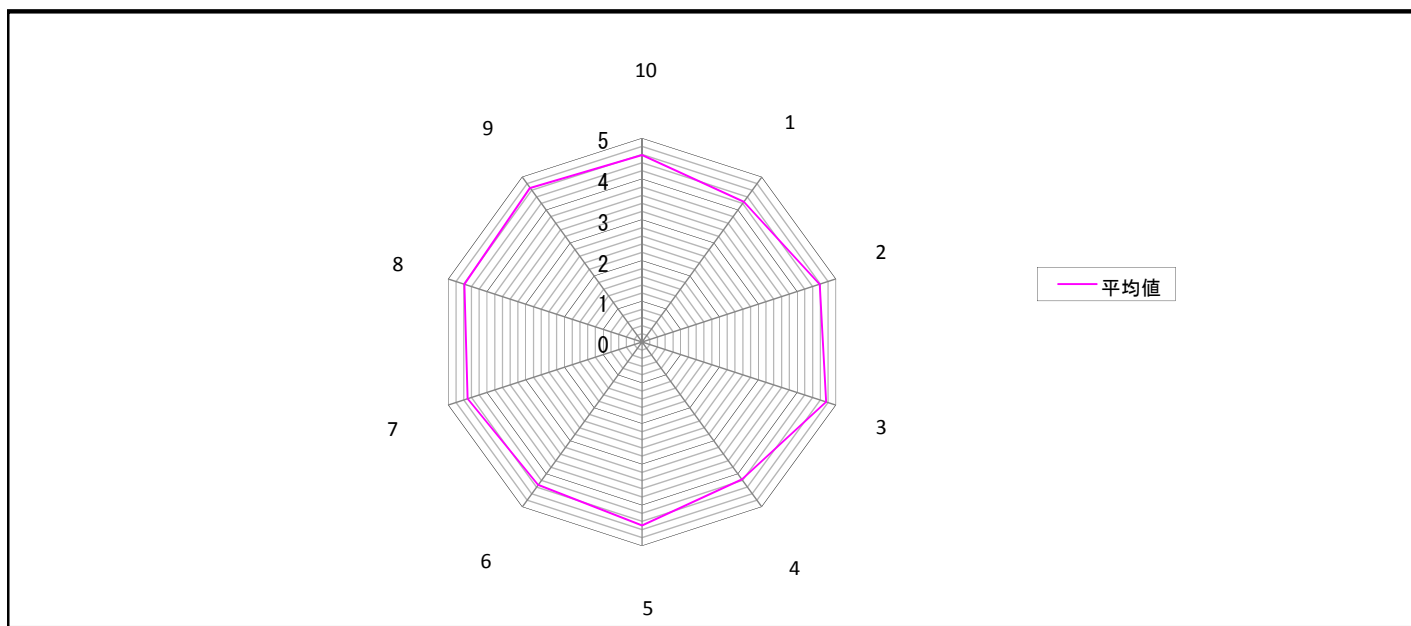
全般的に値が3～5に集中しており、総合評価「この授業を総合的に評価すると、よかったと思う」という問いに対する項目分析では3, 4, 5に集中し、4, 5が70%を超えたので、受講生は概ね、この授業に満足しているものと思われる。また、「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」や「教科書や配布された資料は、適切であった」という項目を受講生が比較的高く評価してくれたことは喜ばしい。「受講生に分かりやすく説明した」という項目に対しては評価にバラツキがあったので、このことについては今後改善していきたい。受講生が授業によく出席し、授業に主体的・積極的に取り組み、自らの専門性を高めてくれたことに対しては感謝したい。

# 結果報告書

授業科目名 代数学演習  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 平野 康之

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	3	3			4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	5				4.6
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	3				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	6	2			4.2
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	6	6				4.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	8				4.3
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	6	6				4.5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	5				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	5				4.6



## 教員のコメント

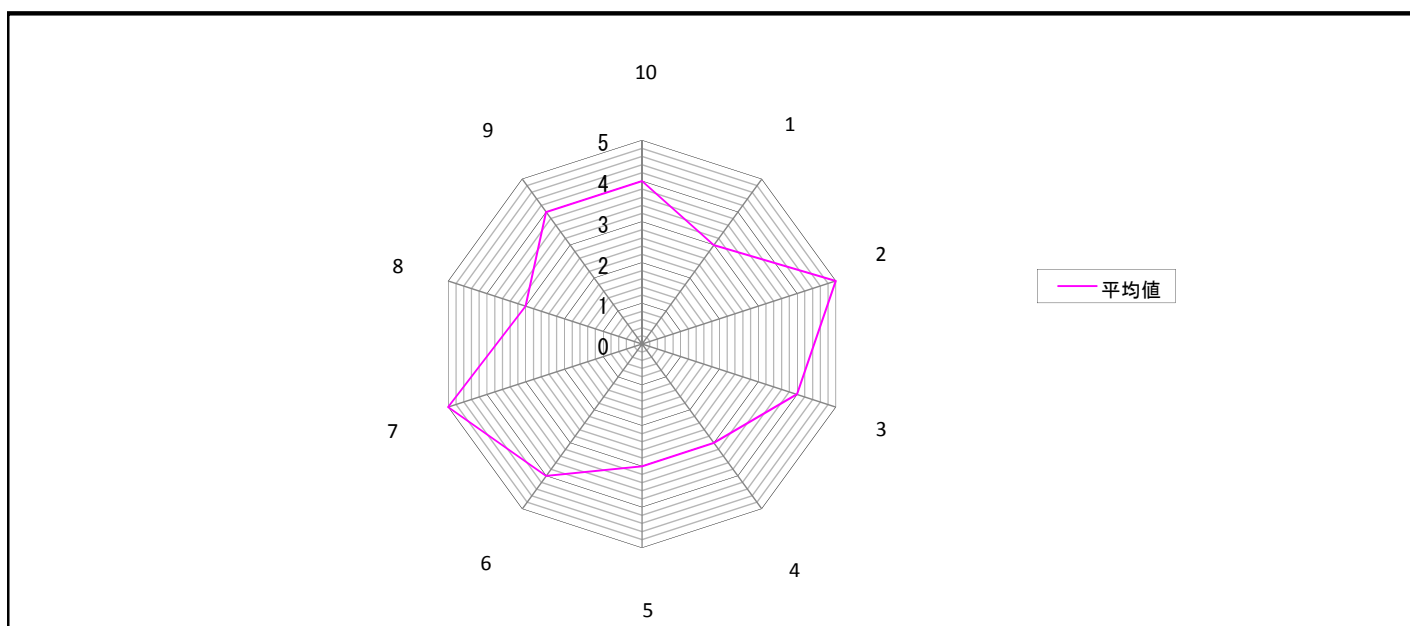
全般的に値が4～5に集中しており、総合評価「この授業を総合的に評価すると、よかったと思う」という問いに対する項目分析では4, 5が100%であったので、受講生は概ね、この授業に満足しているものと思われる。また、受講生の発表する場を十分に取入れたので、教師の実践力の育成につながったように思われるが、受講生自身もこのことを評価してくれたことは喜ばしい。授業概要で授業を適切に表現することと成績評価の方法を適切に説明することについては今後改善していきたい。受講生が授業によく出席し、授業に主体的・積極的に取り組み、教師の実力養成に努めてくれたことに対しては感謝したい。

# 結果報告書

授業科目名 物性物理学特論  
 評価実施日 平成21年7月29日  
 担当教員名 本田 亮

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。			1			3.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。		1				4.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。			1			3.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。			1			3.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。		1				4.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。			1			3.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1				4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		1				4.0



## 教員のコメント

受講者数が1であるので、この種のアンケートをこの授業について行うことには疑問をもっている。また、サンプル数1の集団についての平均は単に事務的処理による計算上の産物であって、統計的には全く意味がないので、これを無視していただきたい。

この授業は受講者の自学によって成りたっている。受講者には、テキスト内容を前もって予習しておくように指示しており、理解した点と疑問点との洗い出しが毎回の授業までに行われている。それに基づいて、セミナー形式の授業がなされるので、受講者にはある程度の勉強が強いられる。これは高等教育特に大学院で学ぶ場合には、当然のことである。この点に関して、受講者の態度には満足している。ただ、教科書に述べられていることのポイント、議論にすべきところを見つけだし、その先に進む能力が受講者には不足していると感じられた。担当教員は授業によってこの能力の向上を受講者に期待し続けている。授業終了後に受講者がこのことを少しでも考えるようになったのであれば良しである。

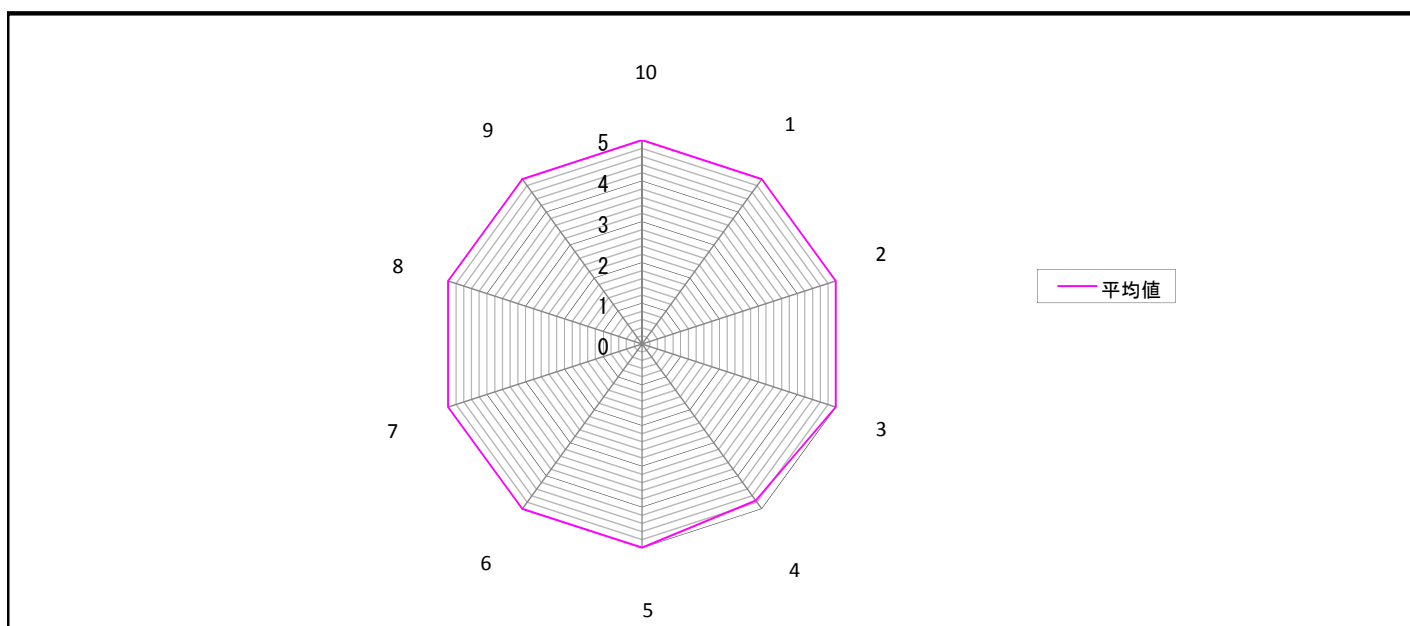
授業はお互いに個人の顔をうかがいながら行われたので、教員、受講者ともにいい意味での緊張感が保つことができた。そのため、受講者の理解不足な点を見過ごすことなく進めることができた。

# 結果報告書

授業科目名 環境化学特論  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 今倉 康宏, 早藤 幸隆

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

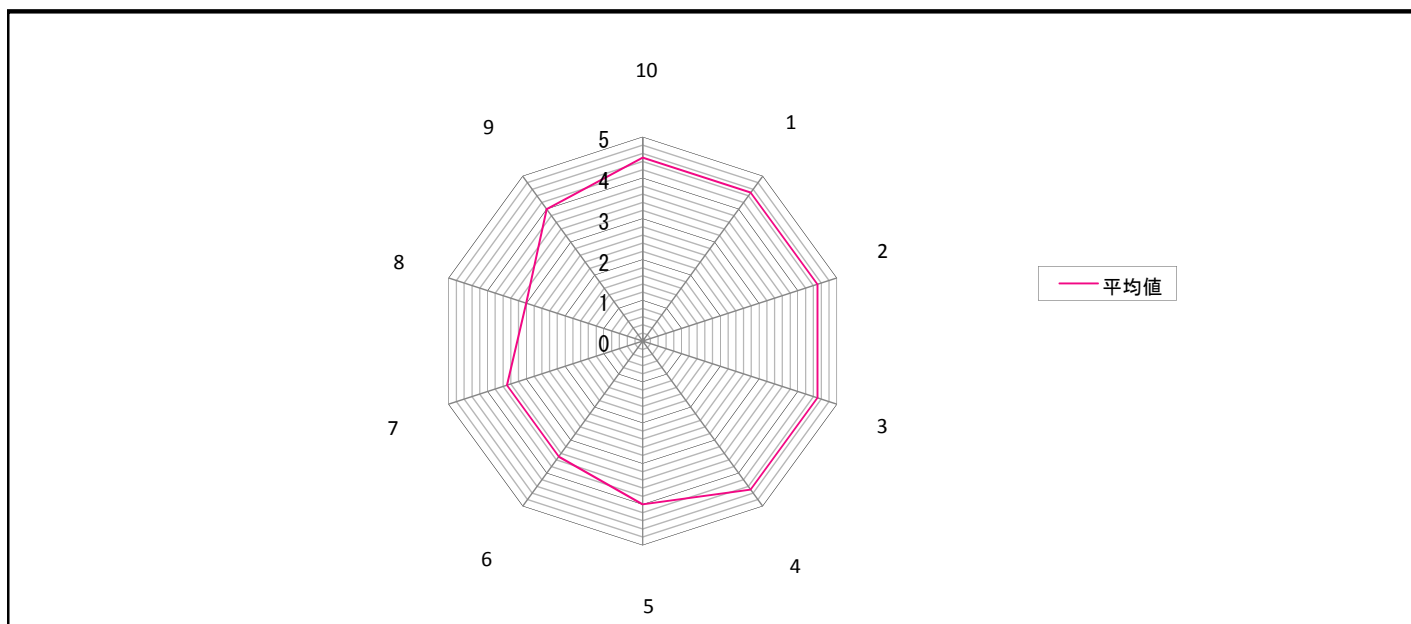
現場で使用できる簡易比色計を作成する機会を設け、環境教育の基礎基本実践方法を提案したことにより、評価(5.0)が高かったと思われる。  
 次年度もこの評価が得られるように工夫をするつもりである。

# 結果報告書

授業科目名 進化生物学特論  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 工藤 慎一

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。		2				4.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。		1	1			3.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。		1	1			3.5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。			2			3.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2				4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



## 教員のコメント

わずか2名のアンケートから判断できることはほとんど無い。講義内容や方法に、特に問題は無いと考えている。

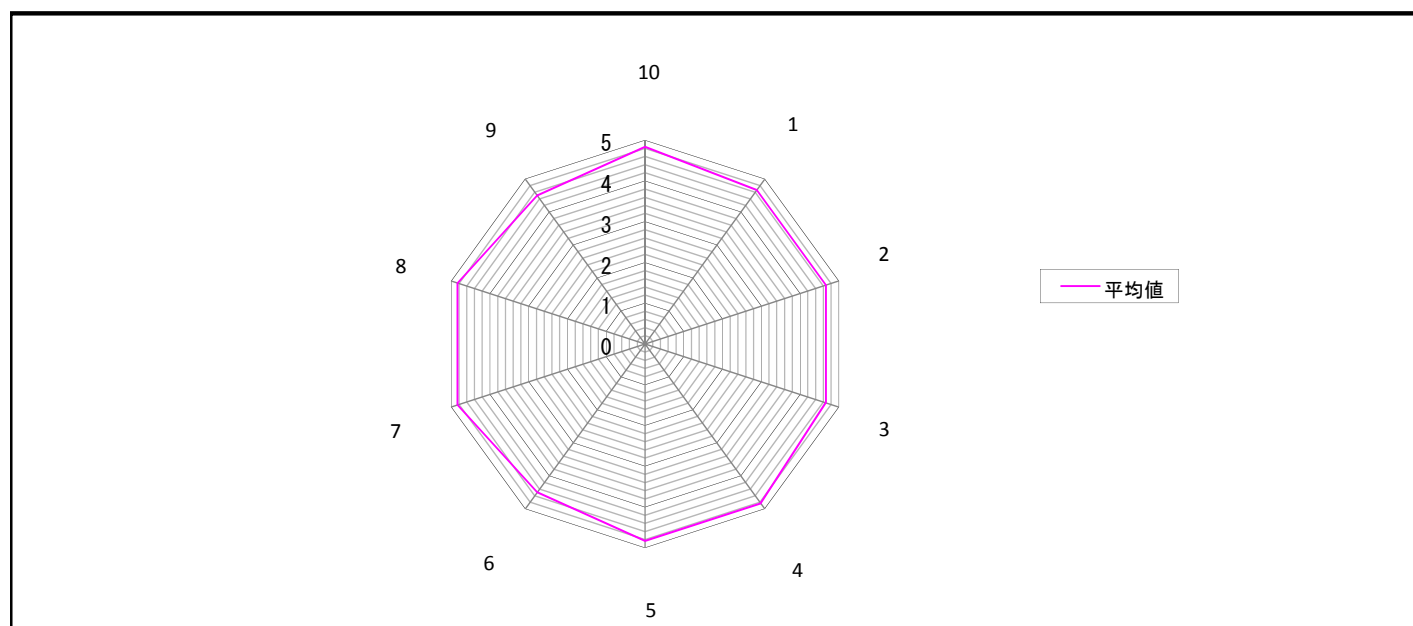


# 結果報告書

授業科目名 地球惑星物質学特論  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 西村 宏, 村田 守, 香西 武

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5		1			4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	5	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	1	1			4.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1			4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



## 教員のコメント

単位を必要とする者が4人であったが6人全員が回答されていた。各項目ごとの平均値には少しバラツキはあるが、総合評価としては4.8で十分に満足されていた。わずかに低い値の(6)と(9)については以下のように言える。(6)は「受講生に分かりやすく説明した」かどうかの質問であるが、授業科目名が示す通り、かなり専門的な用語や解説になってしまうことがそのように感じさせる要因であるのかもしれないが、学問の性質上これはやむを得ない。授業では「解説は易しく、内容は高く」を目標としているが、ときにはかなり高い内容や最新のデータに関連した内容を紹介することもあるため、一部の院生にとっては「分かりにくい説明」と捉えた可能性がある。この点は今後配慮すべき点となろう。(9)は受講者自身の態度に関する自己評価の要素を含む内容で「授業に主体的・積極的に取り組んだ」かどうかを尋ねたものだが、3という評価の受講者もいた。これは受講者本人の責のみに帰することができない要素即ち「取得しなければならない科目数が多すぎて予習や復習をしている時間的余裕がない」という修士課程のカリキュラムの密集状態によるところが大きいと思われる。つまり余裕をもって講義を聴くことが不可能に近く、いわば聴くだけに終わる場合が多いことを物語っている。

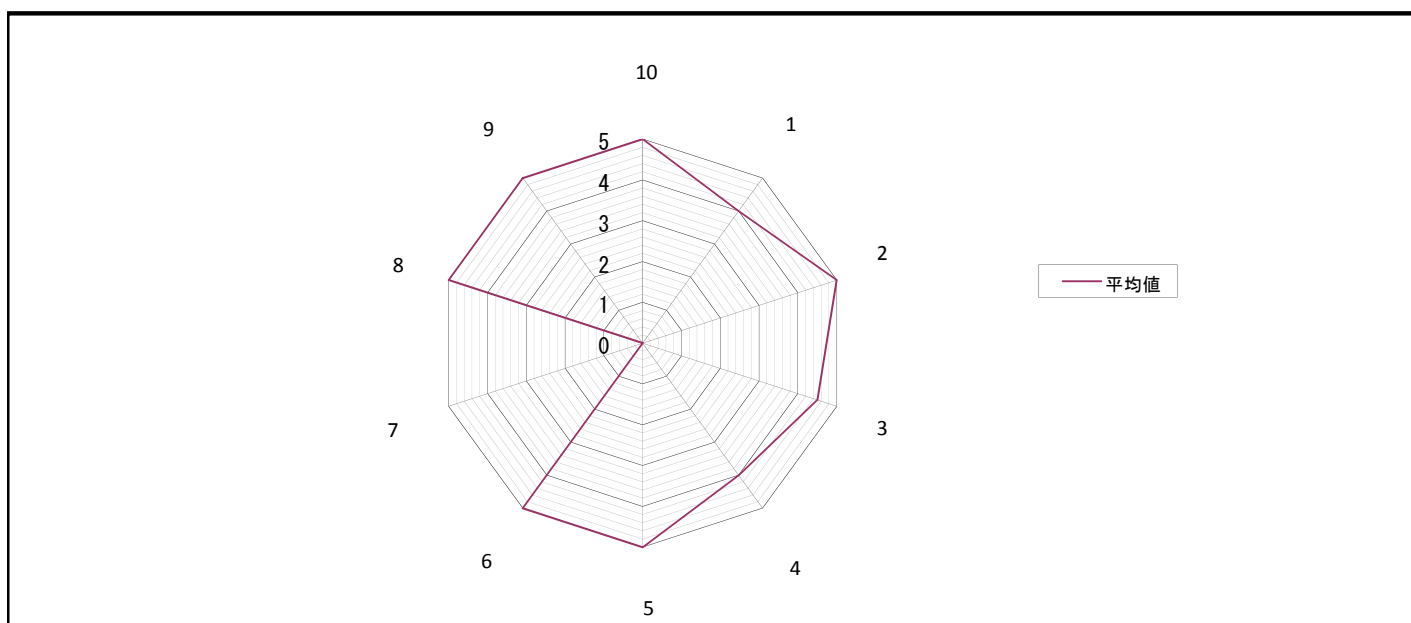
受講者が記した自由記述から一部をそのまま紹介すると、「基礎をしっかりと抑えながら説明が丁寧で内容も充実していた。」「専門分野であるにもかかわらずその分野に疎い者が聴いてもよく理解できる。」「こんなにも分かりやすく且つ次々と学習意欲の高まるような授業が大学院に用意されていて非常に難しいと感じた。」「後期にも開講されていればよいのと思った。」「毎回の授業が楽しみでした。」「語る口調もリズムカルでどんどん体に入り込んでくるようで、先生の授業はお手本です。」など、かなり肯定的な意見が多かったことを付記しておく。

# 結果報告書

授業科目名 地球科学特論 I  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 村田 守, 西村 宏, 香西 武

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。		2				4.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1		1			4.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。						2
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



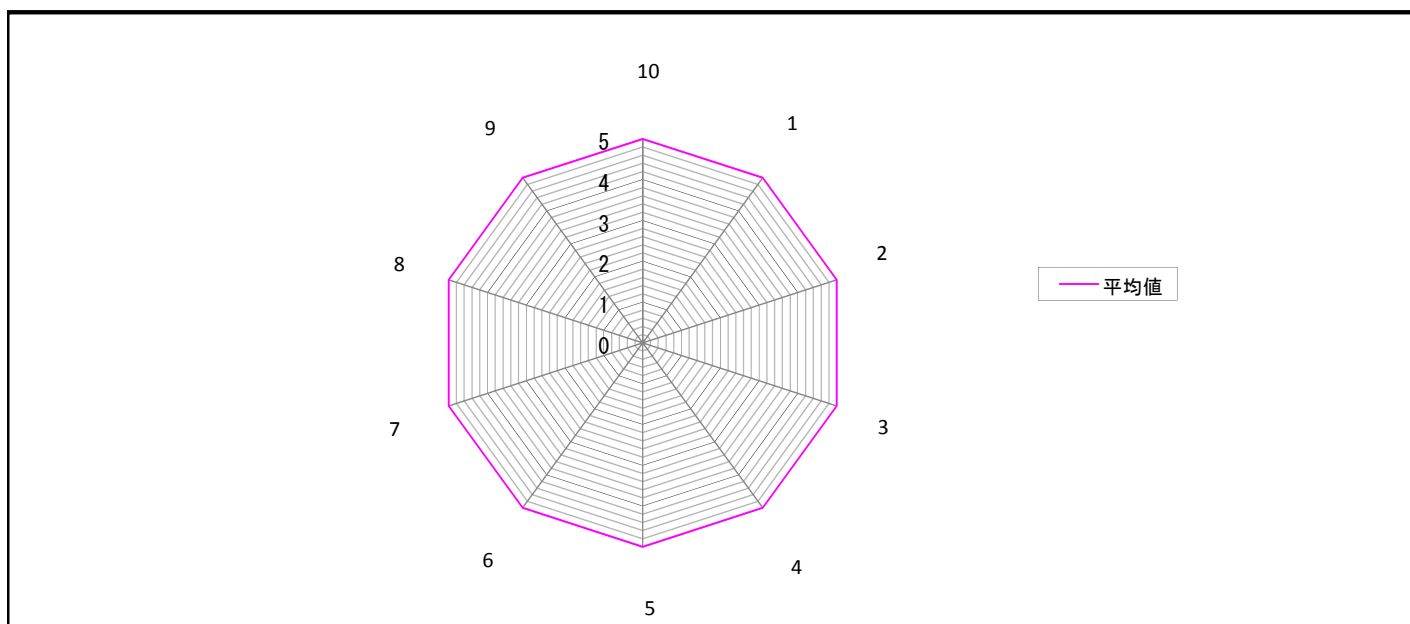
## 教員のコメント

数学と特別支援の現職教員2名に講義を行ったために、シラバスの内容通りではなく、随時変更を加え講義を行った。

# 結果報告書

授業科目名 地質学・古生物学特論  
 評価実施日 平成21年7月29日  
 担当教員名 香西 武, 村田 守, 西村 宏, 小澤 大成      回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



## 教員のコメント

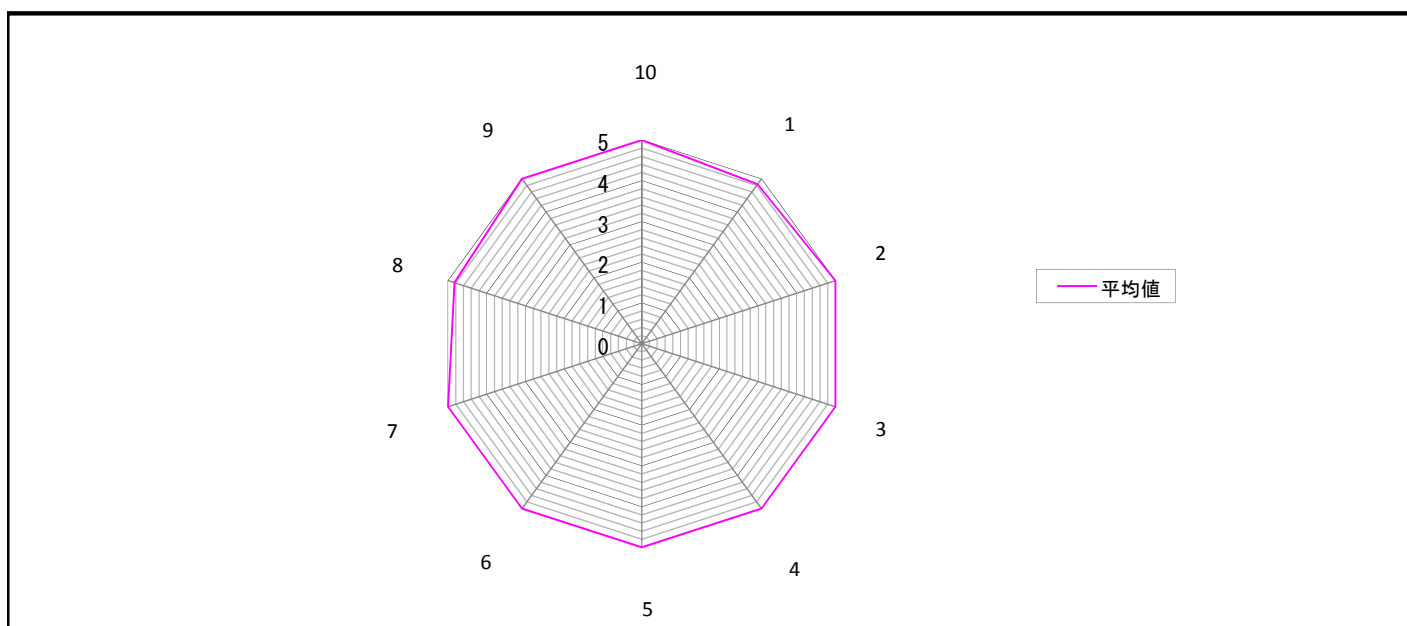
受講生が1名であったので、受講生の理解度に合わせて講義を行うことができた。

# 結果報告書

授業科目名 声楽発声法  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 頃安 利秀

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



## 教員のコメント

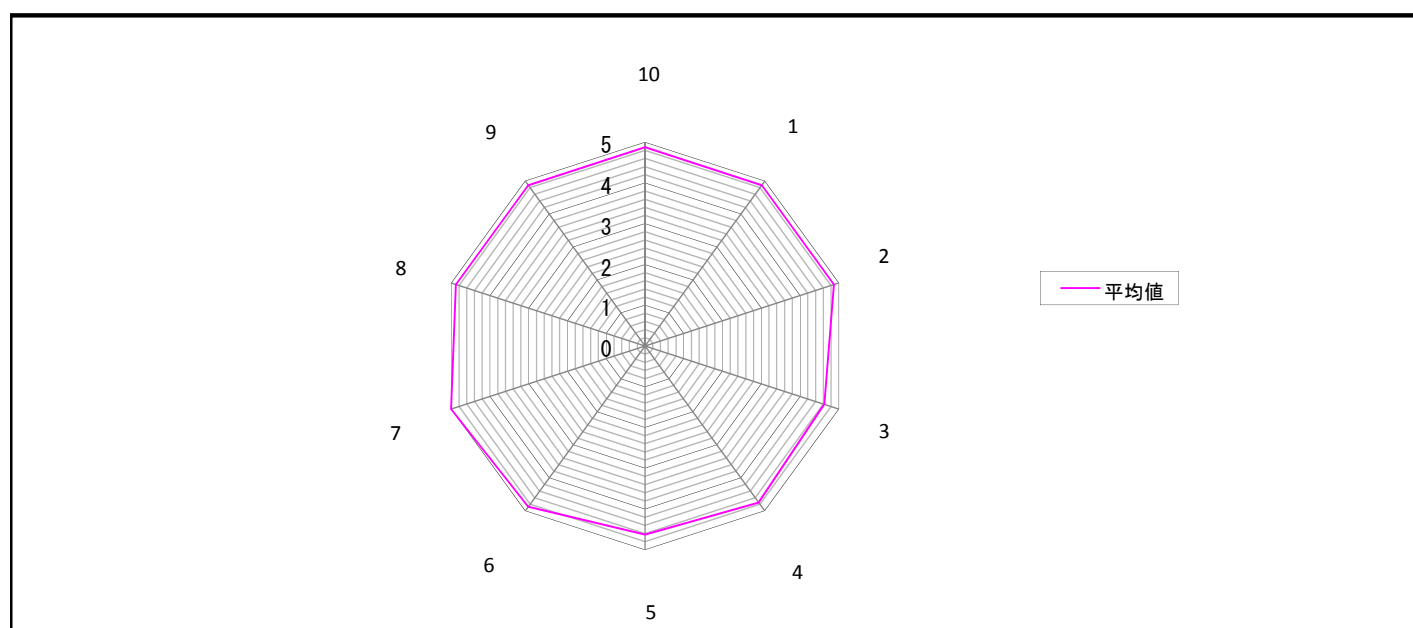
学生による評価結果をみる限り、この授業は学生にとって有意義で、且つ授業の進め方等についても適切に行われていたと考えられる。この授業は講義科目であるが、授業の内容から若干音楽実技を伴うことがある。しかし今年度は受講生が6人という少ない人数であったので受講生一人ひとりに十分配慮でき、そのことがこの評価結果として出てきたものと考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 音楽劇総合演習  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 草下 實

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1				4.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3				4.6
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	7		1			4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	6	1	1			4.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	7	1				4.9
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	8					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1				4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	1				4.9



## 教員のコメント

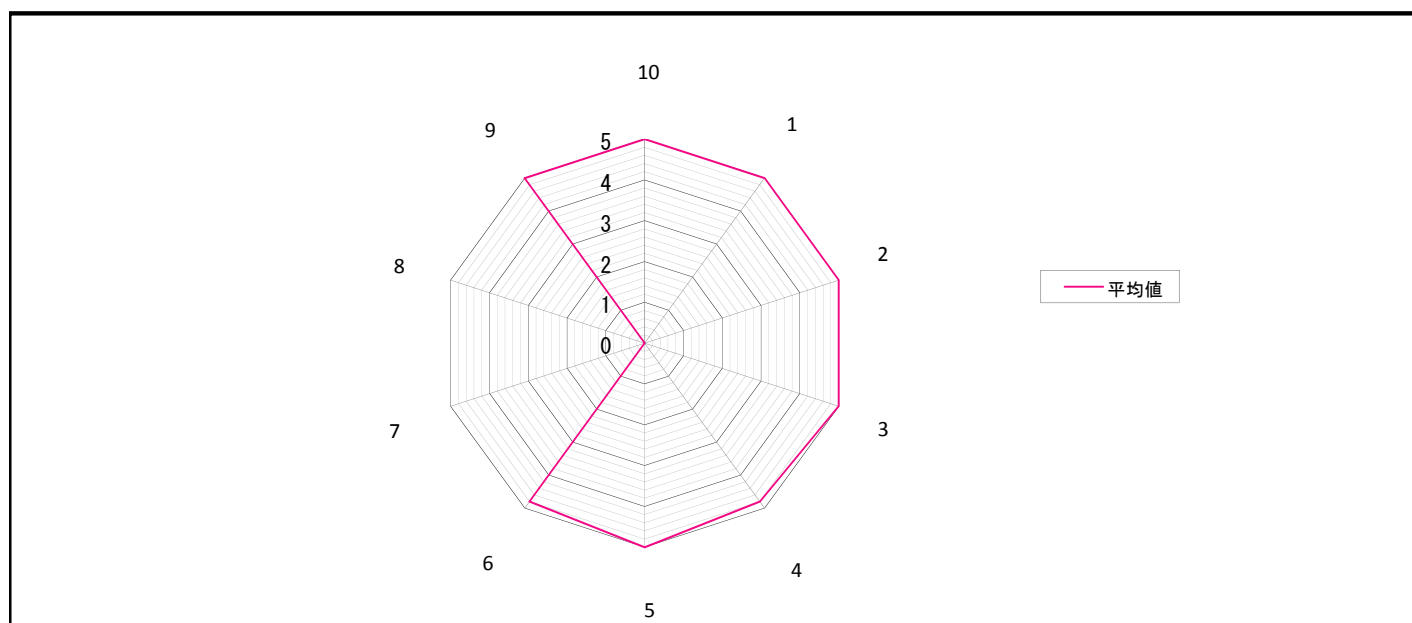
本授業の評価結果を見る限り、いずれの設問項目においても良い評価を得ている。音楽劇総合演習の授業を履修する学生の特色は、前年度履修した学生が聴講というかたちで再履修するものが多い。つまり、リピーターが多いということは、当該授業の内容と成果が認められているということで真に喜ばしい。この授業では歌唱、台詞、舞踏、パントマイム等、総合的な表現力の育成及び脚本や演出、舞台美術に至る学習が可能となっており、学生個々の潜在的な能力を導くとともに、各々に与えられた課題に工夫を加え、他の履修者との共同作業の中で協調性や意欲、あるいは関心する態度を育み、ひとつのドラマ・ムジカを想像するという意味で各人が達成感を感じようである。また、取り上げる教材は全てオリジナルである。今年度は特に留学生が多く、日本語の発音や独自の抑揚などは彼らにとって、極めて困難であったが、彼らの授業における吸収力と積極的な態度には学ぶべきものがあった。また、授業の発表に際しては、毎回、学内外に呼びかけ、多くの観客を動員し、公開の形で実施している。授業評価では正規の履修者のみにお願いしているが、実際はその倍の履修者がおり、次年度の評価は査定外、聴講履修者にも評価対象を広げるつもりである。謝謝、再会。

# 結果報告書

授業科目名 ピアノ演奏基礎演習  
 評価実施日 平成21年7月23日  
 担当教員名 森 正, 村澤由利子

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。						5
あなたの授業への取り組みについて	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						5
	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



## 教員のコメント

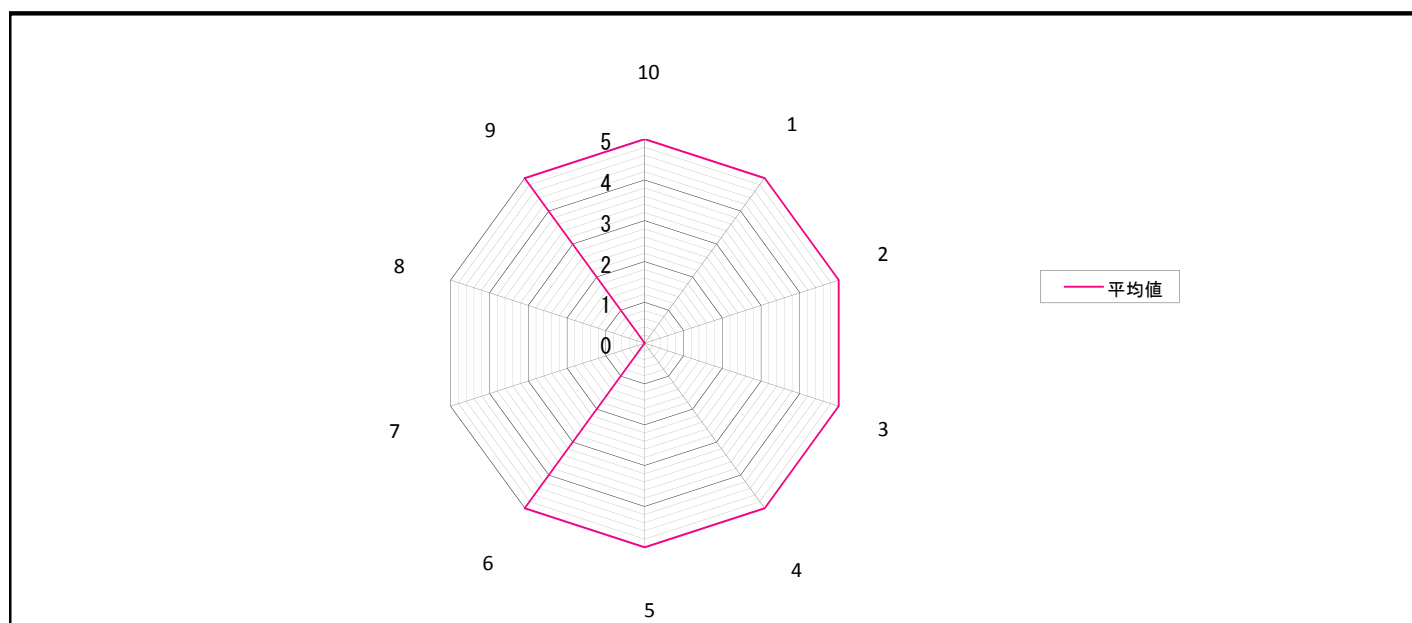
大学院入学までの学習体験が様々な学生が集まっていたが、この授業ではピアノの演奏技術、表現技術の基礎を中心に個別のレベルに応じた授業を行なった。これは受講生からも高く評価されていたようである。このように実技科目において、個別のレベルに応じて効果を上げる授業を行なうには、やはり個人指導を行なう必要を感じた。

# 結果報告書

授業科目名 ピアノ演奏法  
 評価実施日 平成21年7月23日  
 担当教員名 森 正, 村澤由利子

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。						2
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						2
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

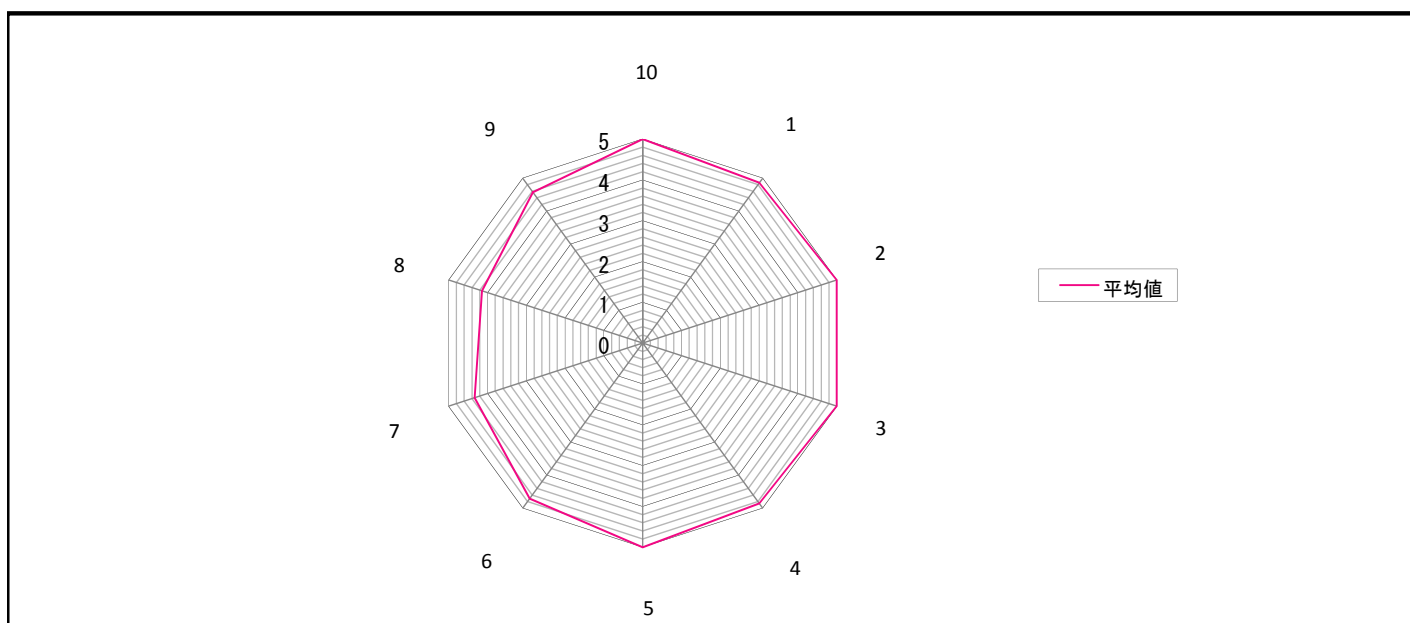
それぞれの受講生が必要とすることに応じた個人レッスンが、高く評価された授業であった。受講生の人数が少ないのは例年通りであり、授業の性格から当然ではあるが、お互いの意見交換などを活発にさせることについては、工夫が必要であった。

# 結果報告書

授業科目名 学校教材ピアノ伴奏法  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 山田 啓明

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				1	4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					1	5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	7					1	5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				1	4.9
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	7					1	5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	5	2				1	4.7
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2	1			2	4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	4	1			1	4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3				1	4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					1	5.0



## 教員のコメント

自由記述欄に、個々の学生の進度に合わせた指導ができていたので良かった旨の感想が多く見られたのは、演奏する曲を学生みずからに選んでもらったためだろうと思う。なお、基本的に歌の伴奏なので、朝の1限から声を出して歌うのはつらいとの意見があった。可能であれば、授業を午後に移す等して改善できればよいと思う。

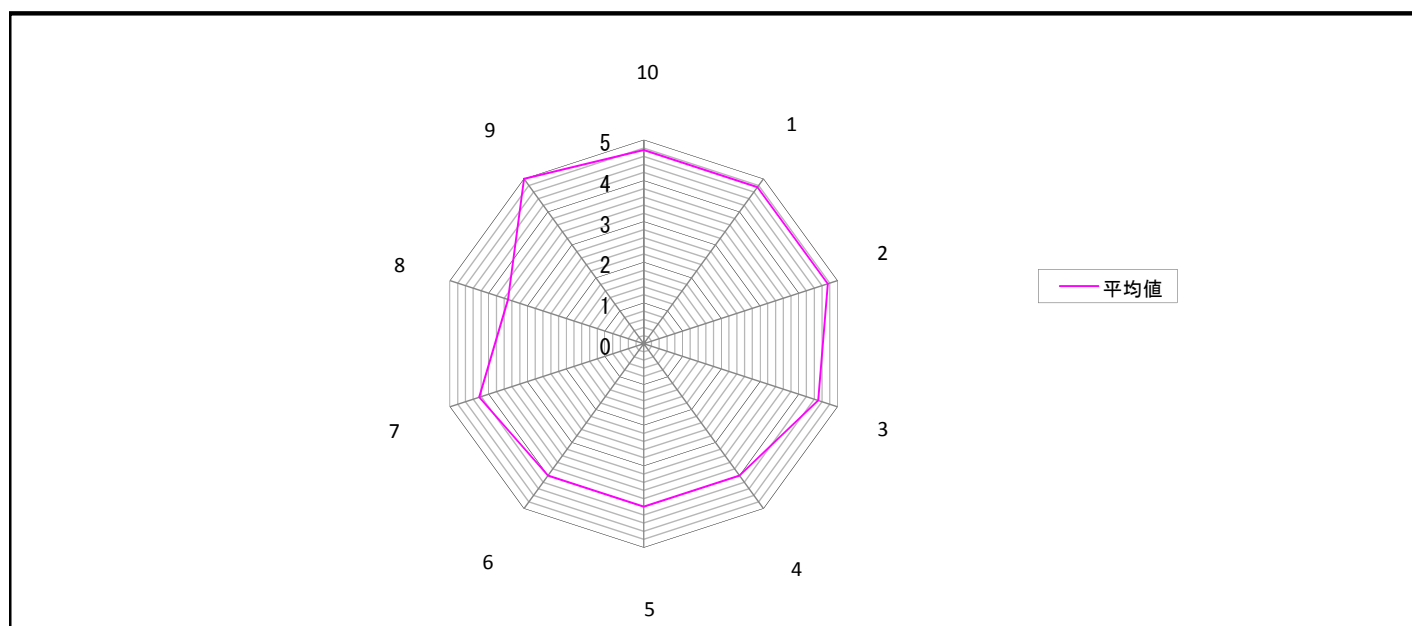


# 結果報告書

授業科目名 管弦打楽器演奏基礎  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 山根 秀憲, 小林 冬子

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2	1			4.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	1	2	1			4.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	1	2	1			4.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1	1			4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	1	1		3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



## 教員のコメント

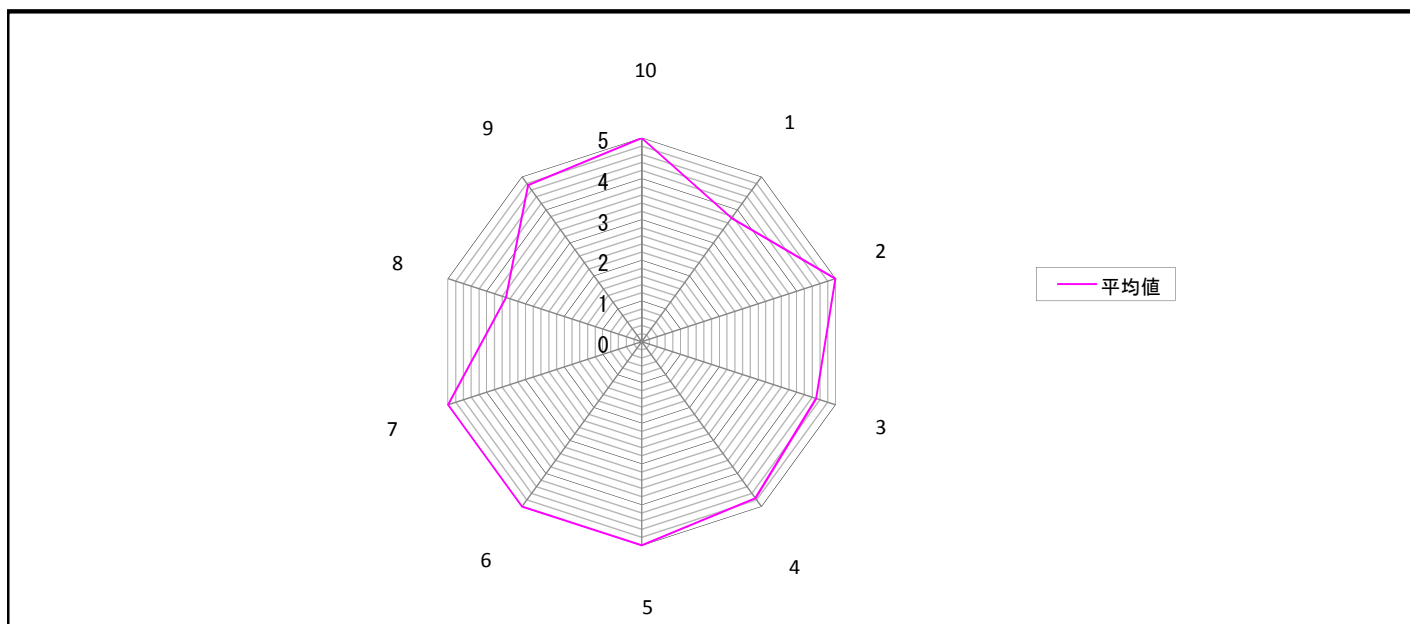
この授業全体の受講者数は、10名であったが、そのうち管楽器の分野の受講者は、5名で、この5名のみについて、授業評価を行った。授業評価当日、1名が欠席したため、4名から回答を得た。「授業内容について」は、5と4を選択しているため、特に問題はないようである。「教員の授業の進め方について」は、評価が分かれた。(8)は、主に、視聴覚機器の使用について問うものであるが、受講者の選択した楽器によって、視聴覚機器を使う場合と、そう出ない場合があるため、と思われる。

# 結果報告書

授業科目名 管弦打楽器総合演習  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 山根 秀憲

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1	2			3.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		2	2			3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

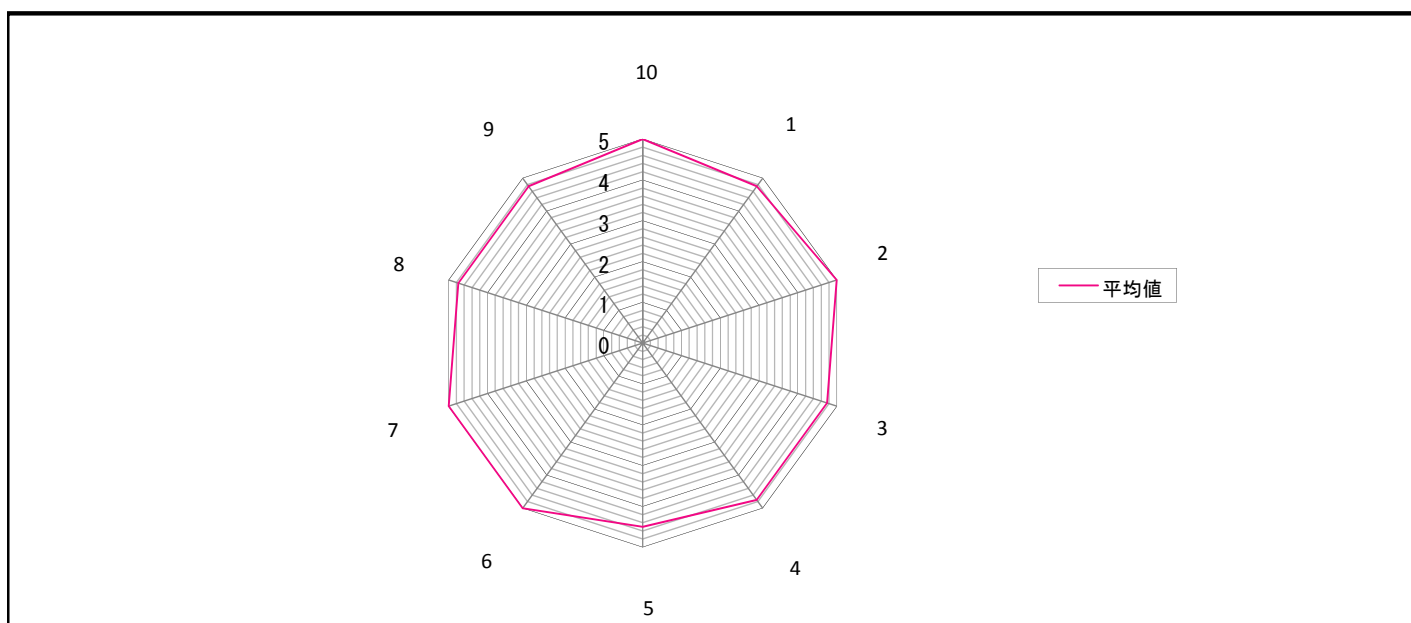
この授業全体の受講者数は、4名であり、全ての受講者から回答を得た。「授業内容について」のうち、(1)の評価に3を選択している受講者が2名いた。授業のタイトルにある、弦楽器と打楽器に関する内容が、この分野の教員がいないために、実際にはこの分野がカバーできていない、ということを示しているものと思われる。「教員の授業の進め方について」のうち、(8)は、主に、視聴覚機器の使用について問うものであるが、受講者の選択した楽器によって、視聴覚機器を使う場合と、そう出ない場合があるため、と思われる。

# 結果報告書

授業科目名 指揮法基礎演習  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 山田 啓明

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

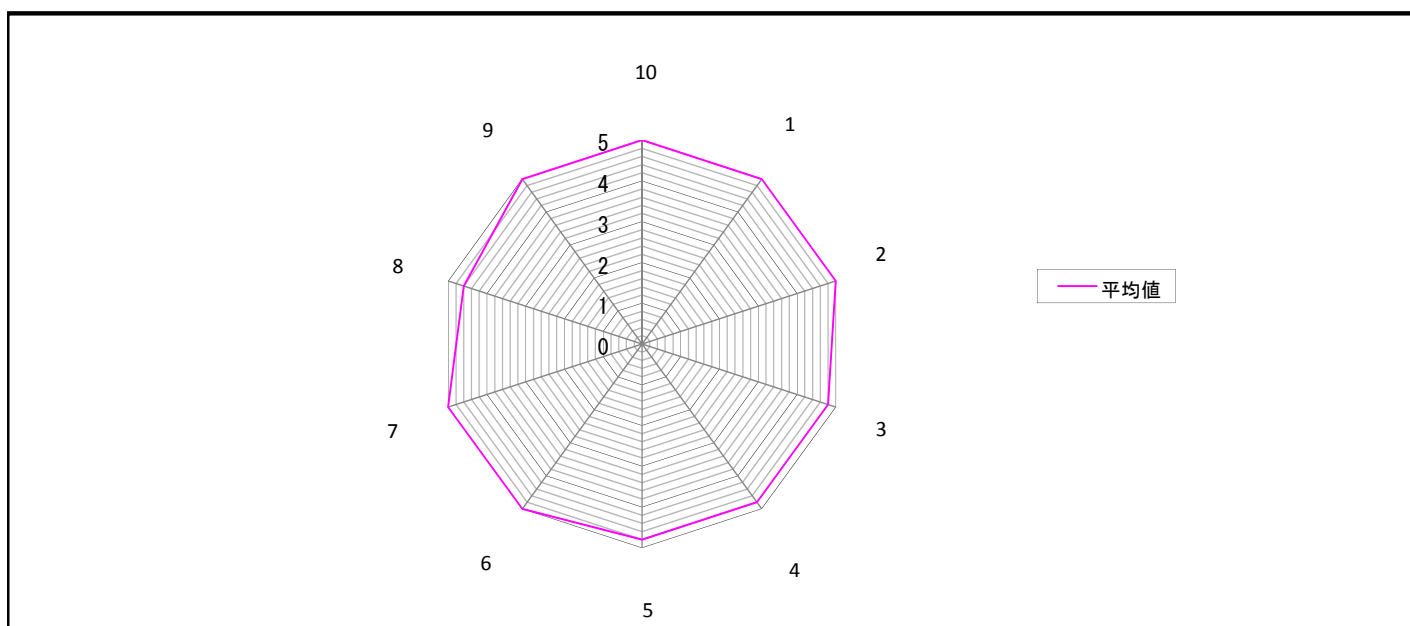
基本的には好評だったと思われる。ただし、授業者が指揮を実践的なケーススタディを積み重ねてゆくことでしか学べないと考えているのに対し、受講生の中に基礎的なことができなければいけないという先入観を持って授業に臨んでいる者もいて、「難しすぎる」と感じたらしいことが、自由記述の中で感じ取られたのは仕方のないことだと思う。

# 結果報告書

授業科目名 楽曲分析研究  
 評価実施日 平成21年7月24日  
 担当教員名 松岡 貴史

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



## 教員のコメント

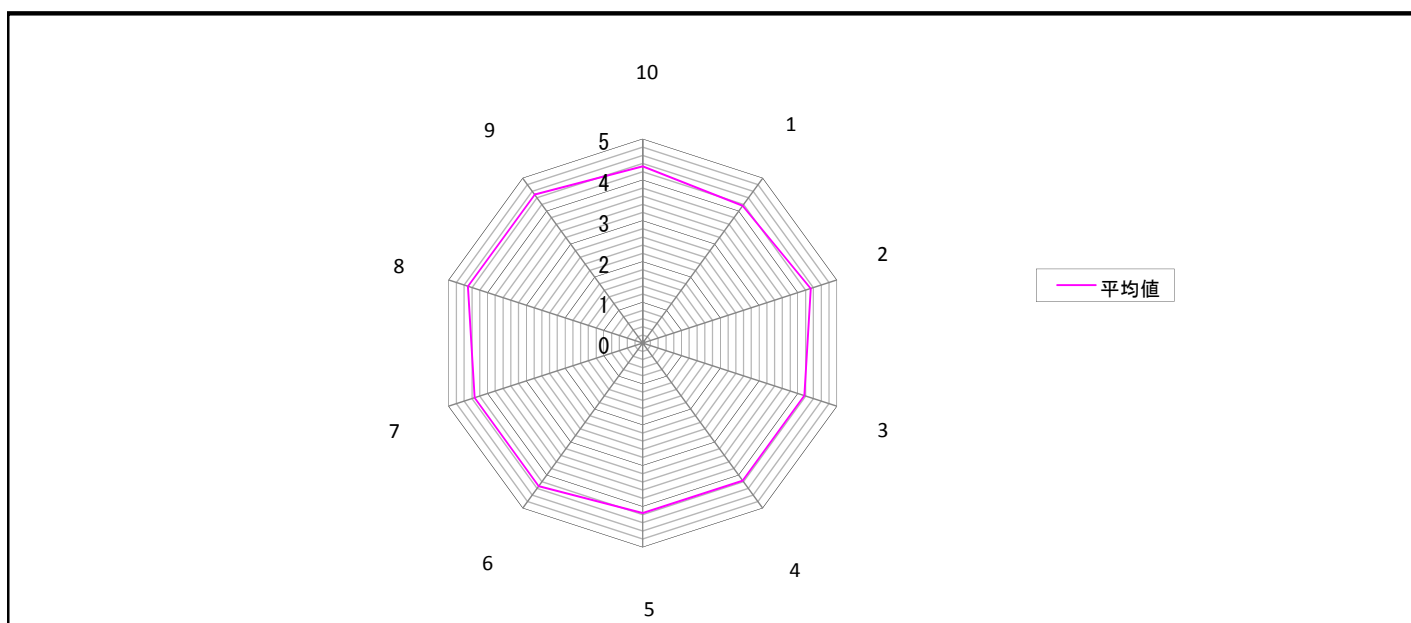
今年度は5名と受講生が少なかったが、さらに聴講生(既履修生)4名が加わり、活気のある授業となった。作品分析に先立ち、音構成と時構成に焦点をあて楽曲解釈のしかたを提示したのち、学校教材を含め、受講生が希望するさまざまな様式の楽曲について分析を行い、演奏表現にそれをどう生かすか、演奏を交えながら検討を行った。学生は終始積極的に取り組んだ。実際、毎回の授業において学ぶ意欲と内容の深まりが強く感じられ、その結果、点数評価においても、満足度の高い授業であったといえよう。ただ、授業評価アンケート自由記述の欄の記載が極めて少なく、たくさんの授業のアンケートに回答する学生にとって授業評価がマンネリ化しているとするれば、点数評価が高くて、実際のところどうだったのかなと思わざるを得ない。今年度も和声に関して授業外でケアする補習の時間を設け、指導していたので、それなりの成果は上がったものと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 絵画制作研究  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 西田 威汎, 鈴木 久人

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1	2			4.2
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2	1			4.3
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2		1		4.2
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2		1		4.2
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	2		1		4.2
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	1		1		4.3
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1		1		4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1			4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1		1		4.3



## 教員のコメント

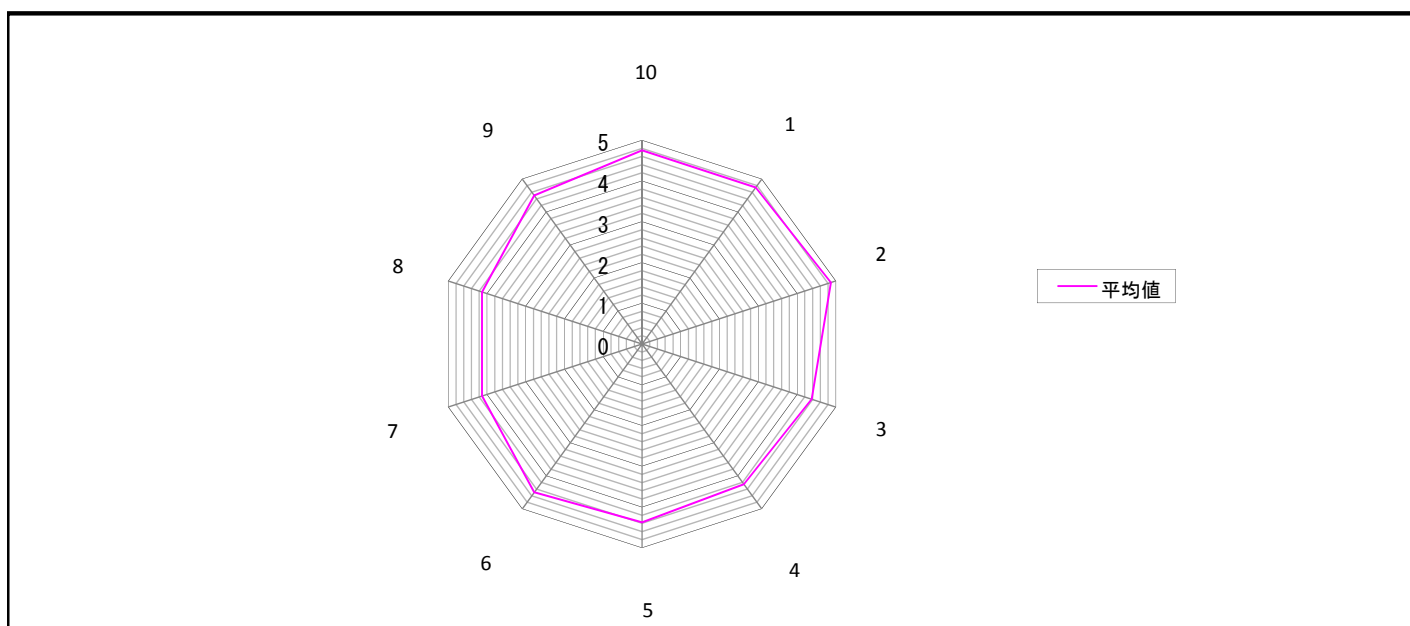
すべての項目で平均値が4を越えていることは概ねこの授業の内容が好意的に受け取られていると考える。  
 ただし授業の内容, 進め方, 総合評価で2と評価した学生がいる点は授業者にとって反省材料である。  
 特に総合評価で一人でも2の評価をしたものがあることは今後より授業の内容, 進め方について丁寧な検討をくわえる必要がある。

# 結果報告書

授業科目名 版画制作演習  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 武市 勝

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1				4.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1	2			4.4
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2	2			4.3
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	5	2		1		4.4
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	5	2	1			4.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	4		1		4.1
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1	3			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2	1			4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	2				4.8



## 教員のコメント

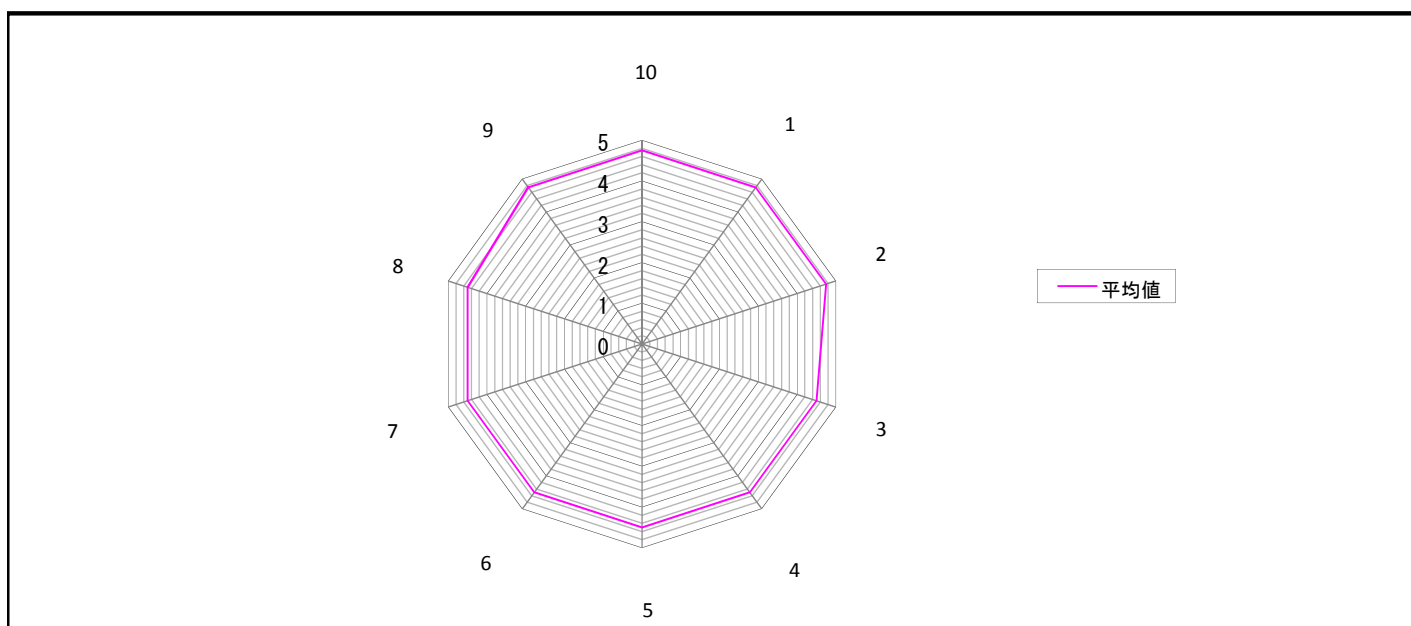
本年度の内容は昨年とほぼ同じである。  
 ただ、昨年は希望者にのみシルクスクリーンの簡単な手ほどきを行ったが、今年度は行っていない。  
 理由としては、やや今年度の受講生に余裕がなかったのではないかと感じている。  
 授業進行の項目で2にチェックをした受講生が見られるが、早いのか遅いのかこれだけでは何とも言えない。  
 今年度も授業の最後に作品の額装をさせ、一階のギャラリーで展示を行った。  
 授業開始時に話してあることもあり、このことが大学院生のモチベーション向上に役立っているのは確かである。

# 結果報告書

授業科目名 塑造制作演習  
 評価実施日 平成21年7月29日  
 担当教員名 長岡 強

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2	2				4.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



## 教員のコメント

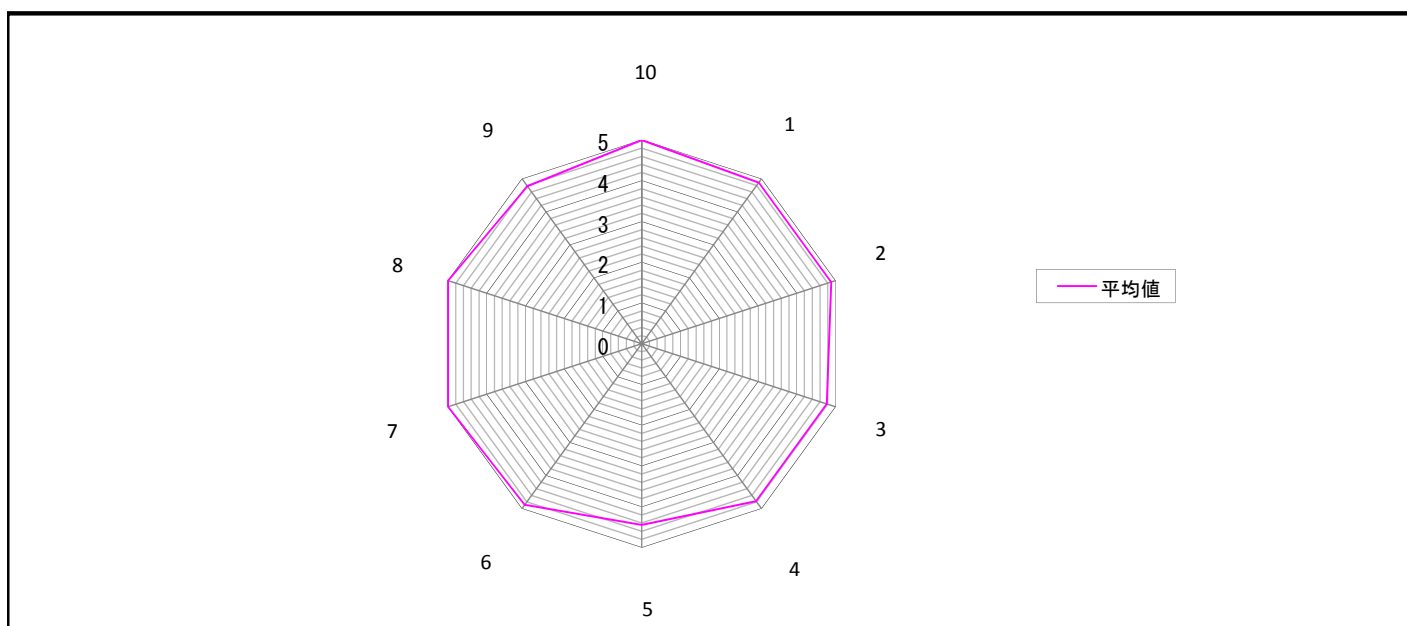
受講生が少なく、個別指導が徹底したため、すべての調査項目について4.5以上の評価を得た。改善すべき指摘もなく、受講生にとって満足のいく授業であったと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 石彫制作演習  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 野崎 窮

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1				4.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8		1			4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	5	3	1			4.4
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	8	1				4.9
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9					5.0



## 教員のコメント

質問項目(10)の「この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」が、9人の受講生、全員、5の評価をつけている。また、質問項目(5)の平均点がこの中では最低であるが、それでも4.4となっている。これらのことから特に反省することがないように見受けられる。しかし、今後、この評価に甘んじることなく、授業内容の質を高めるべく教材研究等をしていきたい。

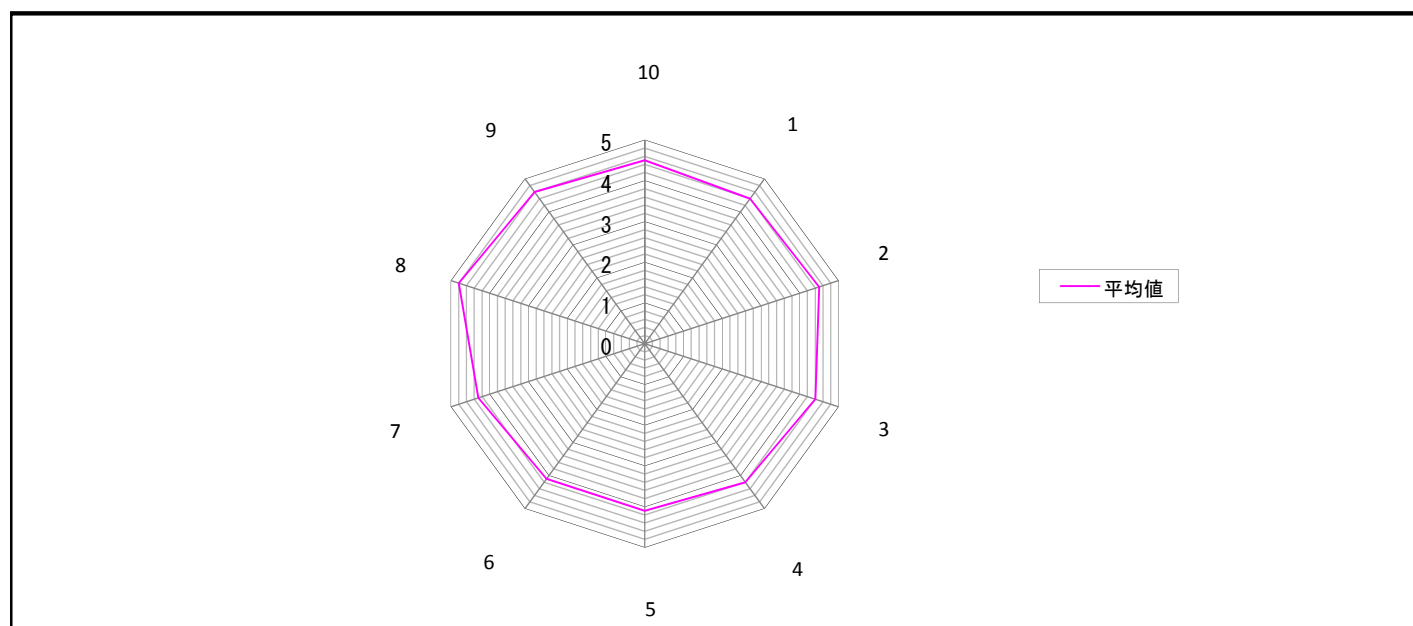


# 結果報告書

授業科目名 視覚デザイン演習  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 松島 正矩

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	6				4.4
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	5				4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	4	1			4.4
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	4	2			4.2
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	5	1	4			4.1
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	5	1	4			4.1
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5	3	2			4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2	1			4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	5				4.5



## 教員のコメント

この授業は、マルチメディア教育実習室のコンピュータを利用して行っている。美術コースの学生5名、他コースの学生5名が受講してくれた。出席率は平均95%くらいと高く、例年よりも意欲的に受講してくれたと感じている。

最初にデザイン関係のアプリケーションの習熟度を確認してから、全員が満足できるように、授業内容を再構築して進行した。グラフィックデザインは初めてという学生もいたのであるが、今年は幸いに人数が少なかったため、能力に応じて個別に指導することができ、理想的に授業を展開することができた。

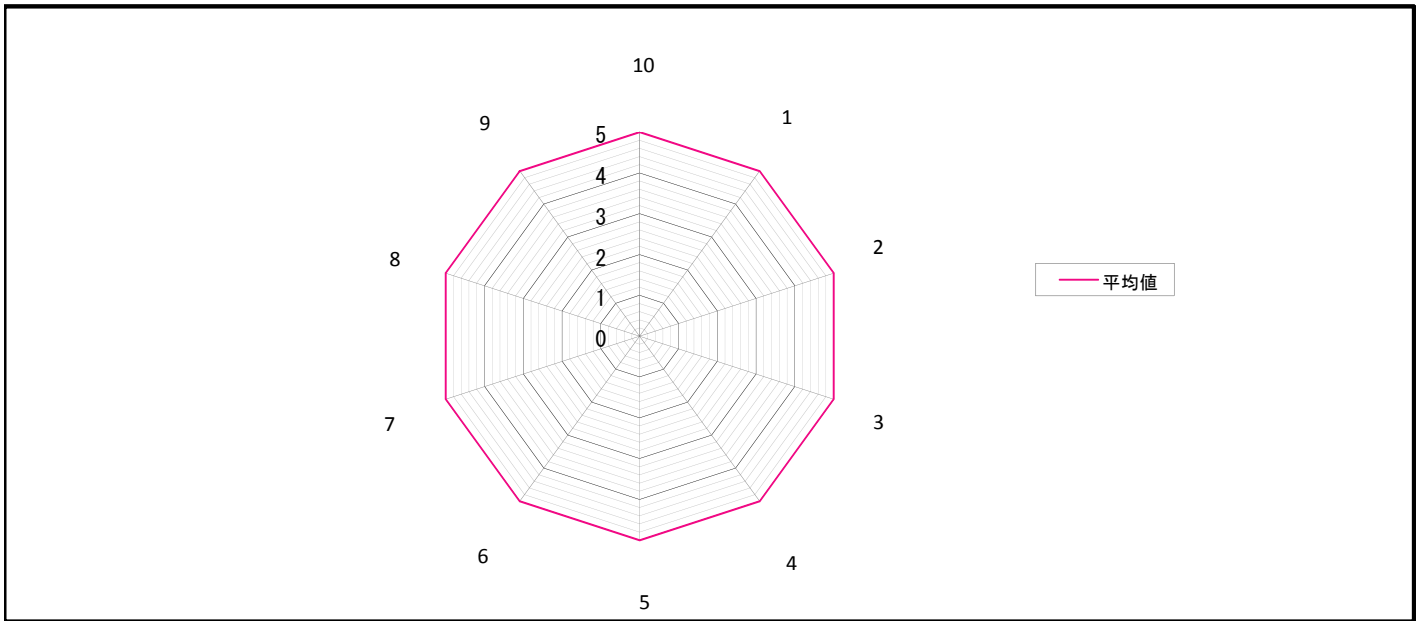
総合評価からは、完璧ではないけれど、すべての学生がこの授業に満足してくれた様子が見えるので、良好な評価をしてもらえたと感じている。

# 結果報告書

授業科目名 スポーツ人間学研究  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 綿引 勝美

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

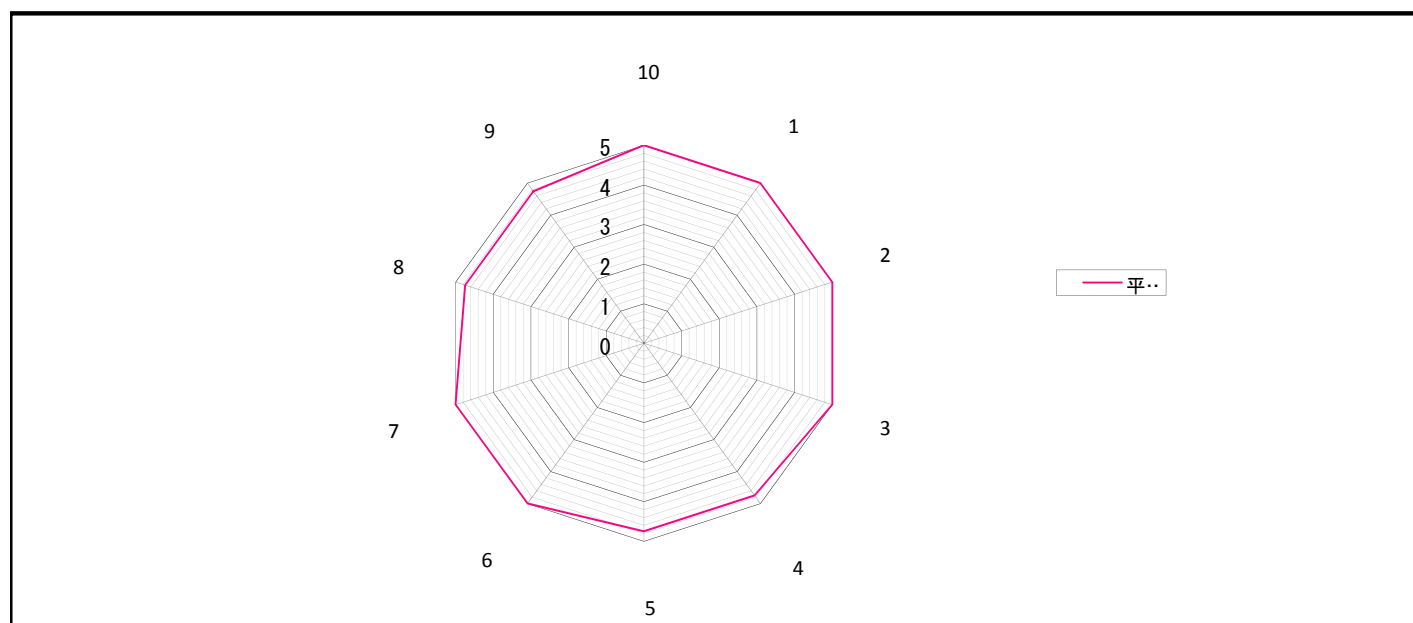
受講生の問題意識がたかく、それぞれに対応したきめこまかな指導ができたのではないかと自負している。とりわけ、スポーツ活動に長くたずさわってきた経験を受講者がもっていたため、トレーニング科学の基礎となっている人間観など細かなところまで立ち入ることができたことは大きな収穫であった。

# 結果報告書

授業科目名 スポーツ社会学研究  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 木原 資裕

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

受講生が4名であり、しかもその内3名が私の研究室のゼミ生という状況では、客観的な評価ができづらい受講生の心理的状況ではなかったかと推察する。その中で、平均4.8の評価となっている「教員の授業の進め方」に関する項目で、「(4) 成績評価の方法の説明は適切であった」に関して、授業当初に成績評価の説明がなされていなく、授業終了間際のレポート提出段階になって、説明している実態は改善しなくてはならないと反省している。

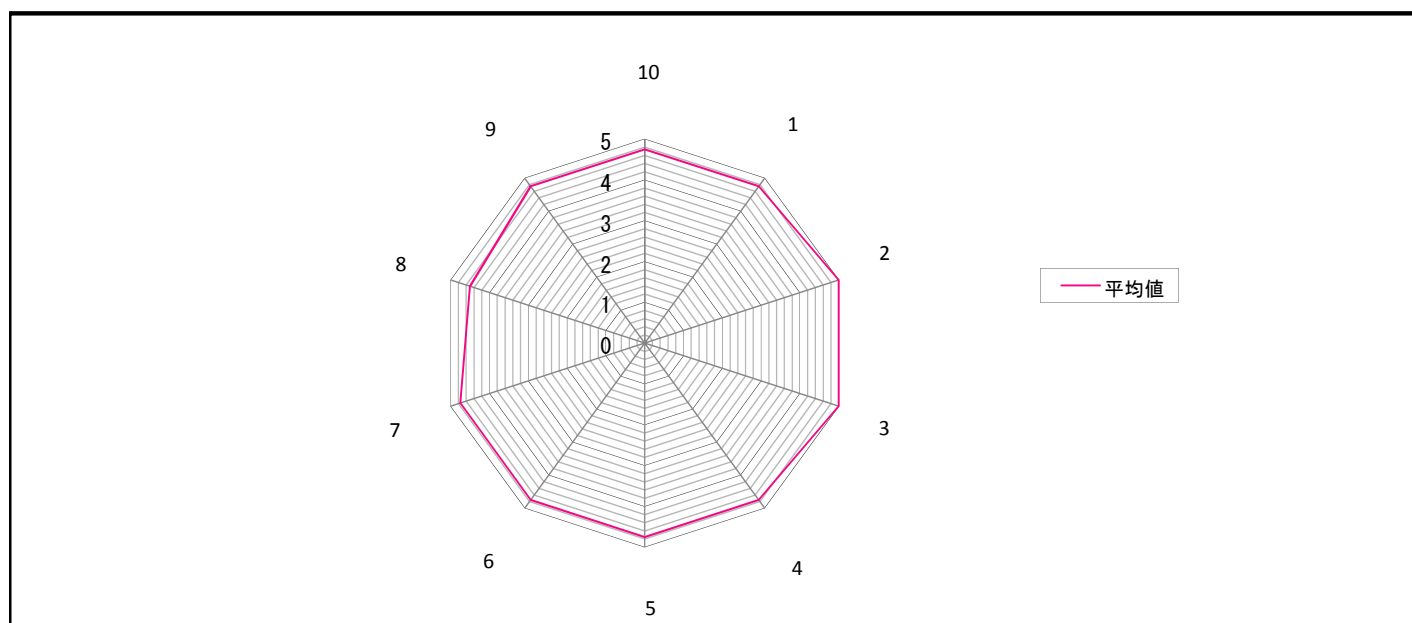
また、「(5) 授業の進む速さは適切であった」においては、1名の留学生が受講しており、専門書の資料を読むことがかなり苦労を要したものと思われる。しかしながら、全体的な進行を考えると、許容範囲の授業進行であったと判断している。「(8) 板書や視聴覚機器の使用は適切であった」では、予定していたDVDやビデオの視聴がE202教室に設置されている機器の混線により、視聴できなかつたり、機器の調整のため20分授業が遅れたりしたことがあり、事前の調整確認が必要であることを痛感した。次年度への改善点としたい。

# 結果報告書

授業科目名 学校体育経営研究  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 藤田 雅文

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



## 教員のコメント

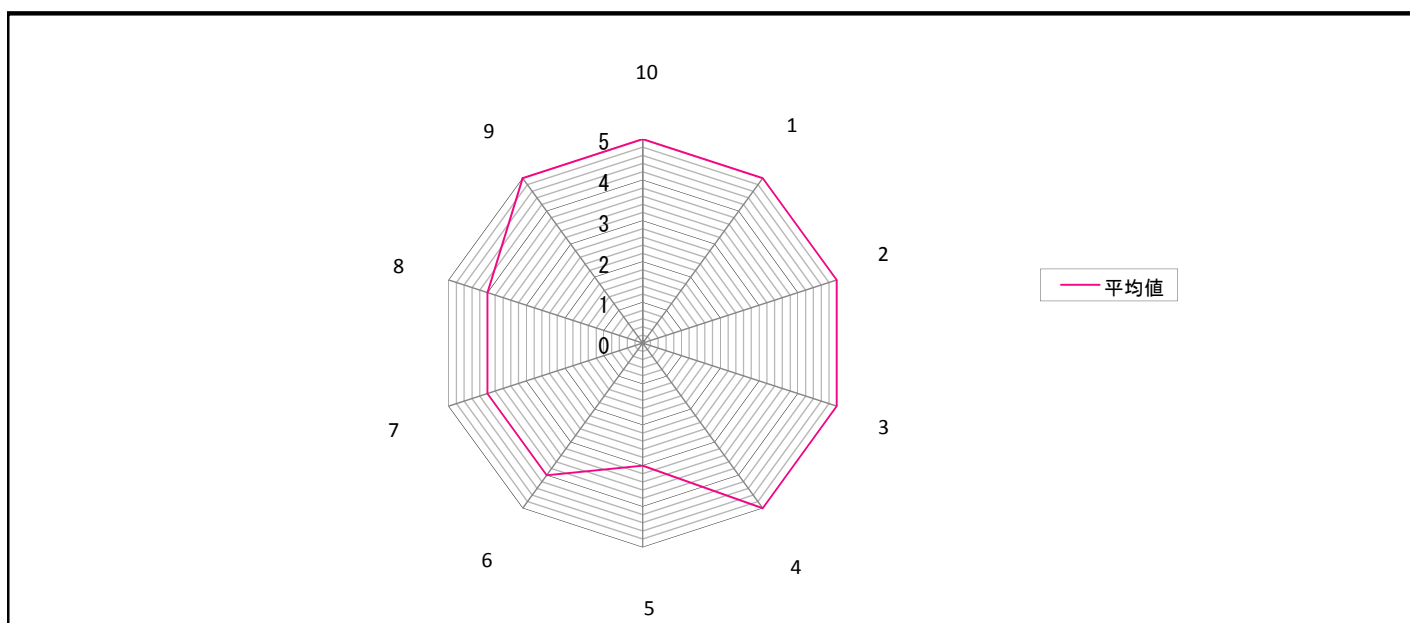
9項目の平均評価点は、5.0が2項目、4.8が6項目、4.5が1項目で、総合評価も4.8であることから、高い評価を得たと考えている。  
 テキストを紹介したが、高価であるためか、購入する者がいなかったため、資料を配布しながら授業を行なった。  
 今年度は、中学校の現職教員が受講しており、学校体育経営の事例発表を行ってもらった。  
 項目2・3が満点に評価されたのは、そのためではないかと考える。  
 板書や視聴覚機器の使用については、今後さらに工夫したいと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 運動学研究  
 評価実施日 平成21年7月24日  
 担当教員名 乾 信之

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。			1			3.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。		1				4.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。		1				4.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



## 教員のコメント

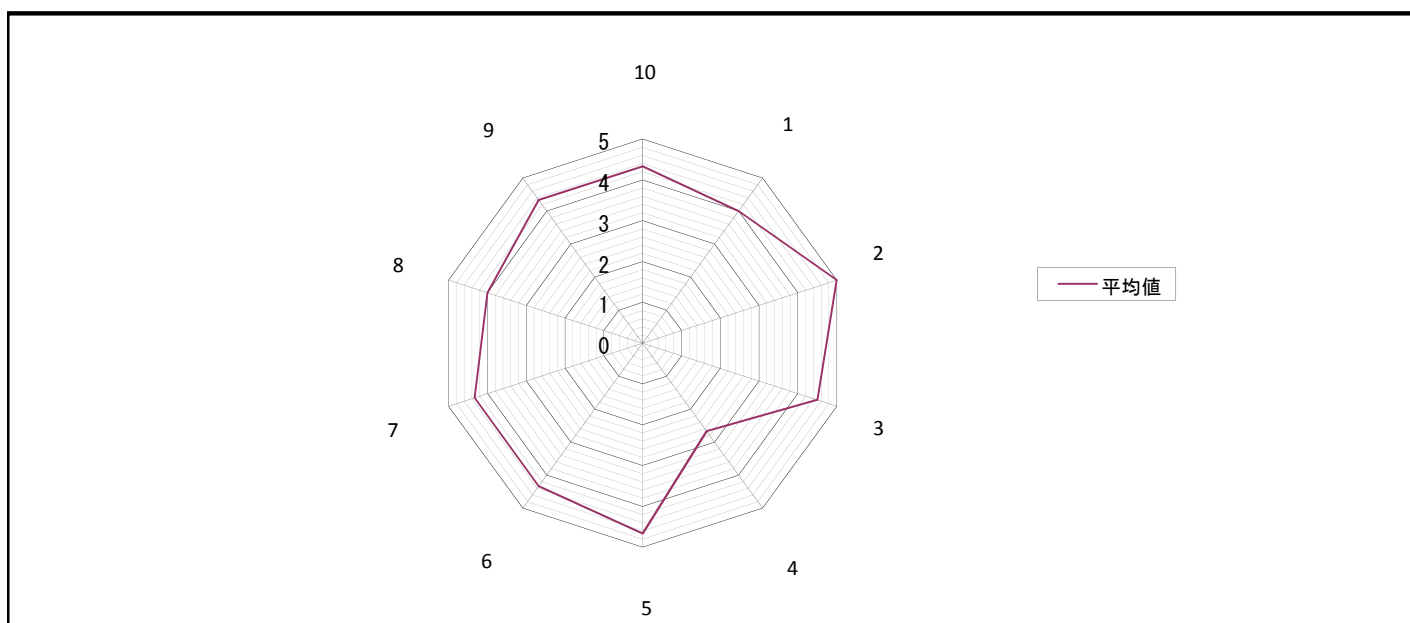
受講生は数学の院生1名であり、体育の基礎知識は皆無であったので、学部の運動学の講義を最初に行った。次に、受講生の興味に応じて、演算ソフトウェアのIGOR proを用い、実験データの処理を課題として与えた。10名の被験者が行った同じ実験であるが、所要時間もデータ数も異なるデータを各被験者毎に標準化する課題である。受講生は講義同様に、データ処理の課題も熱心に取り組み、このことが授業評価に反映された。

# 結果報告書

授業科目名 スポーツ・バイオメカニクス研究  
 評価実施日 平成21年7月13日  
 担当教員名 松井 敦典

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2			1		4.0	
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0	
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				1	4.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。		1	1		1		2.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	1					4.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	1	2					4.3
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2					4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2			1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2					4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	2					4.3



## 教員のコメント

受講生は生活・健康系(保健体育)コースに所属する学生2名、それ以外のコースの大学院生が1名の、計3名であった。コース内学生は体育学的・運動学的な、コース外学生は物理学的・力学的な知識と理解を持ち合わせていたが、それぞれの不足する理解を両立させながら授業をすすめることに若干の困難があった。

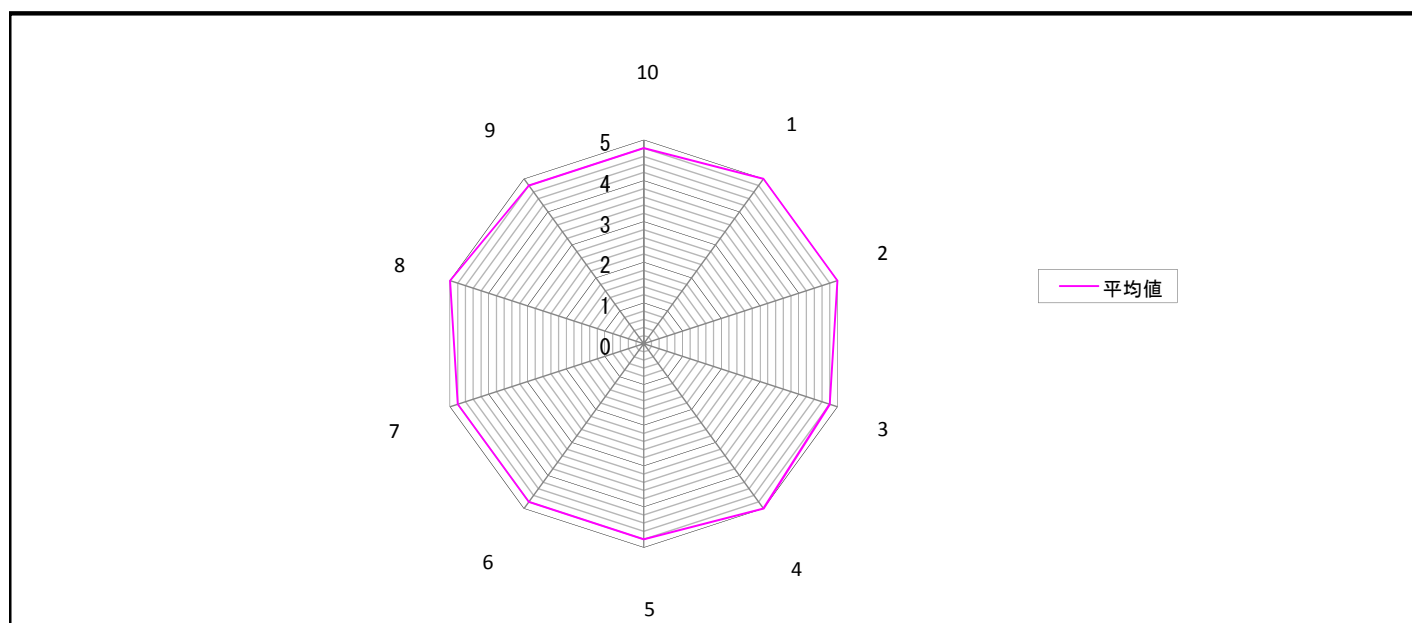
本年度も小実験やプレゼンテーション課題を課し、学校の授業に応用できる実践的な事例を取り扱うよう心がけたが、例年になく少人数であったことと、受講生の遠慮がちな受講態度も評価結果に反映していると思われる。今回は貴重な指摘も受けたので、それに関する対策も考慮しながらさらに改善していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 スポーツ情報研究  
 評価実施日 平成21年7月13日  
 担当教員名 田中 弘之, 綿引 勝美, 松井 敦典

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



## 教員のコメント

本授業は、コース所属の大学院生が修士論文を作成するために必要なITリテラシーについて、個々の現状を把握し、それを発展・強化するために開設された教科専門科目である。その目的上、保健体育コースの中でも文系的・理系的なデータ処理を含めた保健体育の広い領域を網羅するため、3人の担当教員で分担している。

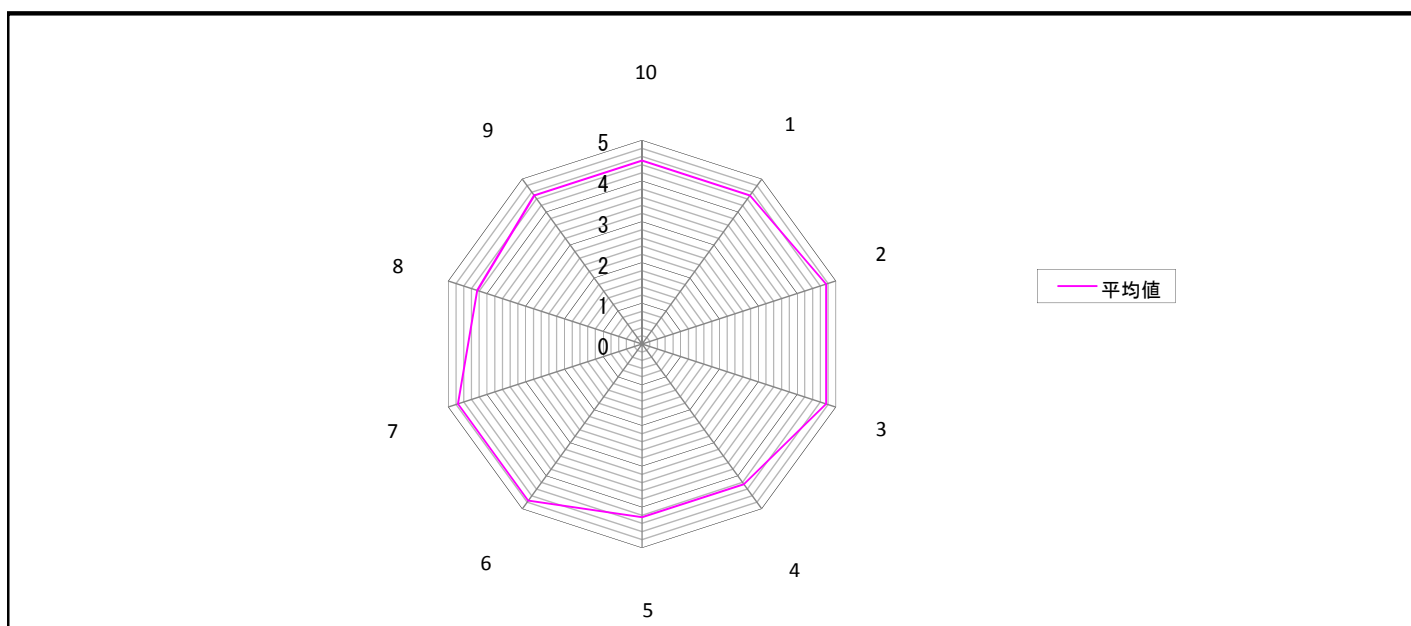
授業の性格上、受講生の受講動機および目的意識は明快であり、それが授業評価の結果にも反映していると思われる。評価は概ね良好であり、授業の目的が満足されていると考えられる。今後はコース所属の大学院生の多くが選択し受講できるよう、啓蒙していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 学校保健学研究  
 評価実施日 平成21年7月23日  
 担当教員名 吉本佐雅子

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1	1			4.3
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	1	1			4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2				4.5



## 教員のコメント

全体として、前年度よりも高い評価が得られた。この主な理由として、本年度の受講者は4名(他コースの院生、本コースの長期履修生(2年))と少なかった事、また、彼らは学校保健に関する学習背景を持たないため、学部レベルでの授業内容に変更した事が挙げられる。  
 教員としては、今後、授業内容を修士課程レベルに引き上げることが必要と考えている。

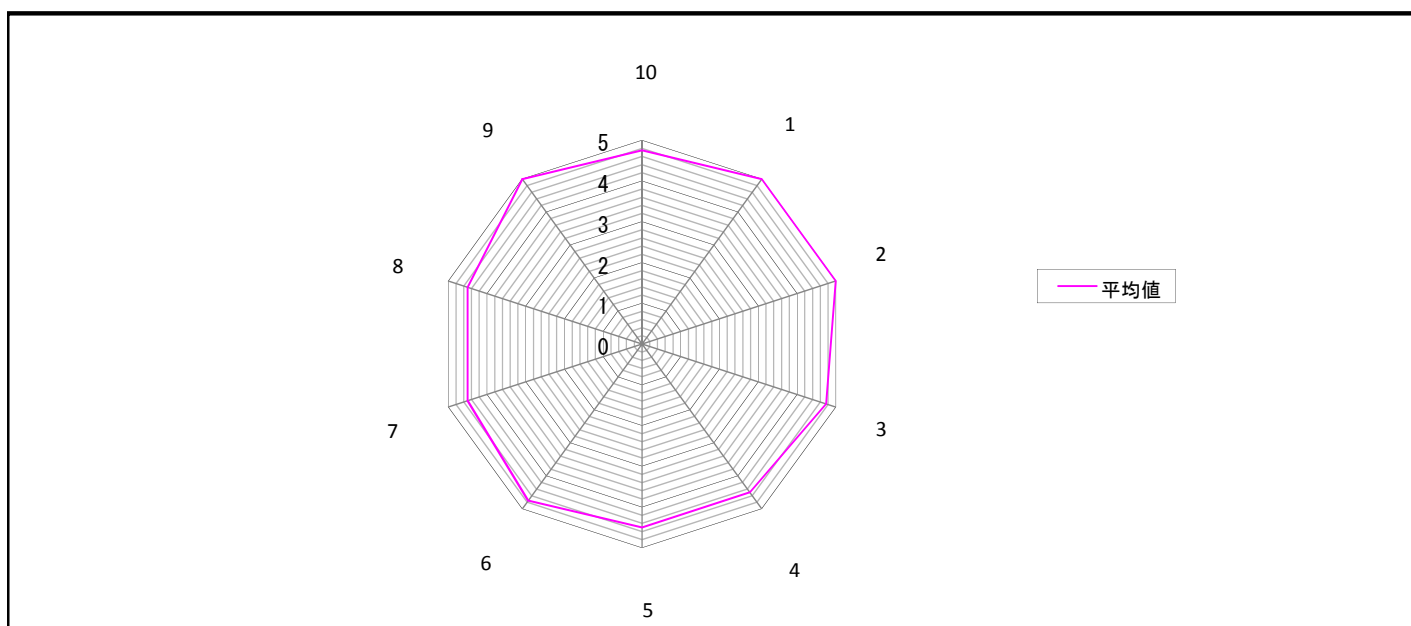


# 結果報告書

授業科目名 健康科学研究  
 評価実施日 平成21年7月24日  
 担当教員名 廣瀬 政雄

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3		1			4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



## 教員のコメント

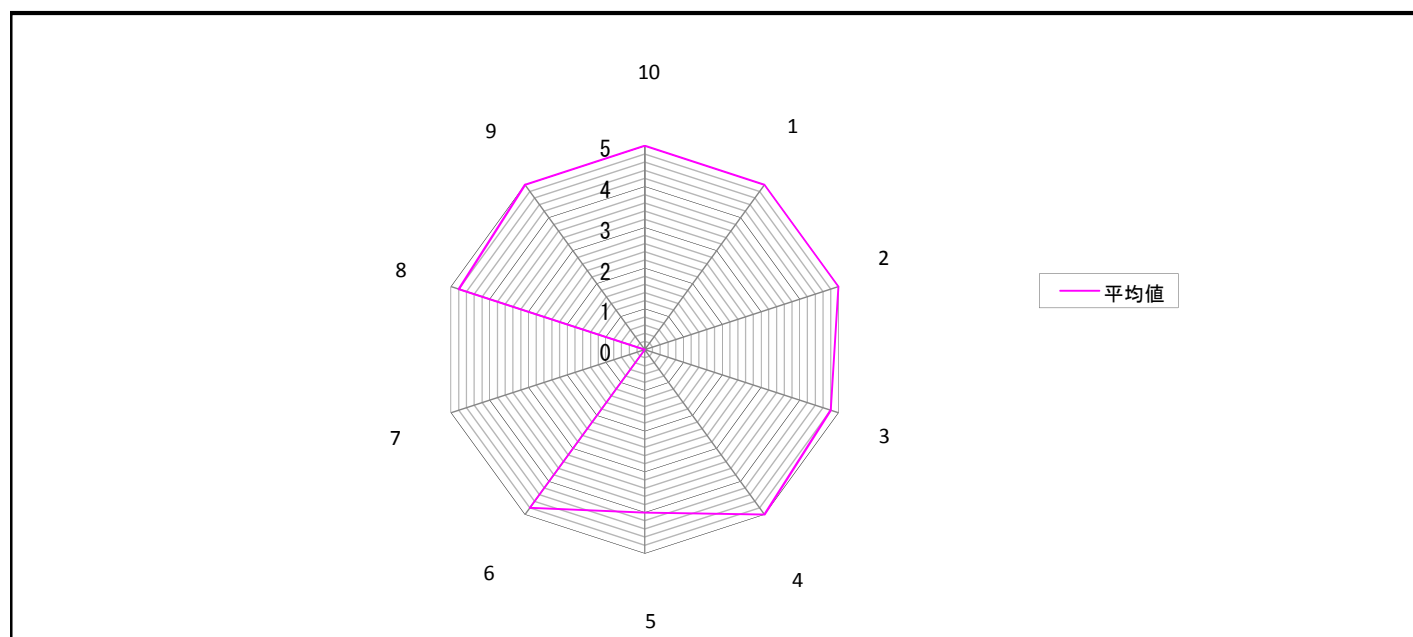
受講者数が4人と少なかったために、一人ひとりの興味や理解度に留意しつつ授業を進めた結果、おおむね満足する結果となった。初めて接する医学的な内容の授業であっても、取り組み次第で、授業を楽しませ、かつ健康を理解させることが可能であると考えさせる結果である。

# 結果報告書

授業科目名 運動生理学研究  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 田中 弘之

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	2		1		4.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。						5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



## 教員のコメント

評価の平均値は4.8であり、総合評価においても全員が5と判断していることから、所期の講義目的は概ね達成されたと考えられる。『授業の進む速さは、適切であった。』について、2の評価があるが、受講生には、運動生理学を専門とする大学院生、他コースの大学院生、日本語を母語としない大学院生等が混淆しており、容易には解決し難い課題であると思われる。

自由記述欄の概観では、『運動生理学的観点から、子どもから大人までの健康について深く考えることができるような内容だった。』『受講者が能動的に講義に参加することができ、身体の構造や仕組みを積極的に学習することができた。』『最初は授業のスピードにとまどったが、それが私の勉強意欲を高め、よい経験になった。』『生理学の科学的知見に基づいたデータを活用することによって、より内容を深く理解することができ、それを実践で活かせるようなところまで話をしてくれたので、大変有意義であった』等、概ね好評であった。

改善するべき点としては、『速すぎて、パワーポイントの内容をノートに書ききれないし、自己学習課題は板書して欲しい。』の一件のみであり、今後の参考意見として考慮したいと考えているが、総じて授業改善に関する強い要望は認められなかった。

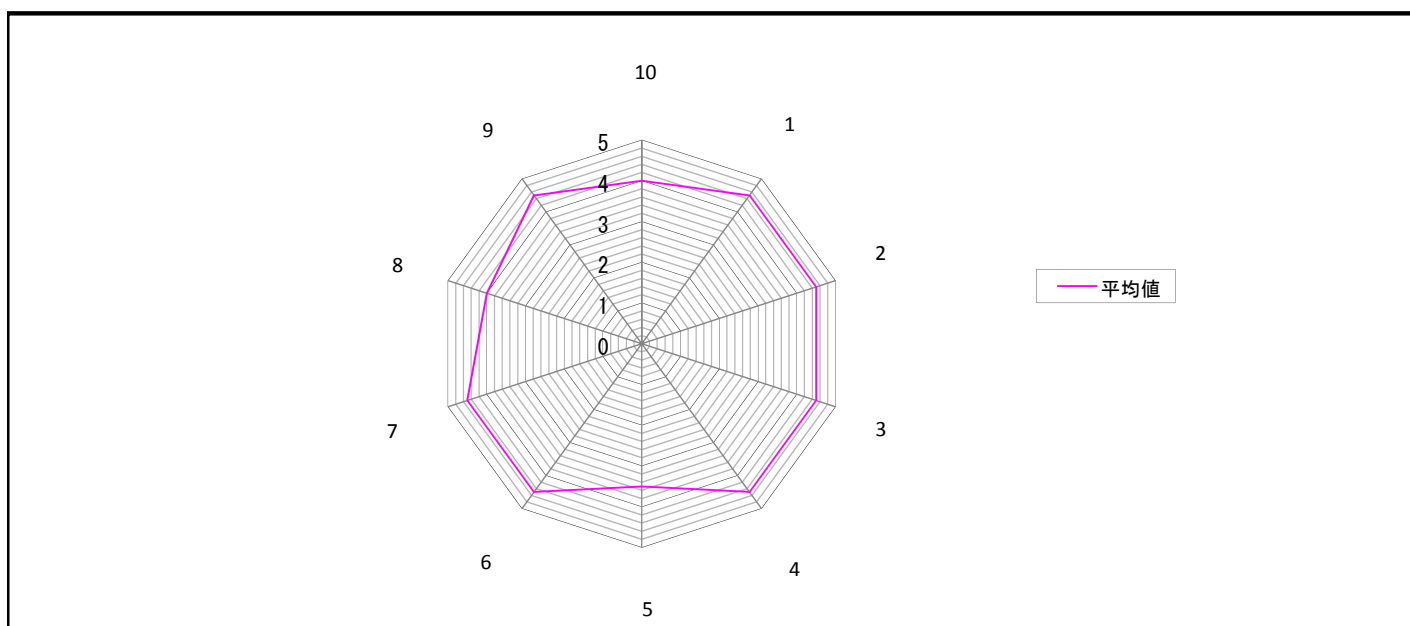
授業のより実践的で、効率的な運営については今後も継続して検討を重ねたい。

# 結果報告書

授業科目名 情報処理研究  
 評価実施日 平成21年7月21日  
 担当教員名 菊地 章

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。		1	1			3.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		2				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		2				4.0



## 教員のコメント

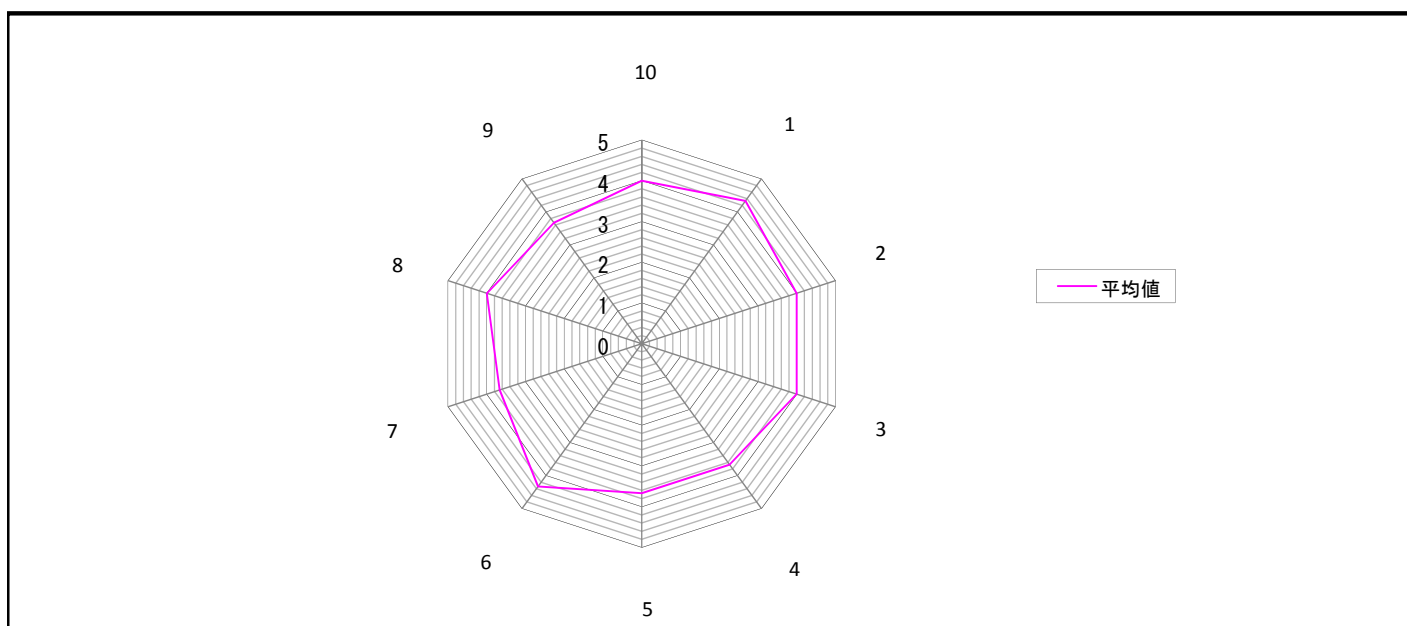
本年度は通常を受講者よりも人数が少なかったものの、受講者の反応が弱く、授業進行のペースを設定することが難しかった印象がある。受講者の興味関心が毎年違うため、授業運営に難しさを感じている。この授業評価では、授業進行が早すぎたのか遅すぎたのかが判断できないが、ある意味ではスピードを落として授業を進めたため、遅すぎた印象を受講生が持った可能性もある。授業進行のスピードについては今後さらに改善していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 機械工学研究  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 宮下 晃一

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2				4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1	1			4.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	1			4.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1		2			3.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。		2	1			3.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2		1			4.3
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。		2	1			3.7
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2	1			3.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1	1			4.0



## 教員のコメント

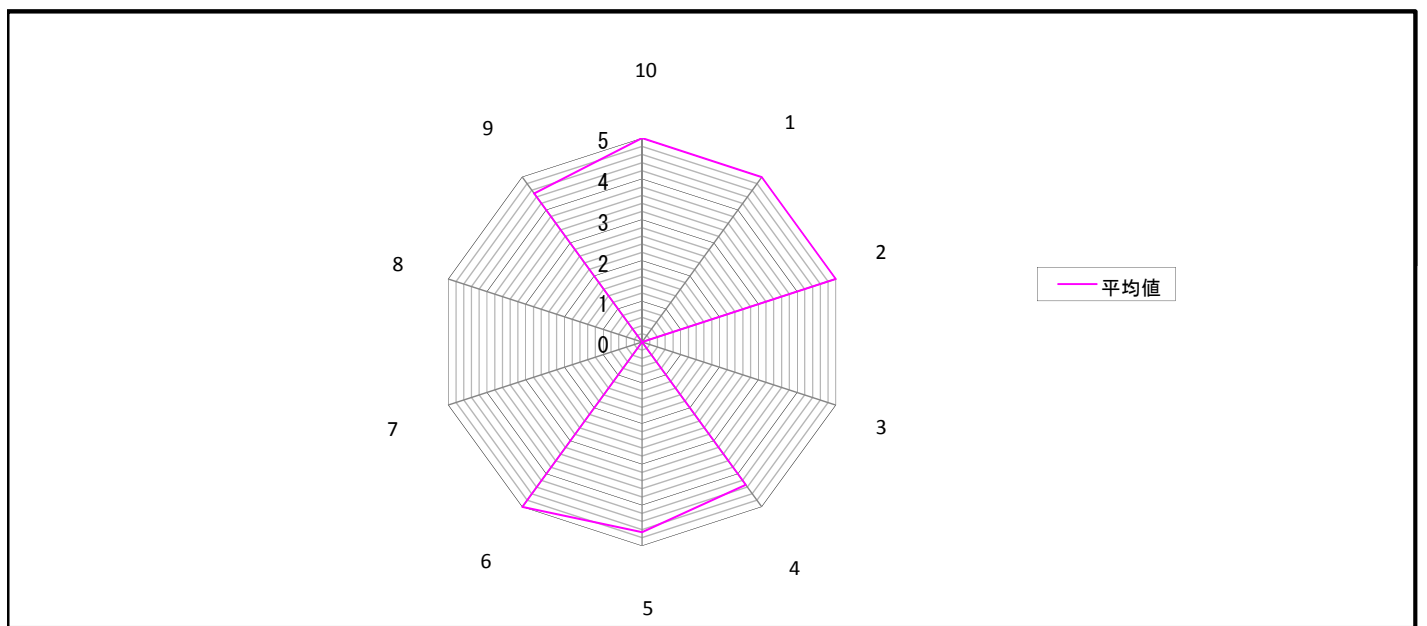
概ね良好な評価を得ている。  
 この授業はコンピューターを使った設計を行う内容であるが、端末室PCの能力不足によってソフトが動かないため、研究室のPCを使って実施しているのが現状である。そのため、一名の学生から「機器が足りない」とのコメントを受けているが、次期の情報システム導入時には解消することを願っている。

# 結果報告書

授業科目名 材料及び加工学研究  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 米延 仁志

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0	
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0	
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。						3	--
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2		1			4.3	
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7	
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0	
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。						3	--
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						3	--
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				1	4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					1	5.0



## 教員のコメント

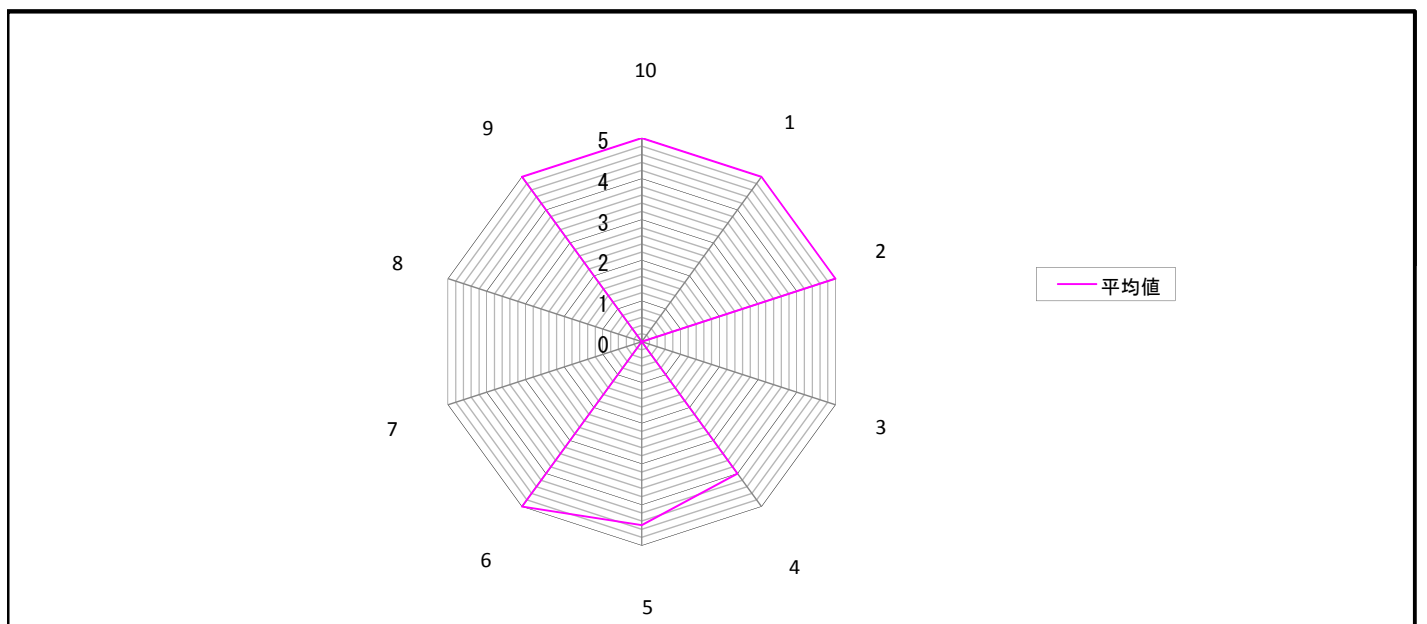
総合評価(10)では受講生3名中2名から高い評価を得た。今後とも受講生に関心を持ってもらえるよう講義内容の改善に努めたい。

# 結果報告書

授業科目名 材料及び加工学演習  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 米延 仁志

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。						2
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1		1			4.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。						2
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						2
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

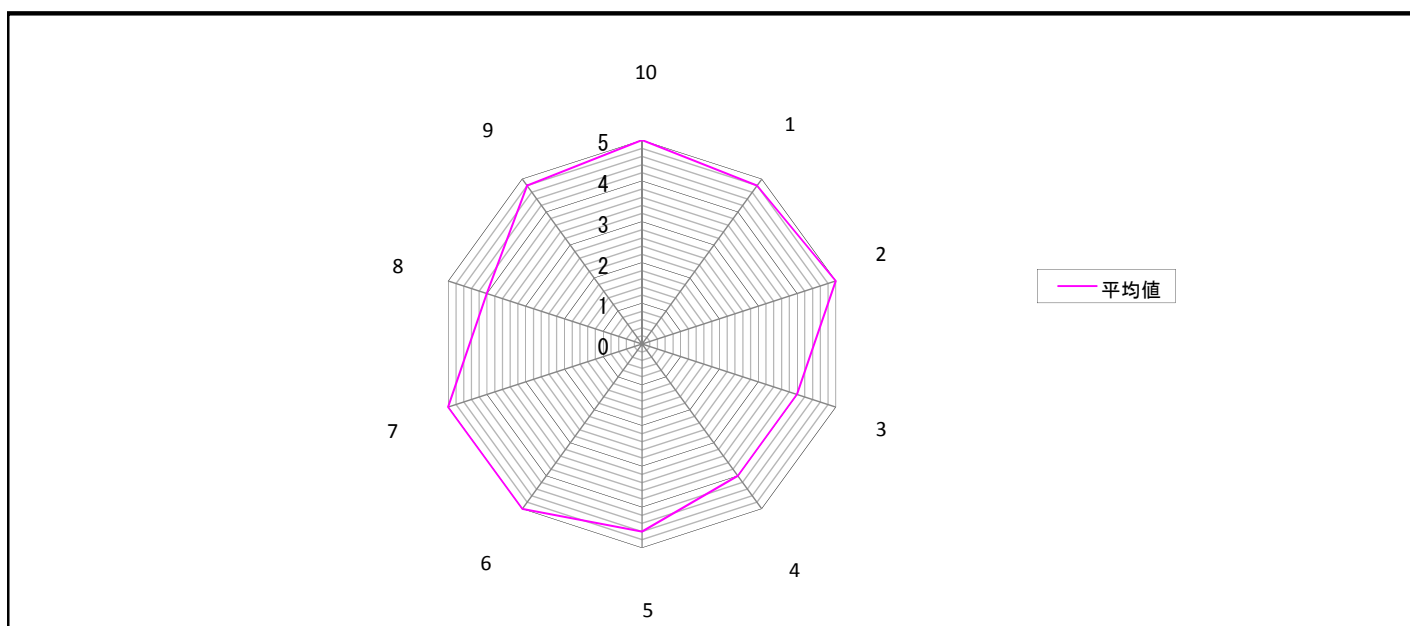
総合評価(10)では受講生から高い評価を得た。今後とも受講生に関心を持ってもらえるよう講義内容の改善に努めたい。

# 結果報告書

授業科目名 木質材料加工法演習  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 米延 仁志

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。		1				4.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1	2			4.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1				4	5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1			4	4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



## 教員のコメント

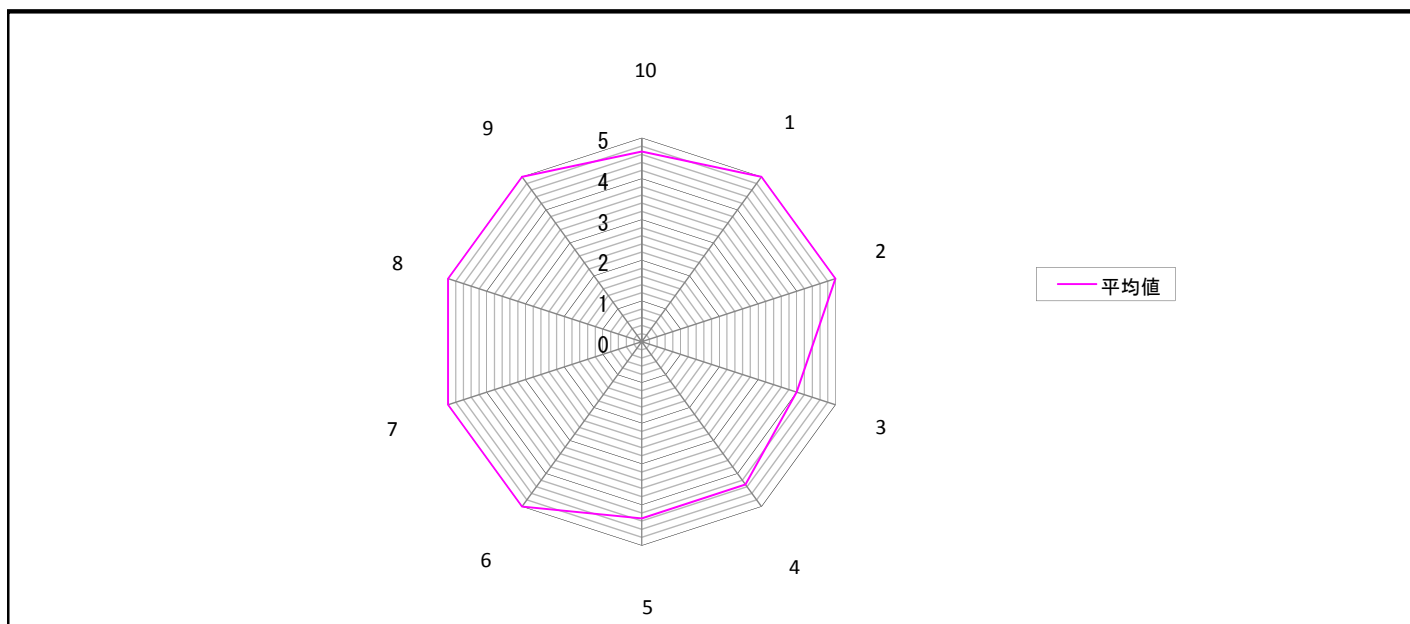
総合評価(質問項目10)で受講者全員が5を付けたことから、おおむね高い評価を得られたと考えている。質問項目(9)についての回答からも、受講者が非常に積極的に取り組めたことがわかる。また例年どおり講義終了後も受講生が新たに、あるいは改良のために制作品を持ち込みに来ていることは非常に嬉しい限りである。一方で、成績評価については他の項目よりも大きなばらつきがみられた。技能レベルは受講生によって大きく違うため、講義開始前と終了後の技能向上の度合いや、学校教育では重要な作業の安全確保への配慮が身につくかどうかを重視して成績評価を行っている。そのために第1時間目に資料を配付し、制作演習中にも個別指導を行っているが、受講生にこのことが伝わりにくかったように思われる。来年度はこの点を改善したい。

# 結果報告書

授業科目名 情報科学研究  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 伊藤 陽介

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。		3				4.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2				4.3
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	1	2				4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



## 教員のコメント

3名の受講者数では、客観的な授業評価は難しいが、総合評価は高く、本授業の内容と進め方について問題は少ないと推測される。授業で取り扱う内容が専門的であるため、やや教師の実践力育成につながりにくいような印象を与えているので、今後授業方法ならびに教材などにおいて改良が必要である。また、受講生のコメントから、概ね本授業について満足できていることが読み取れた。

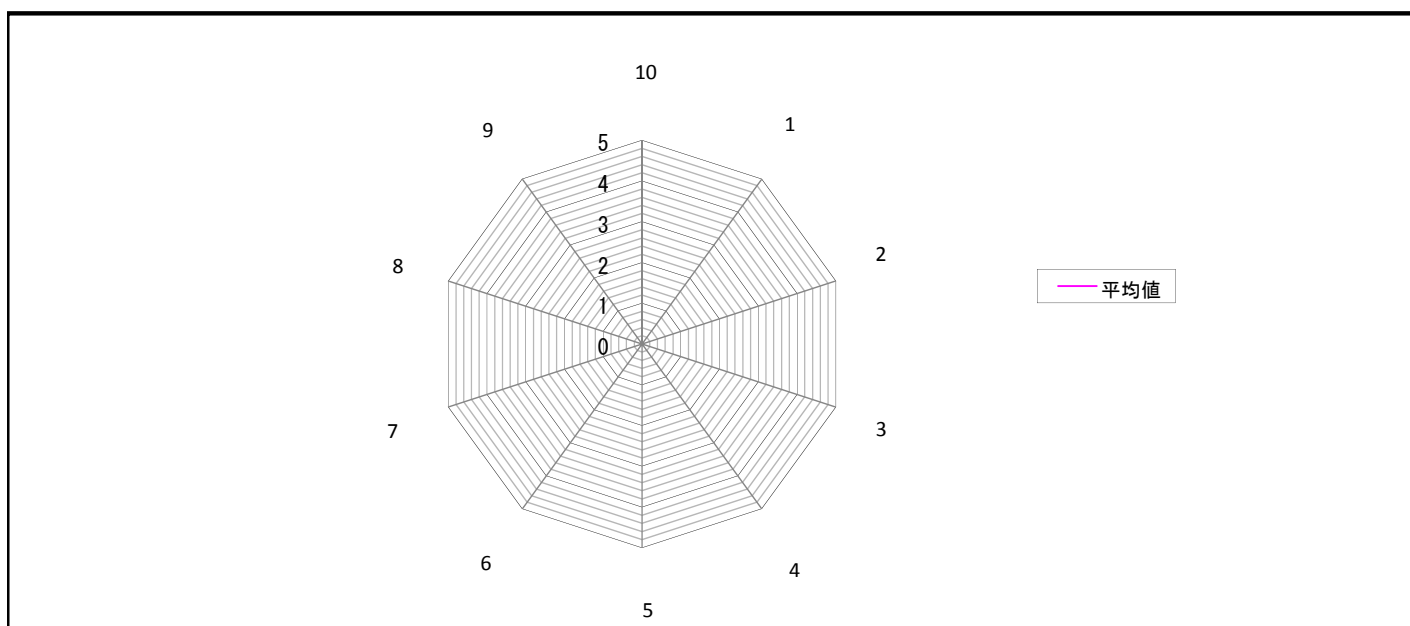


# 結果報告書

授業科目名 家族・ジェンダー研究  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 黒川 衣代

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。						2
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。						2
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。						2
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。						2
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。						2
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。						2
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。						2
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						2
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。						2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。						2



## 教員のコメント

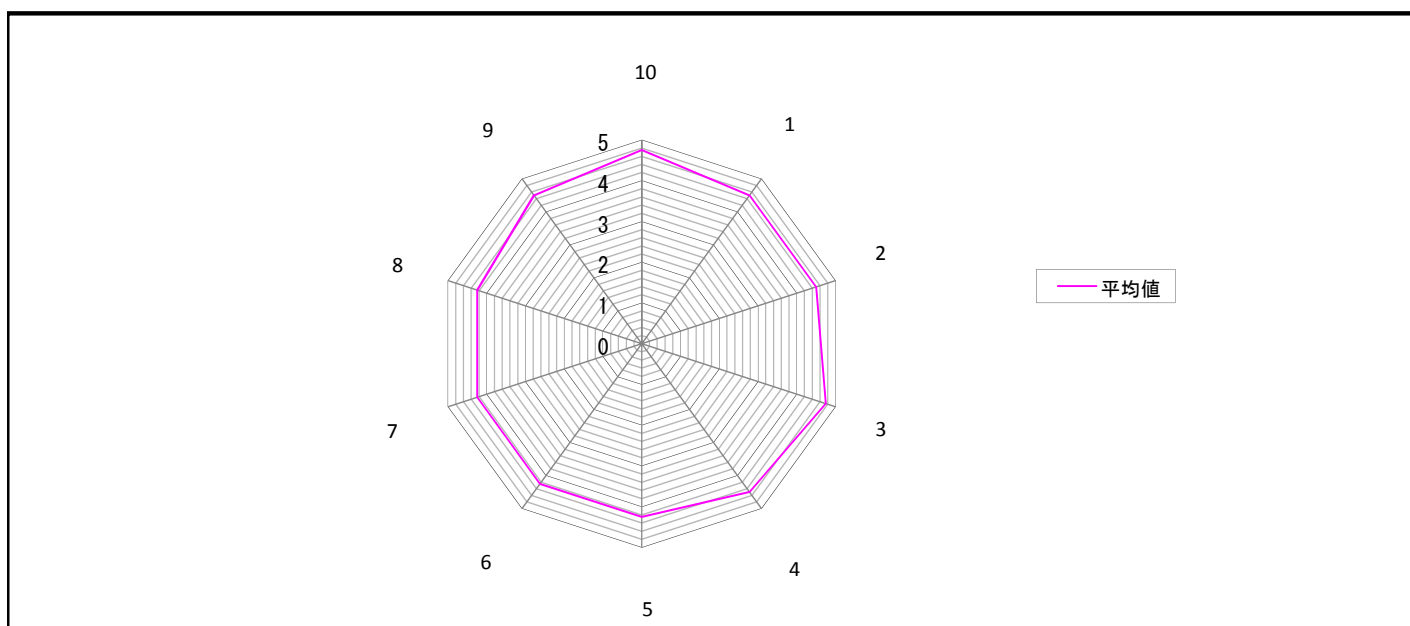
2名のみを受講であったため、受講者は授業評価をしなかったようである。内容が専門的であるので、分かりやすい説明を心がけたつもりである。受講生が少なかったため、学生一人あたりの発表回数も多く、負担が大きかったかもしれない。しかしその分、発表要旨のまとめ方等、しっかりと学ぶことができたのではないかと思う。

# 結果報告書

授業科目名 衣生活学研究  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 福井 典代

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	1	3				4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2	1	1			4.3
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1	1			4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



## 教員のコメント

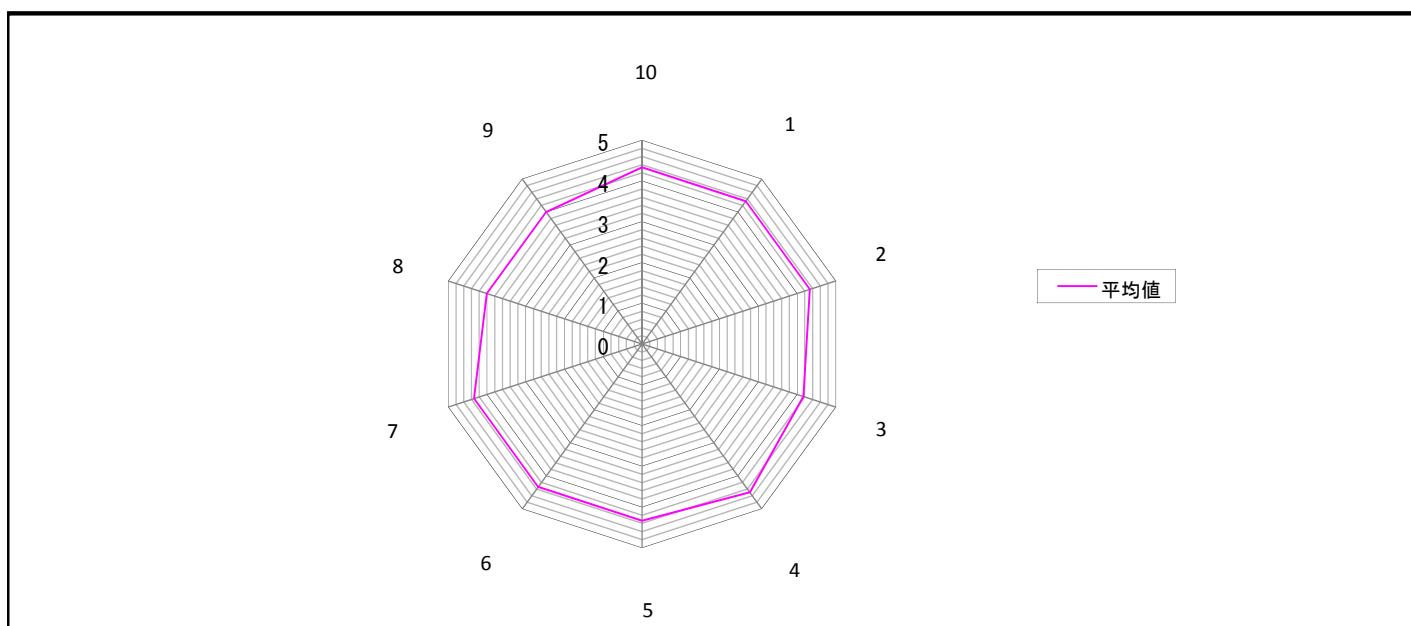
[1]すべての評価項目で4以上の評定平均値が得られ、学生にとって有意義な授業であったと思われる。この授業は講義であるが、単に知識の詰め込みだけでなく、実験や実習を取り入れて学習内容の定着を図った。その点が評価された。以下に学生の自由記述文を記載する。[2]この授業でよかったと思われる点―「この授業で行った実験は実際に授業で使えそうなものだったから、将来のためになりました。染色や石けん作りなど行ったことのない実験もあり、とても良い経験になりました。」「実験など、実際の活動が多くてためになった。」「実験が多かったけれどやってみることで知り得たことが多かったのです。」「レポート作成時にいろいろ調べることは大変だったが勉強になった。」「いろいろな実験・実習ができてよかったです。」「[3]この授業で改善すべき点―特になし。[4]その他感想―「楽しく講義をうけることができた。」

# 結果報告書

授業科目名 食生活学研究  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 西川 和孝, 前田 英雄

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	4				4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	4				4.3
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3	1			4.2
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3				4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	4				4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2	4				4.3
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2	1			4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2	2			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	2			4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	4				4.3



## 教員のコメント

受講生6名から分析した学生の総合評価は4.3であり、前年度とほぼ同じであった。  
 評価番号3が評価項目(3)、(7)、(8)および(9)に見られたが、授業ではテキストや参考書を用いずに  
 パワーポイントを使用し、その内容をプリントにして配布したためと思われる。

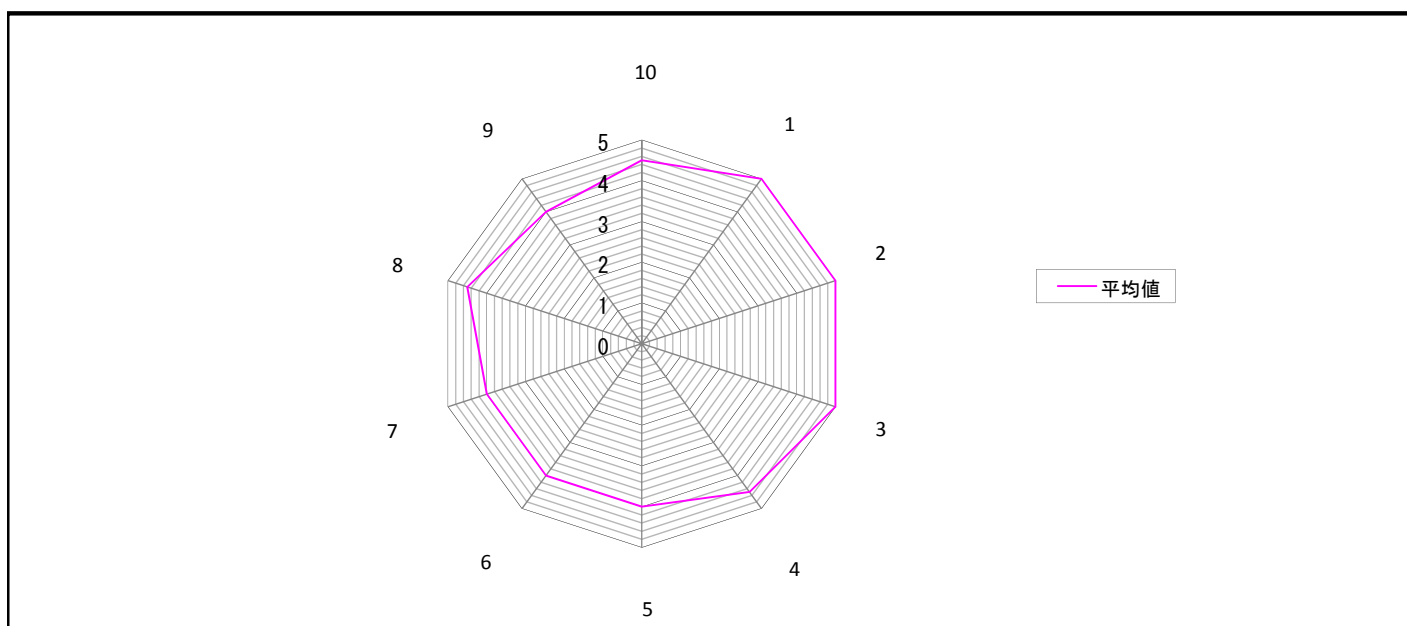
他の項目の評価については概ね満足するものであったと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 住生活学研究  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 金 貞均

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。		2				4.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。		2				4.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。		2				4.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1		1			4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



## 教員のコメント

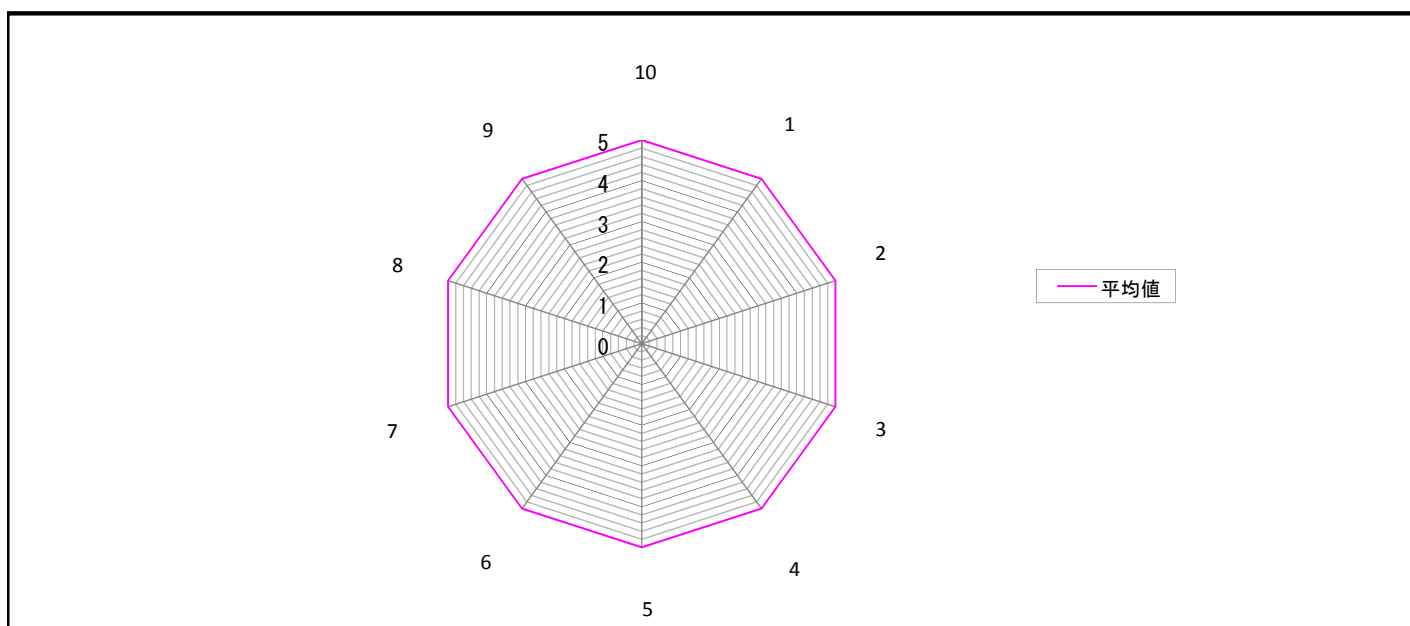
本授業の総合評価は4.5ポイントで、授業目的はほぼ達成できたと考える。特に授業の内容として、「(1) 授業概要」「(2) 専門的知識を深める内容」「(3) 教師の実践力の育成につながる内容」に5.0ポイントの評価をしていた。「教員の授業の進め方」として「(5) 進む速さ」「(6) 分かりやすさ」「(7) 配布資料の適切さ」の点に関しては今後さらに工夫していきたい。「この授業で良かったと思われる点」に対する自由記述欄には、「住生活に関する多領域にわたる資料を配布してもらった点(専門性を高めるにふさわしい授業だった)」「現場で使えるような教材の紹介もありよかった。教師という専門職である以上、まずは幅広く深い専門的知識をきちんと身につけておくことが大切であることを改めて認識することができた。」と意見が述べられていた。専門力と実践教材への要望と期待として受け止めたい。「授業で改善すべき点」に関する意見は特になかった。最後の「感想等」を聞く欄には、「住生活の教材は現場でも活用できるもので、役に立つと思いました。」「自分の中で、住居領域に対する苦手イメージを作り上げていたが、今回学び考えていく中で、住居学は様々なことを総合的に統括した、とても興味深い分野の学習であることがわかった。学んでいてとても楽しかった。知識が豊かになるということの喜びを実感できる授業であり、今後へとつなげていけるものであった。」という意見が書かれていた。受講生の学問に対する熱意と真摯な態度ほど教員として励まされるものはない。今後も受講生の知の触発につながる授業を工夫していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 国際教育IT活用研究  
 評価実施日 平成21年7月24日  
 担当教員名 松崎 昭雄, 小澤 大成

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

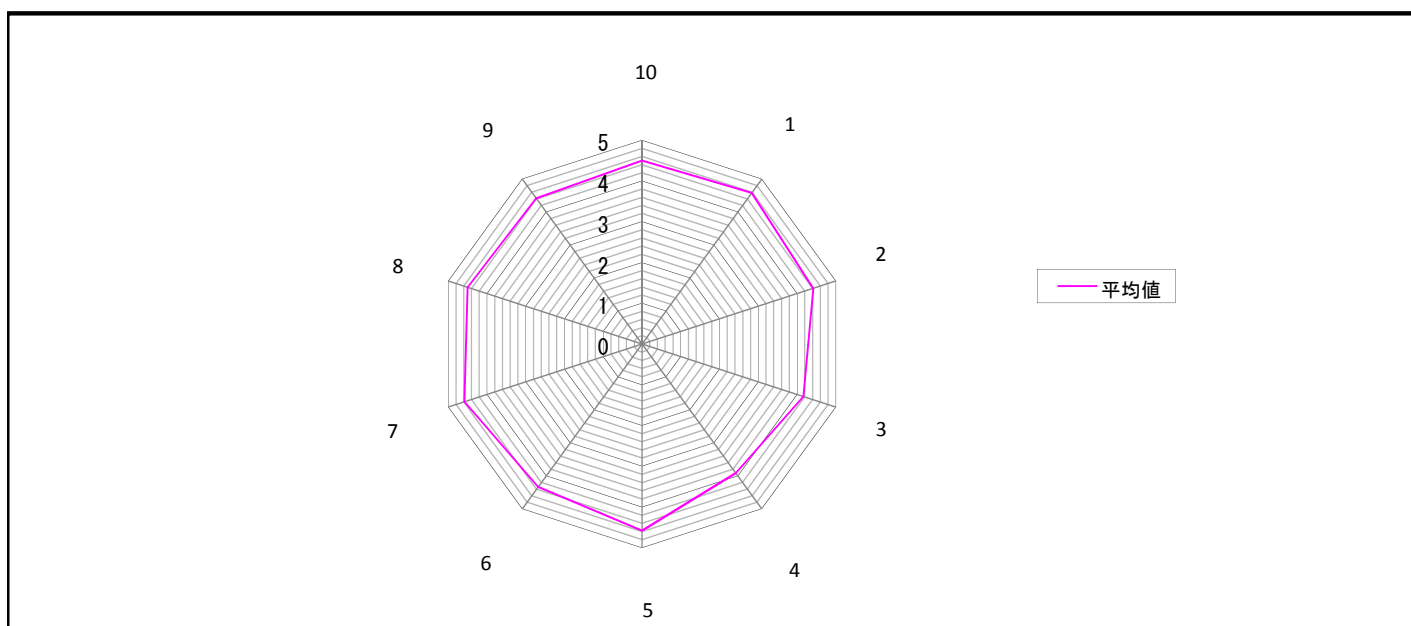
受講学生が2名であり、学生1人1人への対応が可能が容易であった点が高い評価につながったと考えられる。本講義の開講コースの特性上、受講学生は留学生であり、帰国後にも利用できるソフトウェアとしてフリーのものを選定して、説明を行った。前半は、電子教科書作成ソフトdbookについて紹介した。また、dbookと同期させることが容易な作図ソフトGCLも活用し、これらのソフトウェア利用に係る利点等について議論した。そして、実際にdbookを用いて、学生自身の研究分野に合わせた教材をつくりプレゼンテーションを行うことを課題とした。中盤からは、テクノロジーを利用した授業分析方法について講義した。具体的には、国際教育到達度評価学会(IEA)による国際数学・理科教育調査(TIMSS)の中で実施されているビデオスタディの手法を援用したものである。平成21年度地域別研修「大洋州地域における算数・数学教育に関する教授法の改善(教員対象)」において、実際に研修の全体を記録し、研修員による模擬授業を授業分析の題材として、その分析方法を紹介した。そして、従来の授業分析方法との比較により、児童・生徒の視点を導入した授業分析の効果について検討を行った。シラバスにも記しているように、後期開講科目「国際教育IT活用演習」と連動した講義を展開しており、前期の講義「国際教育IT活用研究」で学習したことを踏まえ、受講生とともに、模擬授業を記録するところからはじめ、実際に動画編集ソフトウェアを利用して授業分析を行う。学生のコメントにあるように、国際協力機構(JICA)受託事業として実施している各研修で訪問する、徳島県立総合教育センター等におけるICT活用研修についても、可能な限り授業と絡めて実施できるよう、検討していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 文化間教育演習Ⅱ(地域研究)  
 評価実施日 平成21年7月24日  
 担当教員名 太田 直也

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	5				4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	7				4.4
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3	2	1		4.2
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	5	2		1	3.9
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	7	5				4.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	6	5		1		4.3
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9	2		1		4.6
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	6				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4		1		4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	3		1		4.5



## 教員のコメント

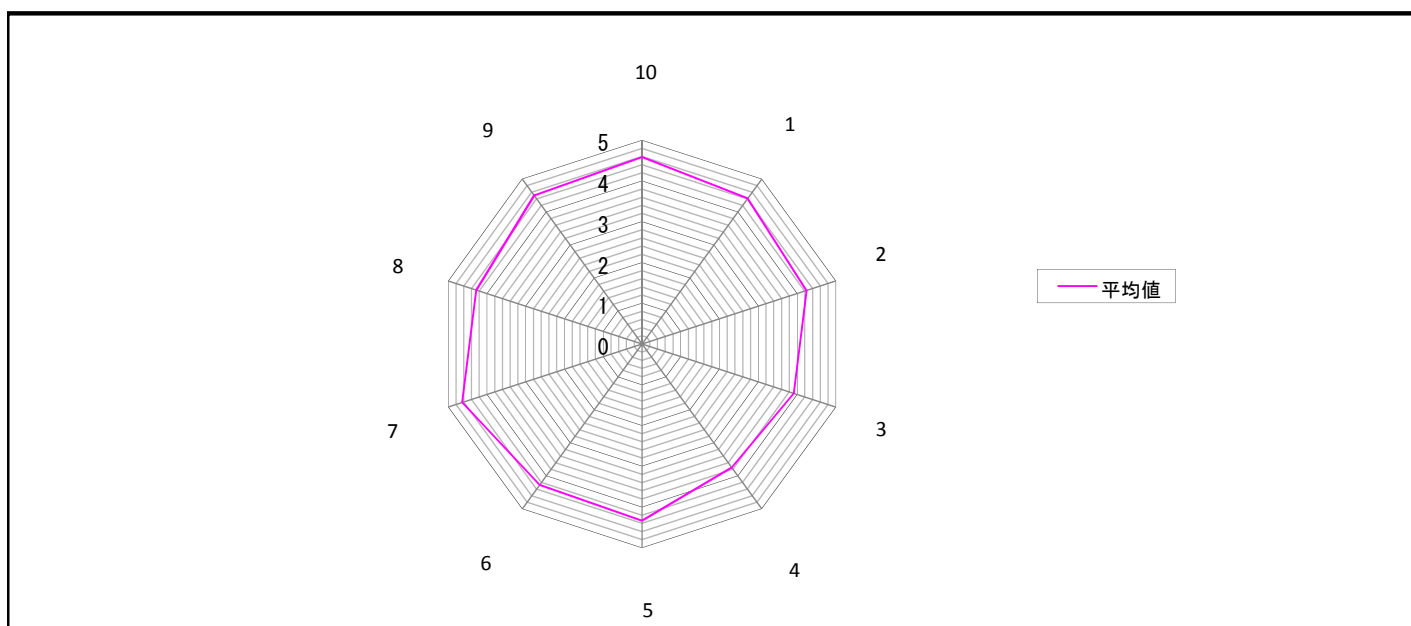
「調べ学習」と受講者の発表を中心にし、ほぼ予定通りの授業となった。受講者たちの発表はいずれも高レベルのものであった。ただ、質疑応答に関しては、時として緊張感のないものとなってしまった。次年度の改善点としたい。授業全体をさらに系統的なものにした方が教育効果が上がるかもしれない。

# 結果報告書

授業科目名 文化間教育演習Ⅳ(実践研究)  
 評価実施日 平成21年7月29日  
 担当教員名 太田 直也

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	5	1			4.4
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	7	1			4.3
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2	4	1		3.9
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1	4	2		3.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	5	6	1			4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	6	2	3		1	4.3
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	8	2	1		1	4.6
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	2	3		1	4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4	1			4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	3	1			4.6



## 教員のコメント

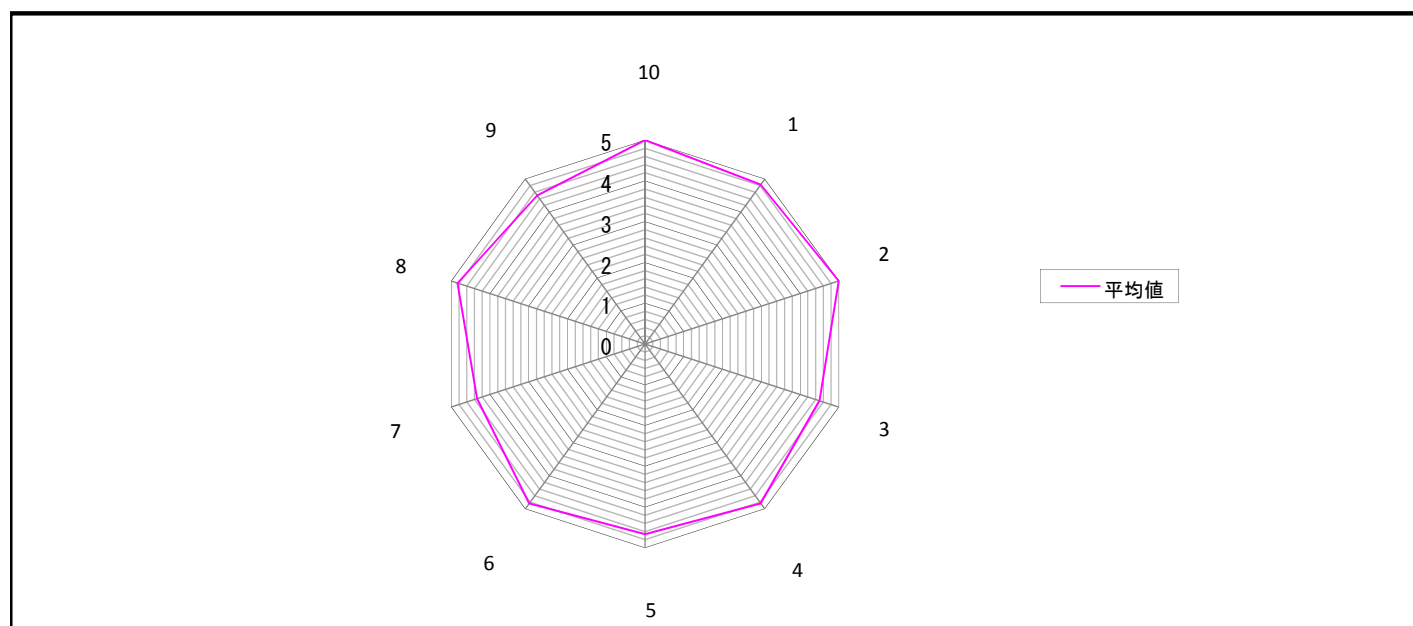
学会に参加して、最新の研究動向を探りつつ、自らの研究方法を見つけることに主眼をおいた授業。この種の授業は、とすれば「修学旅行的」になってしまう危険性を孕んでいるが、そのような事態は回避できた。多くの受講者が真剣に取り組み、中には学会で注目される発言をした者もいた。学会後の教室での議論も実に有意義であった。ただし、学習意欲が低く無益な時間を過ごした受講者もあり、一抹の寂しさは残る。

# 結果報告書

授業科目名 環境教育特論Ⅱ(授業開発)  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 近森 憲助, 西村 宏

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				1	4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					1	5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	1			1	4.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				1	4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4	2				1	4.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	5	1				1	4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2	1			1	4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				1	4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1			1	4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					1	5.0



## 教員のコメント

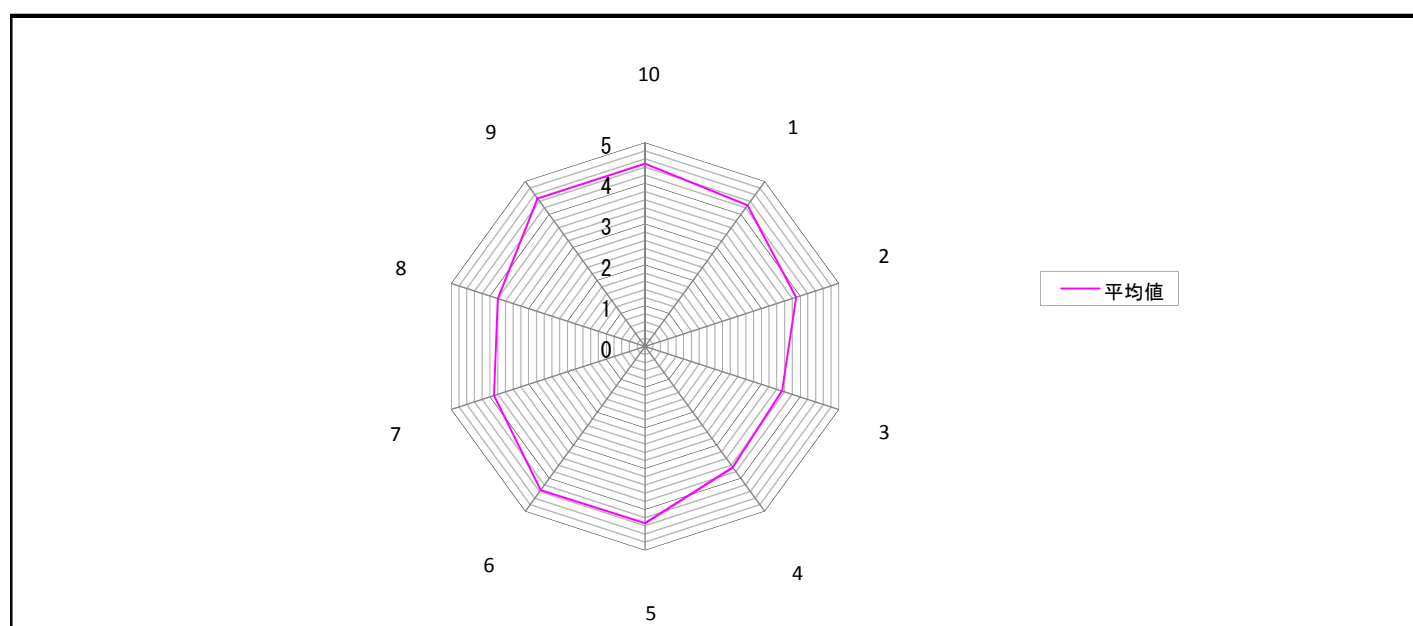
これまで授業担当教員が指導した修了生が提出した環境教育に関する修士論文を主な資料として、学生の発表とディスカッションを中心とした授業を実施した。このことが、評価事項すべてに対して4前後の評価につながったものと考えられる。今後このような授業展開を継続して実施していきたい。  
 「教師の実践力」に関する質問に対して受講生の評価が多様なのは、受講生によって教師の実践力についてのイメージが多様なことによるのかも知れない。



# 結果報告書

授業科目名 臨床心理コロキウム  
 評価実施日 平成21年7月29日  
 担当教員名 中津 郁子, 井上 和臣, 葛西真記子, 山下 一夫, 回答者数 39 人  
粟飯原良造, 今田 雄三, 吉井 健治, 久米 禎子,  
曾川 京子, 阪根 健二, 小坂 浩嗣, 佐藤 亨,  
末内 佳代

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	17	16	6			4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	13	12	2		3.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	14	11	3	3	3.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	11	11	5	1	3.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	17	19	2	1		4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	17	19	3			4.4
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9	18	11	1		3.9
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	15	13	2		3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	22	14	3			4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	21	17		1		4.5



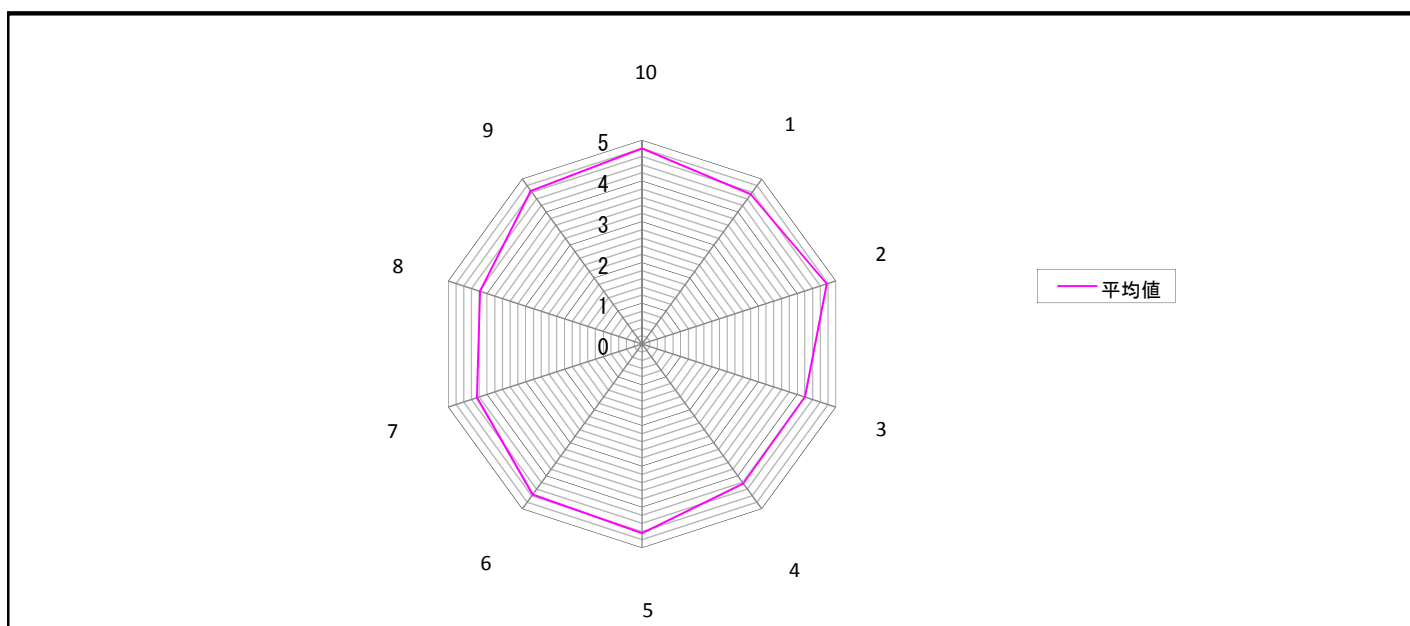
## 教員のコメント

この授業は、コースの教員と院生が自由に討議しながら、本コースで研究していくための基本的方向性を理解することを目的としている。前半は、各教員がそれぞれに研究内容と教育方針について講義を行う。後半はエンカウンターグループを行い、教員と院生との交流を行っている。その後、院生が修論の計画を発表し、教員が助言するという授業である。総合的な評価は4.5と高い。自由記述の中にも、「先生の研究内容や人柄がわかって良かった」(13人)、「院生同士が仲良くなれる・理解につながった」(7人)、「エンカウンターが楽しかった」(7人)、「大学が始まって緊張していた時に丁度良い内容だった」(2人)などの記述が見られていた。概ね授業の目的は達成されていると考える。やや評価の低かった項目は(3)教師の実践力の育成につながる内容、と(4)成績評価の方法の説明に関してであるが、検討していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理面接演習  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 粟飯原良造, 今田 雄三, 葛西真記子, 中津 郁子, 吉井 健治 回答者数 39 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	23	14	2			4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	33	4	1	1		4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	20	11	6		2	4.2
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	18	14	6		1	4.2
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	27	10	2			4.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	26	9	4			4.6
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	19	13	5	2		4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	17	13	8	1		4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	27	10	2			4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	33	4	2			4.8



## 教員のコメント

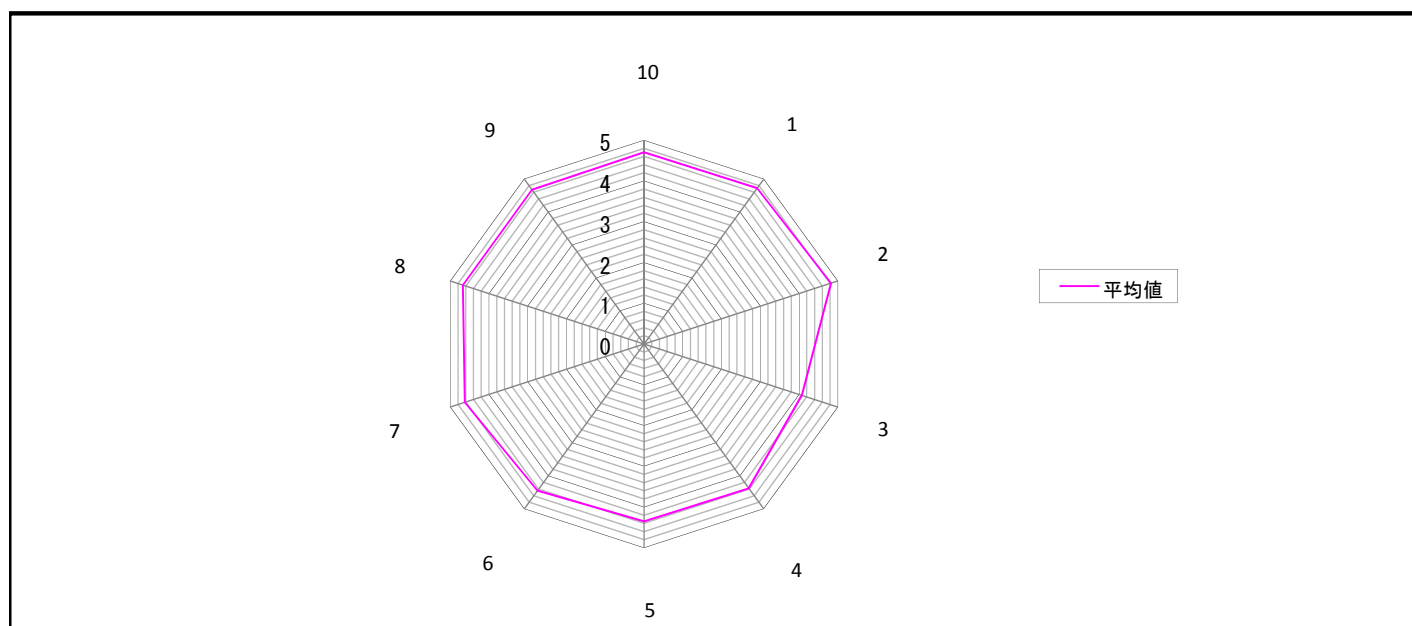
本授業は1名の教員が8~9名の受講生に対して講義を行う形式で、受講生に対してロールプレイを通して綿密な指導・助言を行うもので、受講生から全質問項目に対して4.2以上の高い評価を受けた。さらに授業を受けてよかったは4.8、専門知識を売ることに役立った4.8と本授業の目的を達成していると考えられる。2名で低い評価があった「教師の実践力の育成」は本授業も目的ではないが、他の受講生は高い評価をしていることから、本授業がどのように教師の実践力とつながるかの説明を詳しく行う必要があるのかもしれない。成績評価について低い評価を下している1名は、積極的に授業に取り組んだが、資料や視聴覚機器が不備であり、授業進度は適切であると回答した。資料や視聴覚機器は受講生が準備する授業であるので、本授業開始時により詳しく説明する必要があると考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理査定演習 I  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 久米 禎子, 葛西真記子, 今田 雄三, 粟飯原良造, 佐藤 亨, 中津 郁子, 吉井 健治

回答者数 40 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	30	9	1			4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	35	3	2			4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	18	12	7	1	2	4.1
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	21	14	4	1		4.4
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	25	8	4	2	1	4.4
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	23	13	3	1		4.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	28	9	3			4.6
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	29	9	2			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	29	9	2			4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	31	6	3			4.7



## 教員のコメント

「授業の内容について」、「授業の進め方について」、「授業の取り組みについて」はいずれも4以上の高い評価が得られ、「総合評価」も4.7と、受講生にとって満足できる内容であったと言える。「教師の実践力の育成につながる内容であった」という項目に関しては、この授業は臨床心理士養成を目的としたものであり、そもそも教師の実践力を目指したものではなかった。そのため、項目の中では比較的得点が低くなっていると考えられる。しかし、それでも4.1という評価が得られており、この授業の内容は、教員養成にも役立つものであったと考えられる。

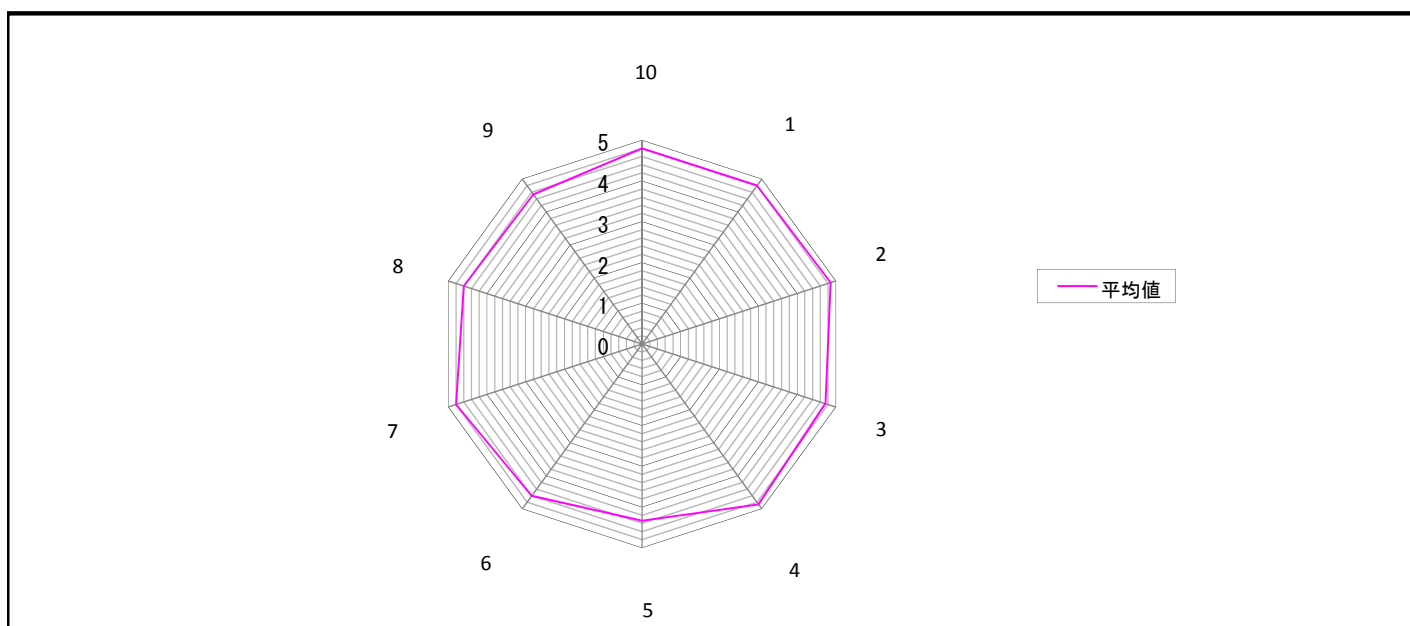
自由記述においても「幅広く学べた」「自分について知ることができた」「体験的に学べた」等、内容的に満足できるものであったという意見が多かったが、「一つ一つの課題をもっとじっくり時間をかけてやりたい」、「レポートのフィードバックが欲しい」などの要望もあった。この授業は、多くの種類の心理検査を一通り学ぶというものであり、一つの課題にかけられる時間は限られたものにならざるを得ない面がある。内容的な工夫を重ねるとともに、自主学習へとつなげる取り組みも行っていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育学研究論Ⅱ  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 大谷 博俊

回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	3				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	2				4.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	2	1			4.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	13	2				4.9
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	7	6	2			4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	10	4	1			4.6
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	12	3				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	6				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	5	1			4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	1	1			4.8



## 教員のコメント

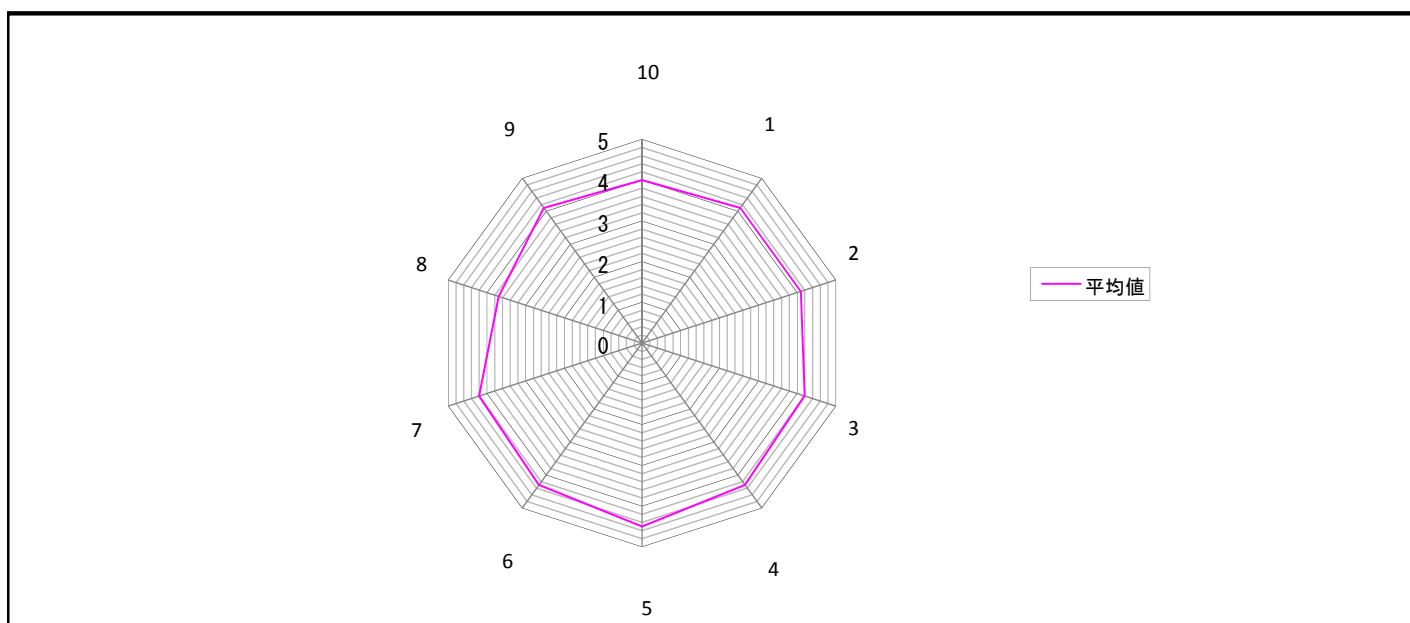
受講生の評価平均値は、全ての項目について4以上であり、授業内容や授業の進め方に満足していることが見て取れる。このことは、総合評価の平均値が4.8と非常に高いことから同様に判断できる。一部授業への取り組みが主体的・積極的でない学生がいたようで、そのことが残念であった。今後の課題としたい。授業に対するコメントみると、難しいとした意見(2名)がある一方で、研究資料・事例数が充実していた(5名)、楽しい・魅力的だといった意見(2名)があった。授業内容に関する質問項目に対する評価平均値は4.7以上と非常に高く、授業内容のレベルは受講生に適していたのではないかと考える。今後も受講生の期待に添うような内容としていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育臨床心理学研究論  
 評価実施日 平成21年7月24日  
 担当教員名 高原 光恵

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1	2		1	4.1
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	3	3			4.1
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	4	2			4.2
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2	1	1		4.3
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	6	3	1			4.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	6	2	1	1		4.3
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	7	1		1	1	4.2
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2	1	3		3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2	2	1		4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	2	2		1	4.0



## 教員のコメント

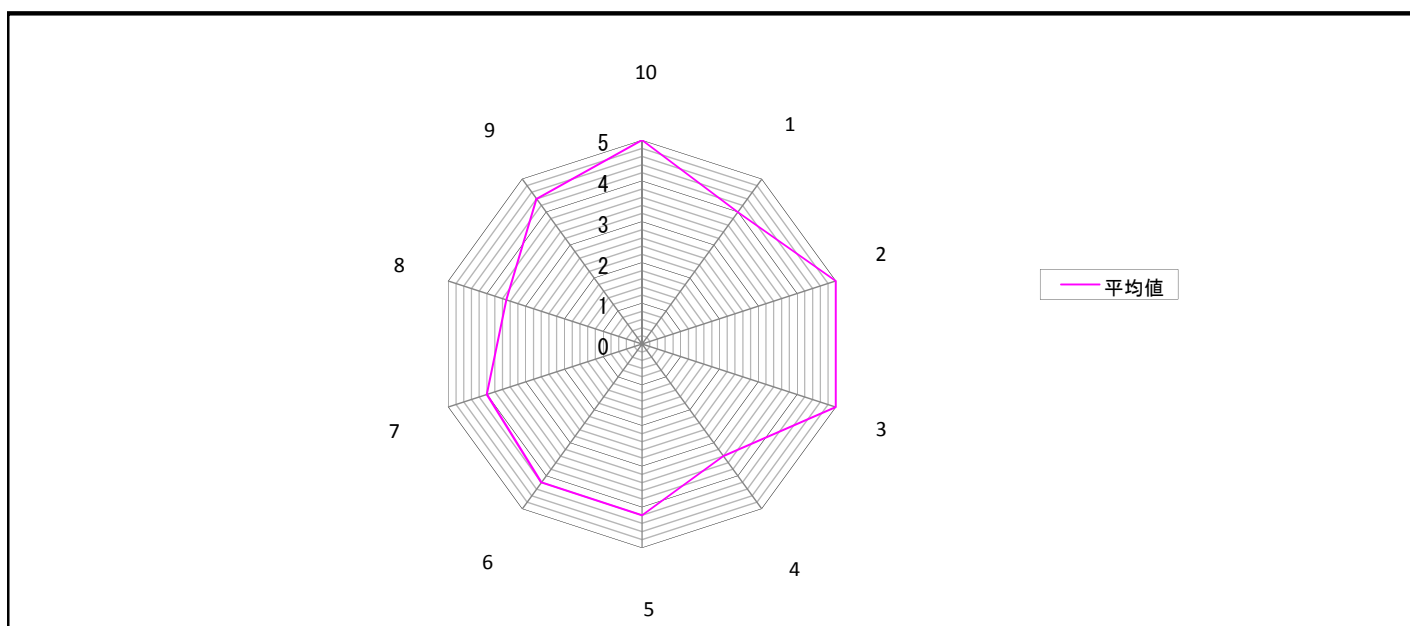
全体ではおおむね4点であった。ただし、項目5の授業の進む速さに関するものを除き、質問項目への評価点は項目間で高い相関が見られていた。つまり、項目毎の評価というより、受講生毎の評価のばらつきの方が大きかったと言える。本授業の受講生は、現職／ストレート／長期履修、特別支援専攻／他専攻とバラエティに富んでおり、授業中にはそれぞれの経験や考えを互いに知ることができる貴重な時間であった。それだけに多様性を踏まえて、より専門的な内容の提供と、より基礎的な知識の紹介とをバランス良く織り交ぜた授業構成へと改善する必要がある。また、板書については、内容の構成や文字がわかりにくいものとなってしまっていたので、今後は見やすい／わかりやすい提示となるよう改善を心がけようと思う。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター実地教育  
 評価実施日 平成21年8月6日  
 担当教員名 井上とも子

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	3	1			4.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1	2	1		3.4
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3		2			4.2
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3		2			4.2
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2		2		1	4.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1		3		1	3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



## 教員のコメント

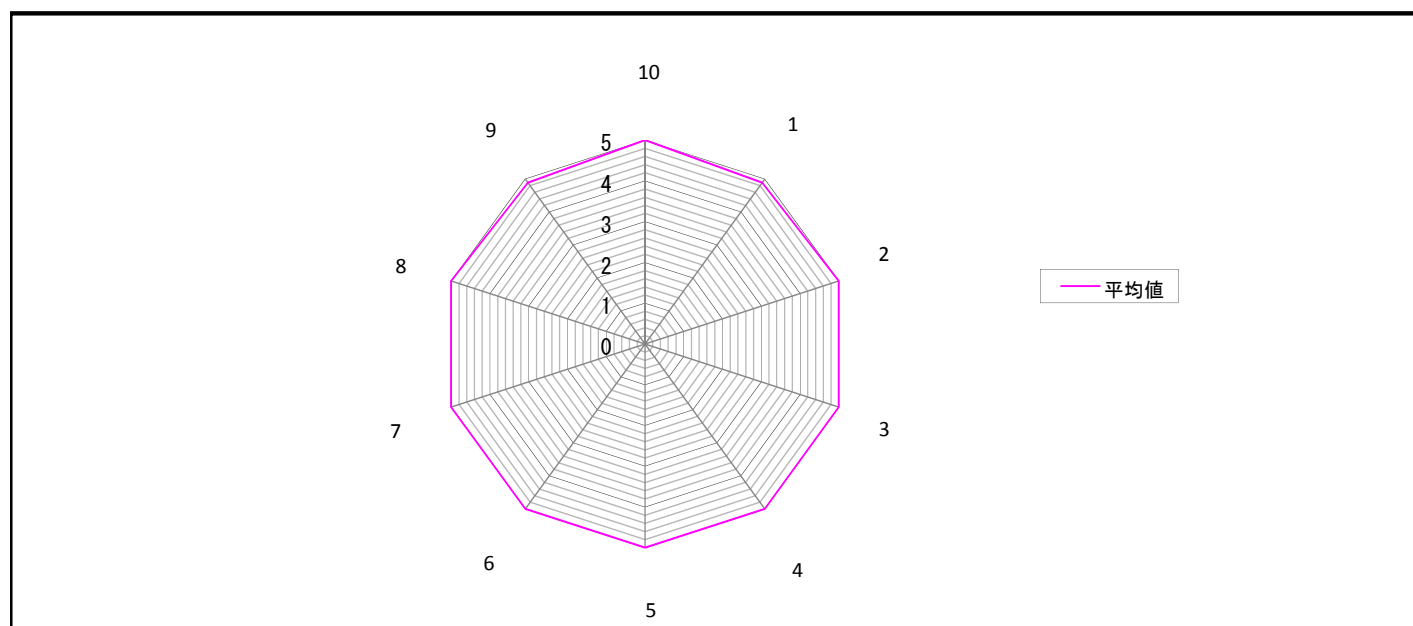
この授業は「実地教育」ということで、授業の内容が、数人の幼児を対象にした就学準備指導(教育実践)であるため、事前の指導計画作成から、事後のビデオ記録により指導の分析までを受講生が主体的に進めていく授業としており、教員は、指導場面を観察し、事前事後に助言、指導等、スーパーバイズを行ってきた。そのため、教科書を示したり、板書による指導は今後も考えていない。この授業の目的である実践力の養成という点で、(2)(3)が評価点5であることから、この授業の内容や進め方は支持されたと考えられ、来年度も継続的にこの内容・方法で行っていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 国語科教育学研究  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 村井万里子

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	9					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	9					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	9					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	9					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1				4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9					5.0



## 教員のコメント

少人数も好環境となり内容が好感をもって受けとめられている。その理由をアンケートの自由記述からさぐると、以下の3点となる。①発達の系統を具体的にイメージできた。②従来の具体的な指導目標(子どもに何を求めるか)を改める必要を感じた。③具体的な実践性と背後の理論への興味。(以下に自由記述の一部を抜粋)

・小学生の作文の発達のすじみちが系統だってよくわかった。 ・発達モデルを知ったことで「目からうろこが落ちる」ような“衝撃”を受けた。しっかりと発達課題をしらないと、まちがった指導をしてしまうと感じた。続けて学びを進めていく必要があると思った。

・これまでの経験の中で自分勝手に判断して、発達段階にてらすと無理なことをめあてにしたり、評価していたことが多々あったことがわかった。それでは子ども達の力を伸ばすどころか成長の目をつんでしまうと思った。科学的に実践を捉えることの大切さに気づいた。具体的な事例がわかりやすかった。(自分がしてきたことを見直し考え直してみる必要性を痛切に感じた。理論的な裏付けを得られるようにしていきたいと思う。)

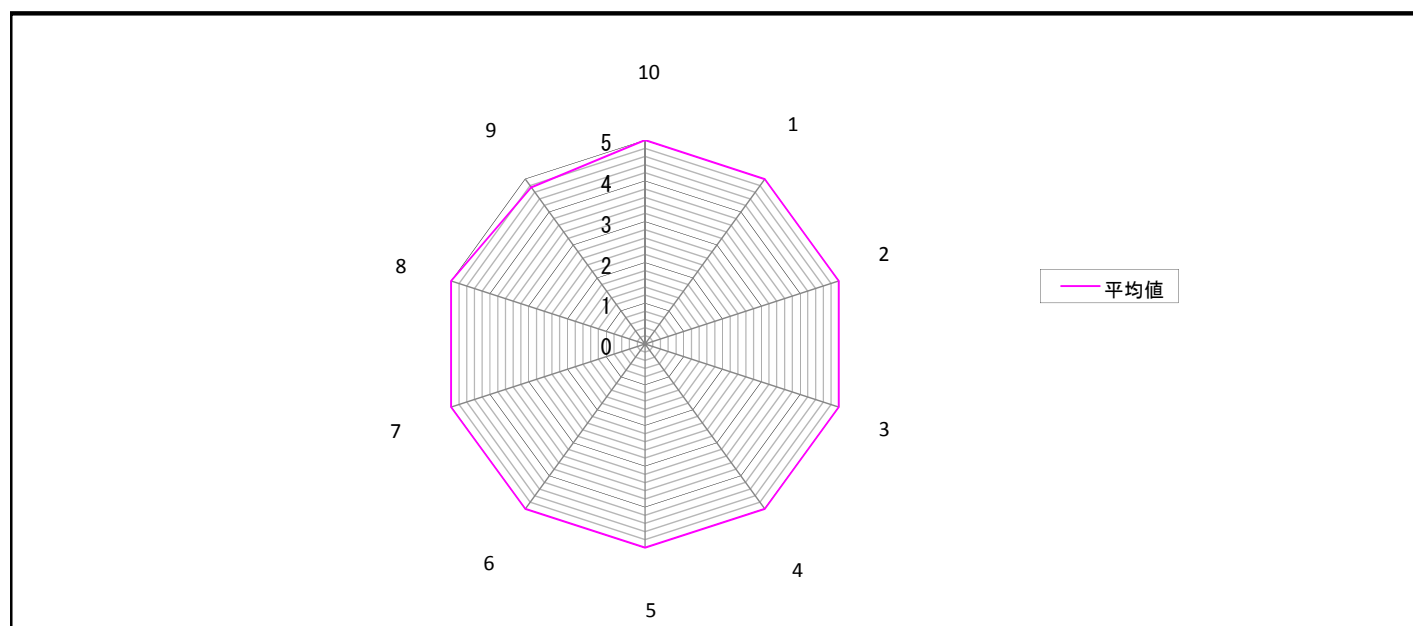
・言葉が巧みな作文が良いと今まで考えていましたが、作文の見分けを知ることができました。しかしまだ、それを自信をもって活用できるところまでは到達できていないので、自信をもって評価がつけられるように自分の中で練習したいです。また、高校や今の私たちにも応用できるということなので、自分が何か書く時も、自己採点すべきだと思いました。教科教育学は(他の分野も同じですが)歴史の上に立って学んでいかなければ、過去と同じ失敗を繰り返すことになるし、過去のよさも生かせない。(中略)また実際の学習材や子どもの作文をとりあげて、教育現場の実際に即して学ぶ場をもうけていただいた(後略)。以上。

# 結果報告書

授業科目名 国語科授業研究  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 幾田 伸司

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	8					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	8					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	8					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	8					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



## 教員のコメント

8名という少人数の授業だったとはいえ、非常に肯定的に評価していただき、ありがたく思います。時数の半分近くを教材研究論に費やしましたが、特にこれについて肯定的に評価していただけたようでした。また今年度は、国語科の授業実践を具体的に考えるために、私が行った授業を見ていただき、これを素材とした討議を取り入れてみました。大学教員の飛び込み授業でもあり決して優れた授業ではないのですが、この試みも肯定的に評価していただけたようです。

何よりうれしいのは、受講生の皆さん全員が主体的・積極的に授業に取り組んだと自己評価されたことです。授業は受講生の皆さんとの共同作業ですので、こうした主体的態度で授業に取り組んでいただけたことが、肯定的評価につながったのだと感じます。

とはいえ、授業構成の系統性や連続性についてはまだまだ改善の余地が多分にあると感じます。次年度以降、授業の質を一層向上させ、本年度いただけたような評価を継続できるように努力したいと考えています。

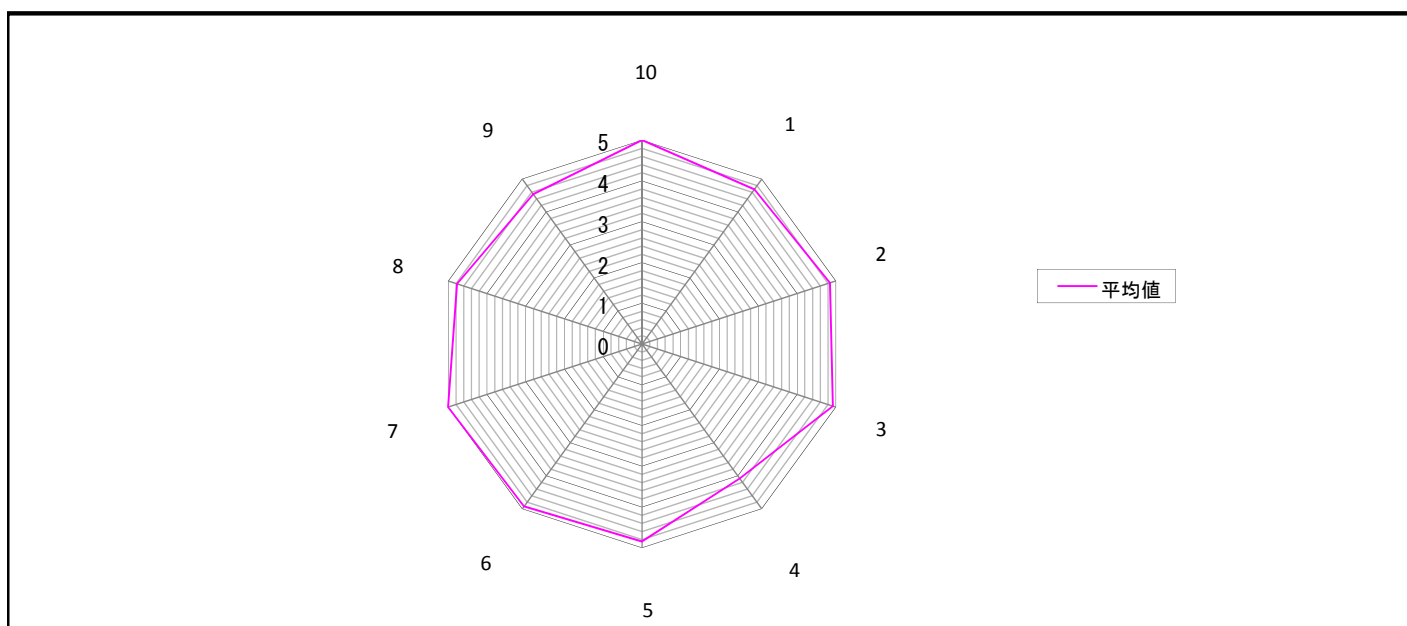


# 結果報告書

授業科目名 国語科教材開発研究  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 余郷 裕次

回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	4				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	2				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	3	3	1		4.1
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	11	2				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	12	1				4.9
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	13					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	3				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	6				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13					5.0



## 教員のコメント

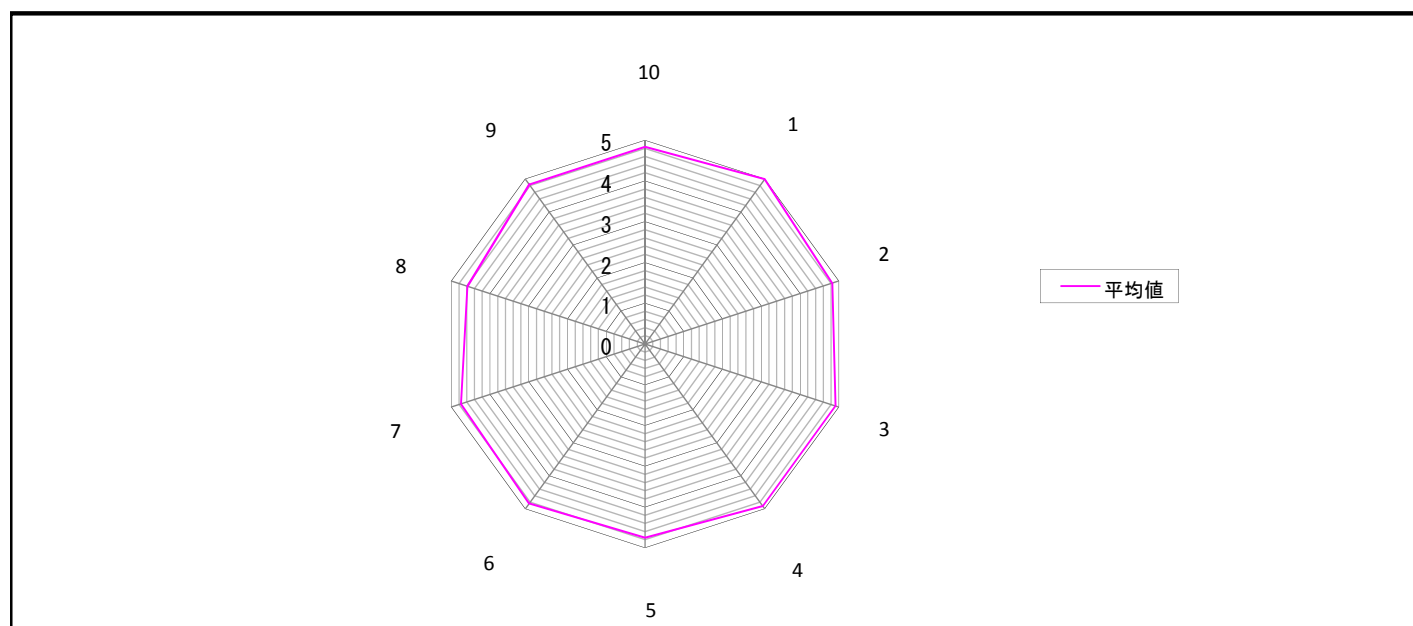
「(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。」についての平均値が4.1であった以外は、4.7以上の高い平均値であった。これは、講義において成績評価についての説明を行わなかったためである。次回から改めたい。「総合評価」の平均値は5.0であり、講義の内容については、受講生の満足を得られたものとする。今後も、受講生の期待に応えられるように研鑽を積んでいきたい。しかし、受講生が13名と少ない。これこそが根本的な課題である。

# 結果報告書

授業科目名 英語科教育特論 I  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 伊東 治己

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	2				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	1				4.9
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	9	3				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	10	2				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9	3				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	3	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11		1			4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	2				4.8



## 教員のコメント

本授業の目的は、社会の国際化・情報化が急速に進展していく中で、学校での英語教育においても国際社会で通用する実践的コミュニケーション能力の基盤作りが重要な課題となっているという現状認識に立脚し、小・中・高を問わず教室において英語コミュニケーションを誘発し、英語コミュニケーションに対する積極的態度を育てていくための方略について、実習形式を交えて多角的に検討していくことであった。受講生からの評価値(総合評価が4.8)や自由記述の形で寄せられたコメントから判断する限り、当初の目的は概ね達成できたと思われる。その中でも特に、授業の2本柱のうちのひとつであるコミュニケーション活動を取り入れた模擬授業(マイクロティーチング)に対して

- ・授業にすぐに使えるテクニックや考え方など、大変即戦力養成につながった
- ・模擬授業をする機会が持て、その後の評価や話し合いもする事ができたので、とても力がついた
- ・現場で役立つ演習形式の授業が良かった。マイクロティーチングは準備・計画等大変であるが、自分の力になる。
- ・実践力がとても養える授業であり、指導法、CLTの専門的な知識を深められる授業でもあり、とても勉強になり、今後の参考になる講義でした。

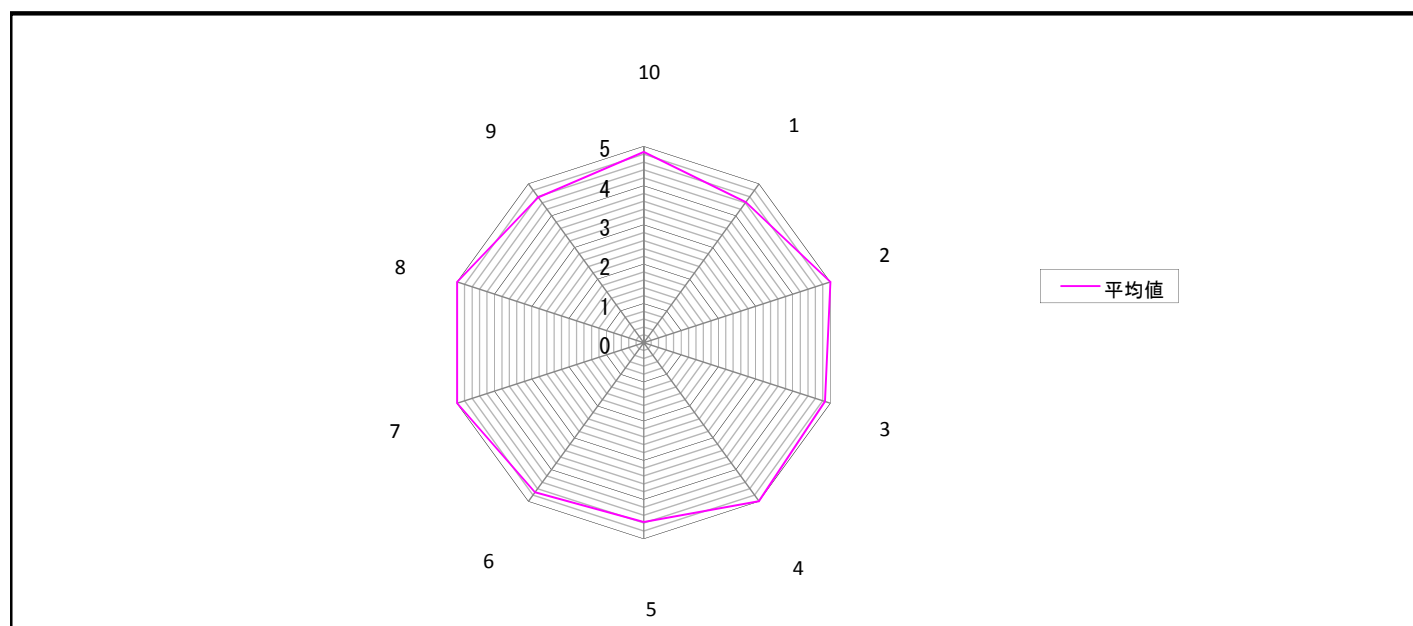
など、多くの好意的評価を得ることができたが、実践力の育成する上での模擬授業の有効性を再認識することができた。今後も、模擬授業を核としながら理論と実践を融合させた授業改善に取り組んでいきたい。

# 結果報告書

授業科目名 英語科教育特論Ⅱ  
 評価実施日 平成21年8月3日  
 担当教員名 山森 直人

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	4				4.4
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	7					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	5	1	1			4.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	5	2				4.7
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1	1			4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



## 教員のコメント

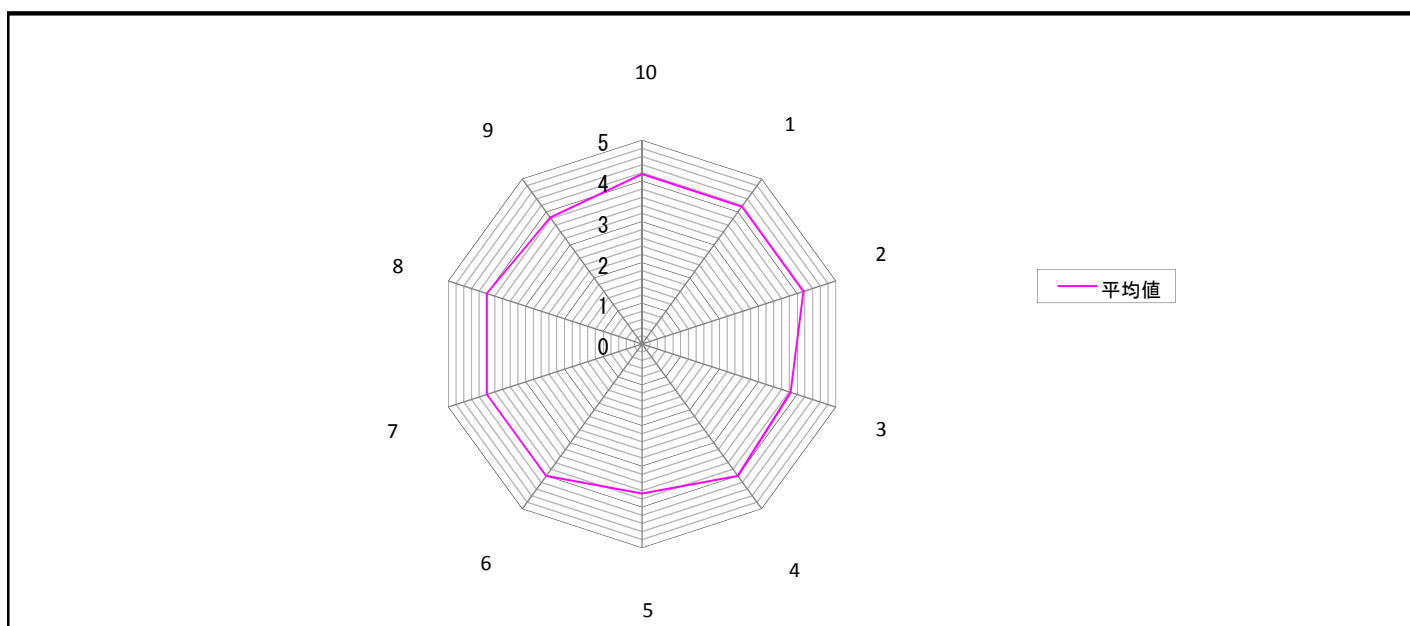
総合評価(項目10)の平均値が4.9であり、その他項目の平均値もほぼ4.5を超えていることをふまえると、本授業は受講生にとって高評だったと考えられる。しかし、項目(1)「授業概要は、この授業を適切に表現していた。」については評定4を与えた受講生が多く、相対的に平均値が低い。今年度から本授業の内容を刷新したこともあり、授業を進めながら状況に応じて内容を調整した部分がある。そのため、このような結果に至ったと推察する。今後、授業概要の記載内容を改善したり、初回授業の授業概要に関する口頭説明を工夫することで対応したい。また、授業の進度(項目5)についても、内容の扱いにメリハリをつけることで対応したい。

# 結果報告書

授業科目名 社会科教育学研究  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 伊藤 直之

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1			1	3	4.2
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1			1	3	4.2
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3			1	3	3.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	3		1		3	4.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	1	3	1	1		3	3.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	2			1	3	4.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2			1	3	4.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2			1	3	4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3	2			3	3.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1			1	3	4.2



## 教員のコメント

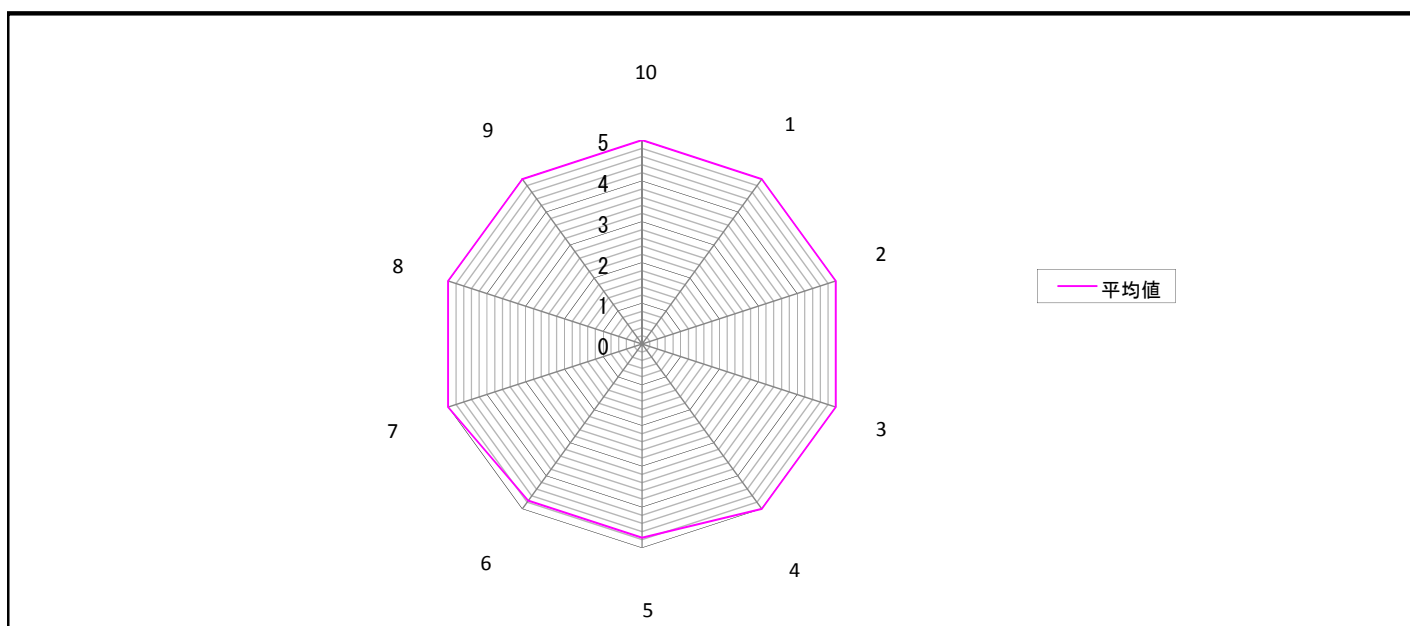
巨視的には、「(5) 授業の進む速さは、適切であった」の項目と、「(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ」の項目において、評価回答結果が分かれていることが判明した。半期の限られた時間内で、要点を簡潔に講義し、進度を上げる必要があることを認識できた。また、授業時間内では解説の度合いが高かったため、学生の主体性や積極性を引き出すことができなかつたように思われる。次年度は、必要な課題演習を導入するなどして、改善を図りたい。

# 結果報告書

授業科目名 社会科教材開発演習Ⅱ(歴史領域)  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 梅津 正美

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

本講義は、受講学生の歴史授業研究能力、特に授業の事実を分析し評価し、改善案を提案できる能力の育成を目標に展開した。受講生は、全部で7名であった。上記の目標を達成するために、教員は社会科教育研究としての授業分析の方法論を実践の事実にもとづいて具体的に講じた。受講生はその方法論を活用して、授業論と実践の性格を異にする複数の歴史授業研究事例(仮説を組み込んだ授業計画書)を分析し評価を加え、発表した。そして、教員と受講生がともにそれぞれの理論と実践の特質・課題・位置について討議していった。

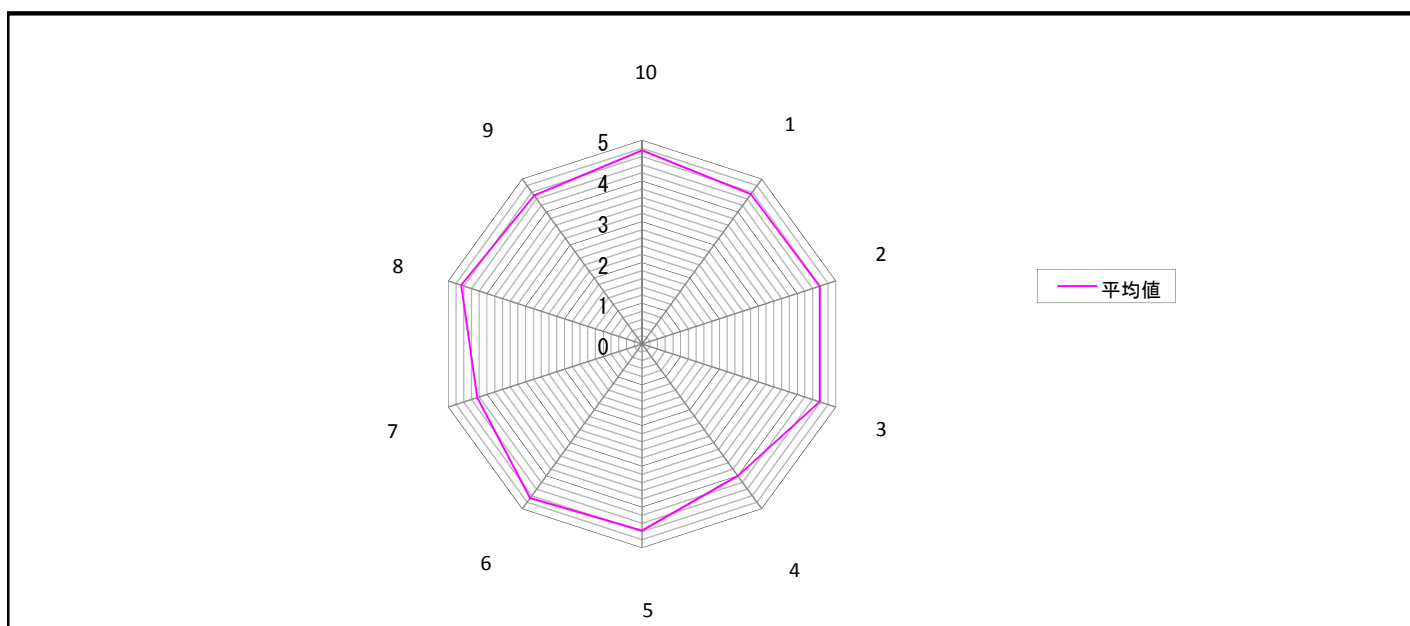
受講生による授業評価の全体平均点は、4.95であった。本講義は、社会科教師としての教育実践力、なかんずく歴史授業実践を分析し評価できる力量の形成に努めたが、それに直接的に関わる評価項目(2)(3)(10)の平均値は、5.0であった。アンケート回収の手続きに不備があり、回答者は4名となったが、本講義の目的と内容は、受講生から概ね意義あるものとして評価されたとみることができる。

# 結果報告書

授業科目名 数学科教育学研究  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 齋藤 昇, 秋田 美代

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	5				1	4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3	1				4.6
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3	1				4.6
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	6	3				4.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	7	5					4.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	9	2	1				4.7
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	7	1				4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	4					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	3					4.8



## 教員のコメント

この授業では、算数・数学学習において、児童・生徒が学習内容をしっかりと定着し、創造的思考を活性化するための原理と方法を概説し、その具体的な指導方法として「山登り式学習法」を取り上げ、小・中・高等学校における実践例と対応づけながら講義を行った。

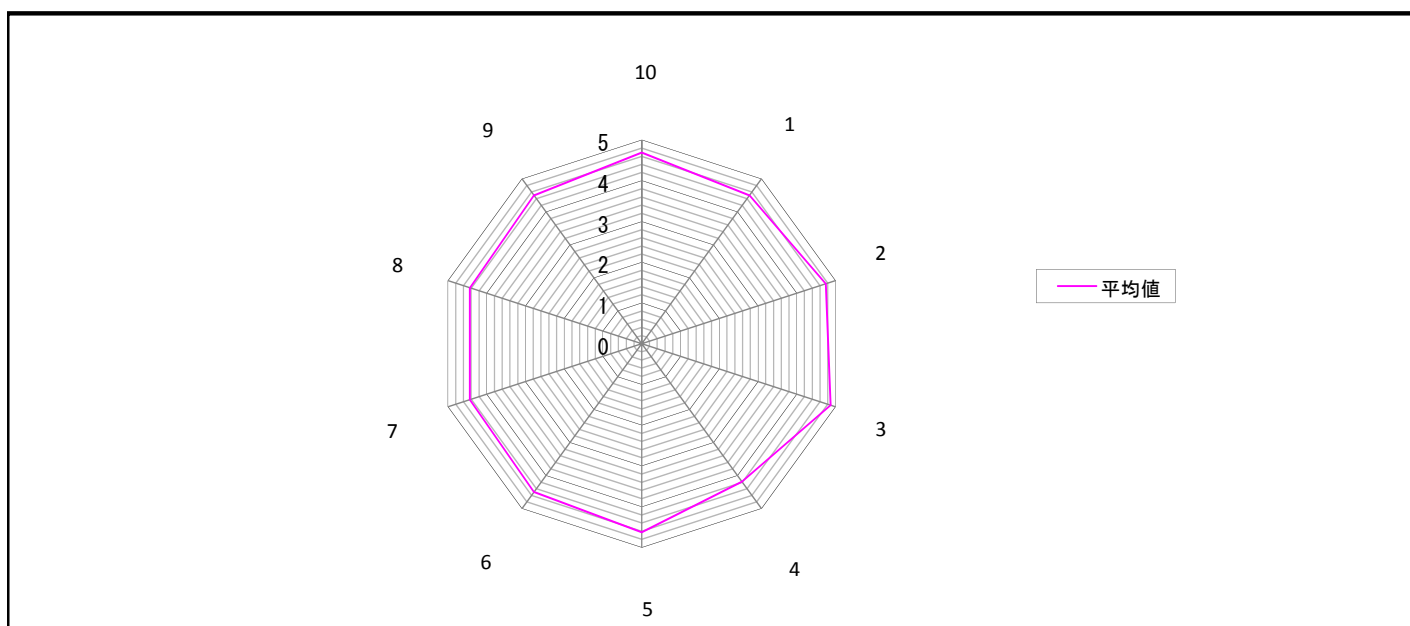
この授業に対する受講者の評価平均値は4.5であった。回答から、特に「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」「教師の実践力の育成につながる内容であった」「受講生に分かりやすく説明した」等がうかがわれた。また、記述式の感想文では「どのように創造性を育成すればよいか分かった」「教師になる上で必要なことを学んだ」「新しい学習指導方法を学ぶことができてよかった」等が記載されており、教員としての資質能力の向上に役立っている様子がうかがわれた。受講者のうち1名は留学生であったが、留学生はきわめて熱心であった。次年度の授業では、これらの内容を参考にして、さらに改善していきたいと思っている。

# 結果報告書

授業科目名 数学科授業研究  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 服部 勝憲

回答者数 16 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	6	1			4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	4				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	2				4.9
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	3	5			4.2
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	10	6				4.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	9	6	1			4.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9	5	2			4.4
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	7	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	4	2			4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	5				4.7



## 教員のコメント

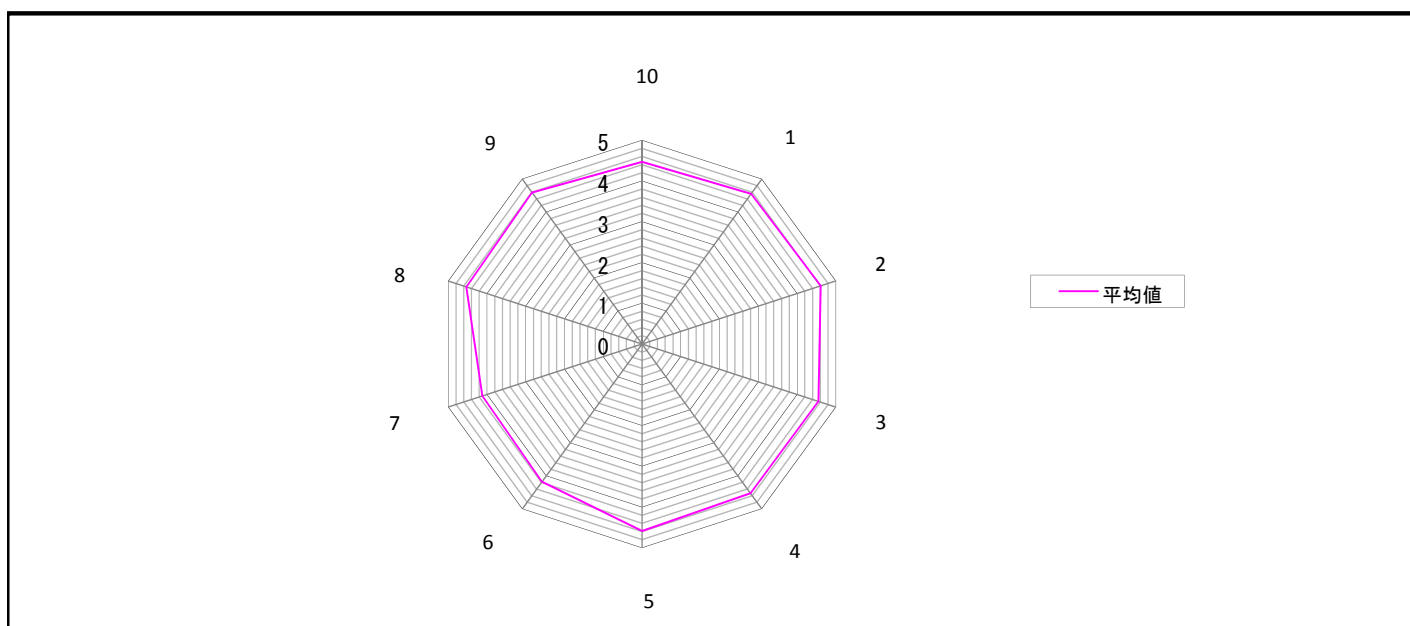
受講生のコメントに次のようなことが書かれている。・小、中、高の算数・数学の分野の概略を知ることができた。またこれまでの学校教育で学んでいない事柄を知ることができた。・様々な授業展開を知ることができた。・各個人の発表を聞くことで様々な校種での授業についての知識・情報を得ることができた。また教師から追加の説明や異なった解法を指導していただき実際の現場で役立つと思った。・多くの教材を知るよい機会となった。・教材の改善点についてのアドバイスがよく分かった。・一人一回は発表するので主体的に取り組めた。また発表についてのディスカッションは有意義であった。・現場ですぐ実践したいと思うような授業内容でした。教材をアレンジすることですべての校種で活用できる提案がたくさんあり、とても有意義でした。先生自身も教材についてたくさんの引き出しをもっておられ、毎時間が楽しみでした。以上のような意見、コメントが多いが、反面、個人の発表時間のばらつきや長さの問題を指摘する意見もある。また個人の発表時間をもっと短くして、教員のコメントにより時間をかけるべきという意見もあった。成績評価については最初と最後には説明したが、授業の過程での確認も必要であったのかと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 数学科教材開発研究  
 評価実施日 平成21年7月29日  
 担当教員名 齋藤 昇, 秋田 美代

回答者数 18 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	6	1			4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	5	1			4.6
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	4	2			4.6
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	4	2		1	4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	12	4		1	1	4.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	8	5	3	1	1	4.2
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	6	8	2	1	1	4.1
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	3	1	1	1	4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	5	1		1	4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	5	2		1	4.5



## 教員のコメント

この授業では、数学教育において指導目標を達成するための教材の活用法・開発方法について概説し、生徒の思考力や創造性を育成するための、教材の構造的な配列について理論と方法を考察した。この授業に対する受講者の評価平均値は4.5であった。評価平均値が高かった項目は「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」「教師の実践力の育成につながる内容であった」「授業の進む速さは、適切であった」「授業に主体的・積極的に取り組んだ」等であった。評価平均値が引くかった項目は「教科書や配布された資料は、適切であった」「受講生に分かりやすく説明した」であった。記述では「構造について様々な視点で考えることができた」「教材を開発するための視点を探ることができた」との内容が記載されていた。授業の内容については、教材の持つ概念についての説明が具体的にイメージしにくい履修者がいたことから、次年度は、具体的な説明を増やすこと等を配慮する必要を感じた。

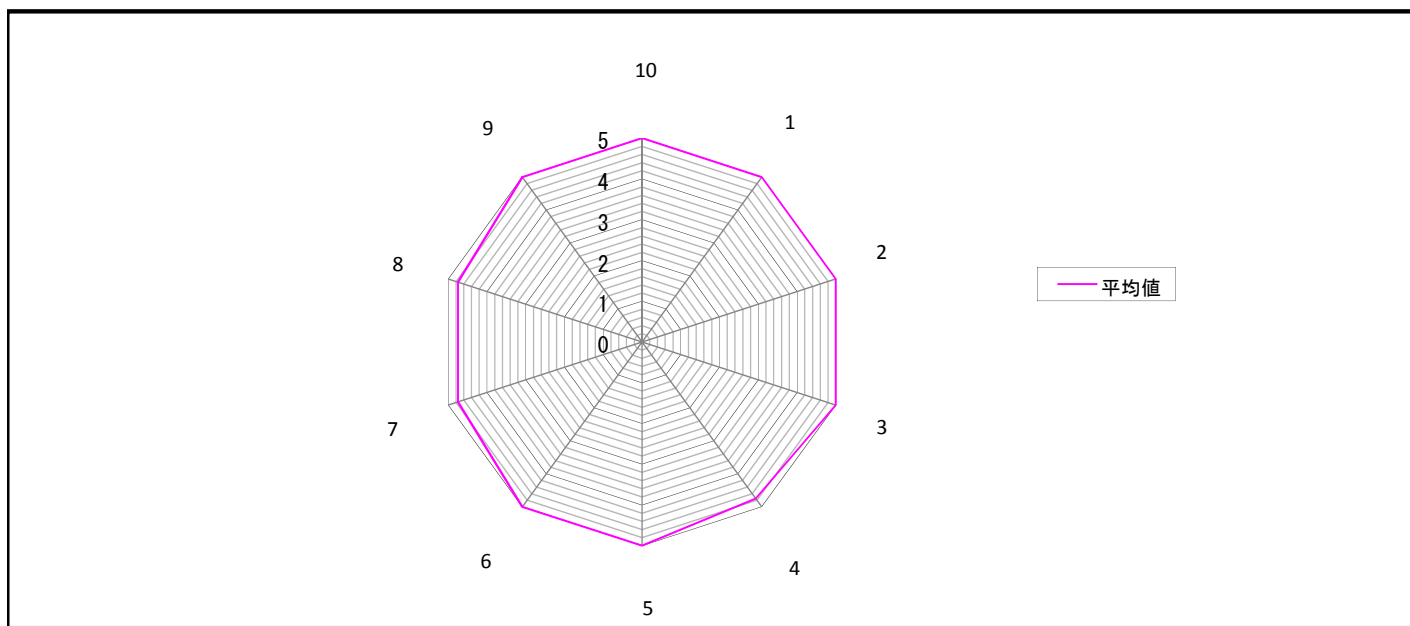


# 結果報告書

授業科目名 音楽科授業演習  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 西園 芳信

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

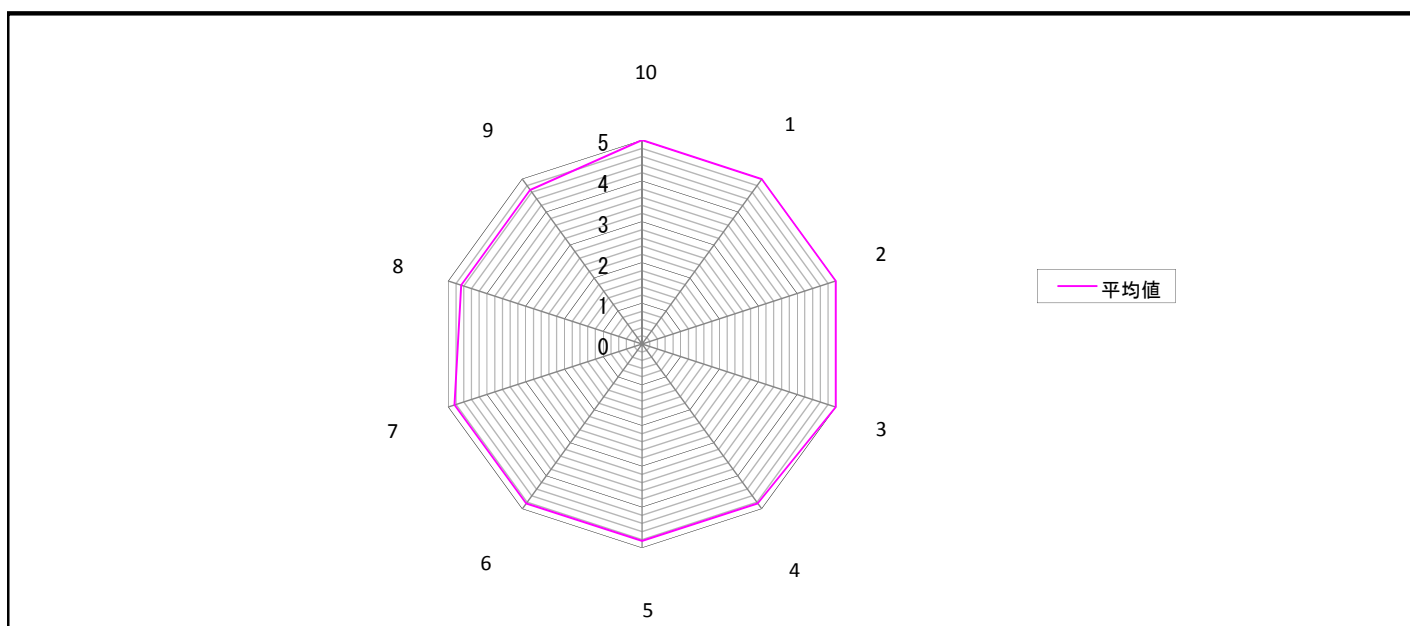
本授業の目的は、芸術的経験の特質と教育的価値、経験としての音楽表現と鑑賞、音楽科における指導内容と評価等の理論的研究を踏まえ、音楽科の目標、指導内容と教材、学習指導と評価についての基礎理論を学び、音楽科の授業を構想するための力量を養うことである。そのための到達目標は、①芸術の教育的価値の理解、②音楽の表現原理の理解、③表現の原理から導出した指導内容の理解である。授業評価をみると、9項目のうち6項目が平均値5で、3項目が平均値4.8となっている。そして、総合評価も平均値が5となっている。この授業評価から、この授業の目的は、達成できたと判断できる。また、授業の改善点についての学生の記述も特にない。

# 結果報告書

授業科目名 音楽科教育研究  
 評価実施日 平成21年7月23日  
 担当教員名 長島 真人

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	5	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



## 教員のコメント

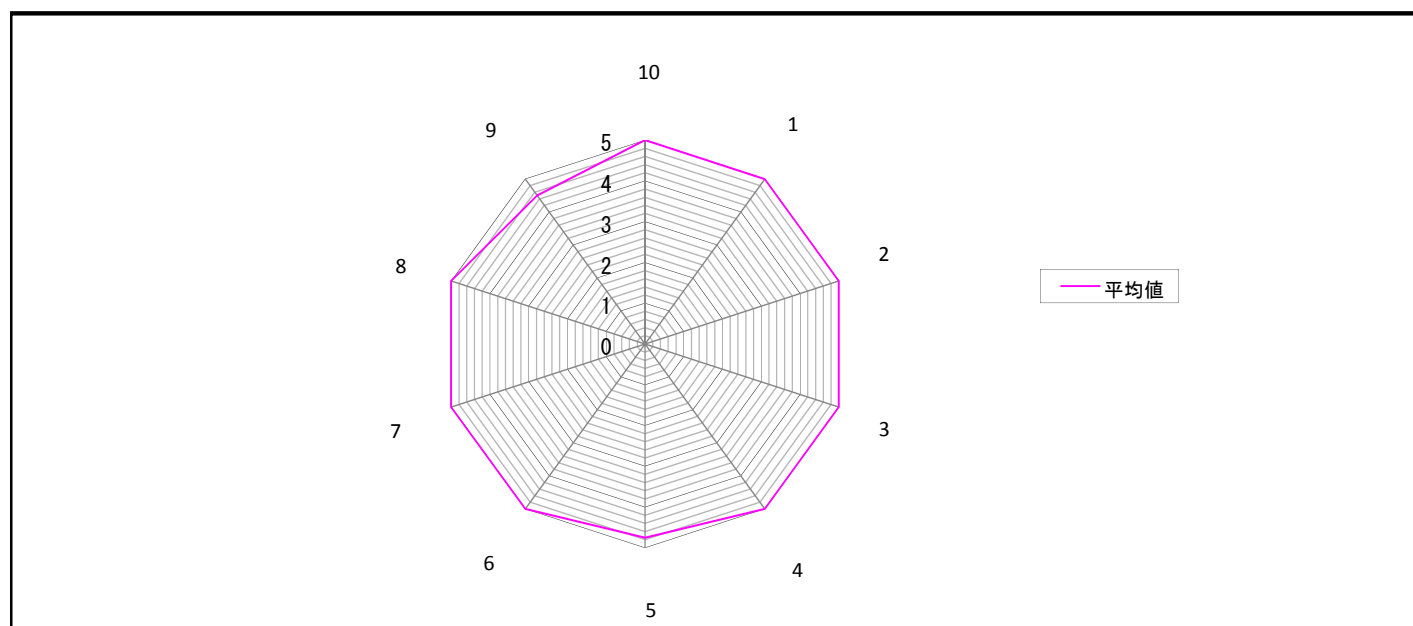
今年度は、コア科目である「教育実践フィールド研究」と密接に関連づけるために、院生たちに積極的に授業に参加するように働きかけた。その結果、長期履修生をのぞく全員が本授業を履修した。授業内容は、例年通り、音楽科教育の基礎的な知識を紹介する内容であったが、実践フィールド研究で想定される授業構想や実習を念頭に置いて講義を展開していったので、院生にとって満足のできる授業になったようである。そのため、総合評価は、全員が評定「5」をマークしていた。授業の展開過程では、院生たち一人ひとりと対話的な指導を行うように配慮してきたが、その成果もみられたように思う。留学生が一人加わっていたが、難しい内容によく取り組んでくれたと思っている。今後も、コア科目との関連を意識しながら、より活動的な授業内容になるように工夫していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 音楽教育史研究  
 評価実施日 平成21年7月23日  
 担当教員名 長島 真人

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

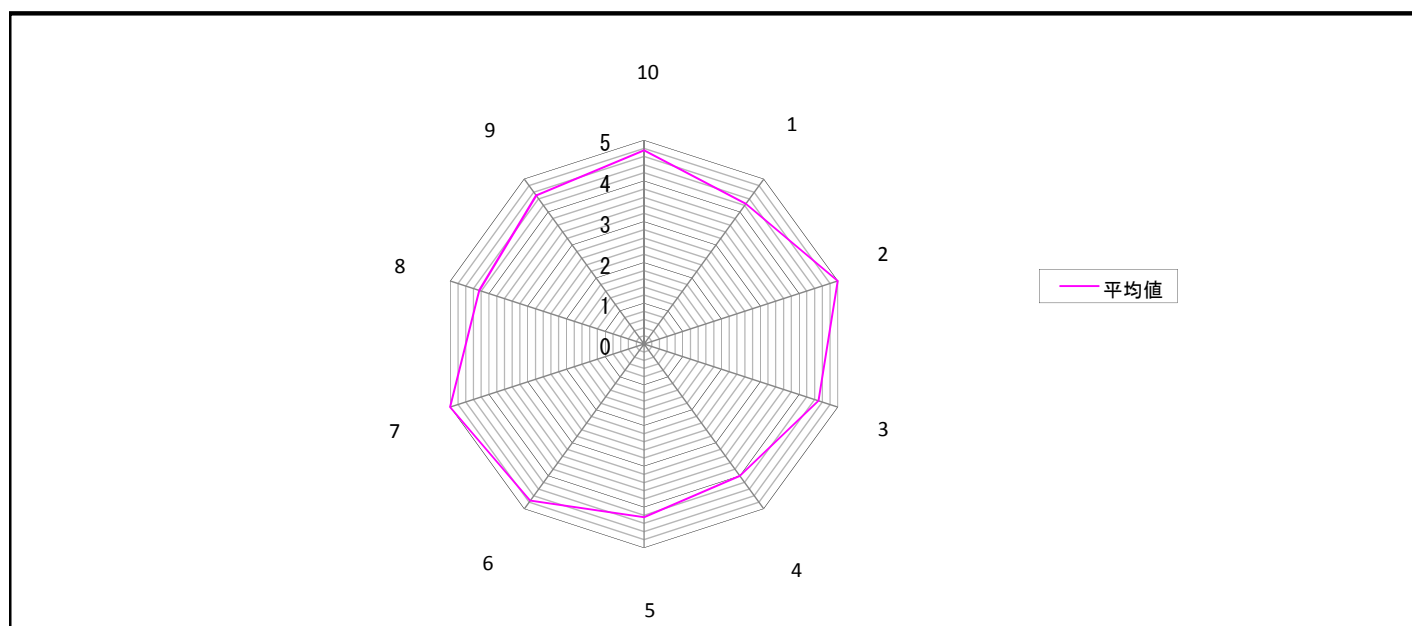
古代ギリシャから19世紀の学校音楽教育の創設期までにみられる音楽教育の歴史的な事実に着目しながら、歴史が示唆する音楽教育の思想と内容や方法を考える授業であり、学術的な授業内容であったが、院生たちは知的好奇心を呼び起こされてようで、熱心に考えながら、講義に参加していた。そして、歴史的な認識方法で音楽科教育のあり方を考えることに関心を抱くことができたようであった。このことは、授業の総合評価において、全員が評定「5」をマークしていることから確認される。今後も、無尽蔵に広がる歴史的な情報の中から、示唆に富む史料を厳選し、歴史的意義をともに探究していくことができるような授業展開になるように、さらに、工夫していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 美術科授業研究  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 山木 朝彦

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	3				4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2		2			4.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	1	3				4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	3				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



## 教員のコメント

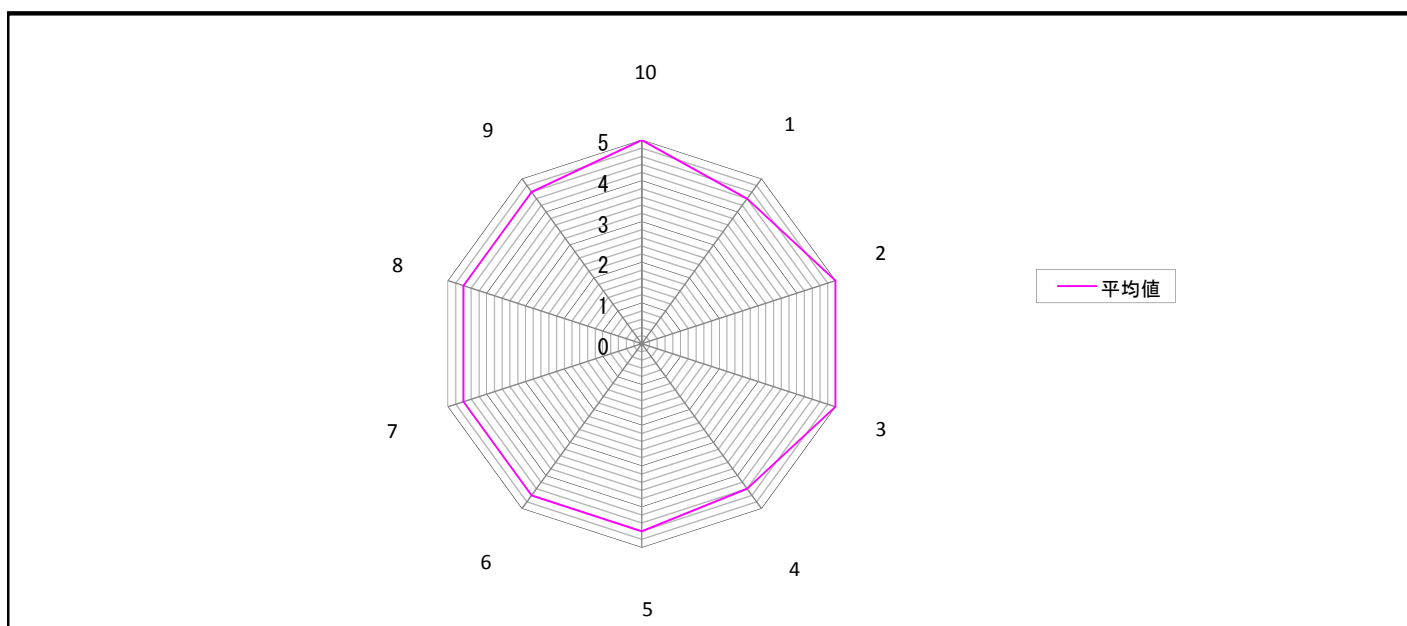
概ね良好な評価であると思う。授業内容はかなり高度であったが、発表の機会とディスカッションの機会を増やし、そのコミュニケーションの基調をなごやかなものにした成果であろう。相対的に成績評価についての明示の項目が低かった原因は、最終的な学習成果の提出形態を発表用プレゼンソフト(パワーポイント形式)を利用したために決定し、告げた時期が授業後半にずれこんだためである。授業者としてはレポート形式のバリエーションという気持ちで課題を出したが、受講生としてはややストレスを感じたのかもしれない。この点を反省し、次年度に生かしたいと思う。

# 結果報告書

授業科目名 美術科教材開発研究  
 評価実施日 平成21年7月30日  
 担当教員名 山田 芳明

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1	1			4.4
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1	1			4.4
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4		1			4.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4		1			4.6
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4		1			4.6
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4		1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



## 教員のコメント

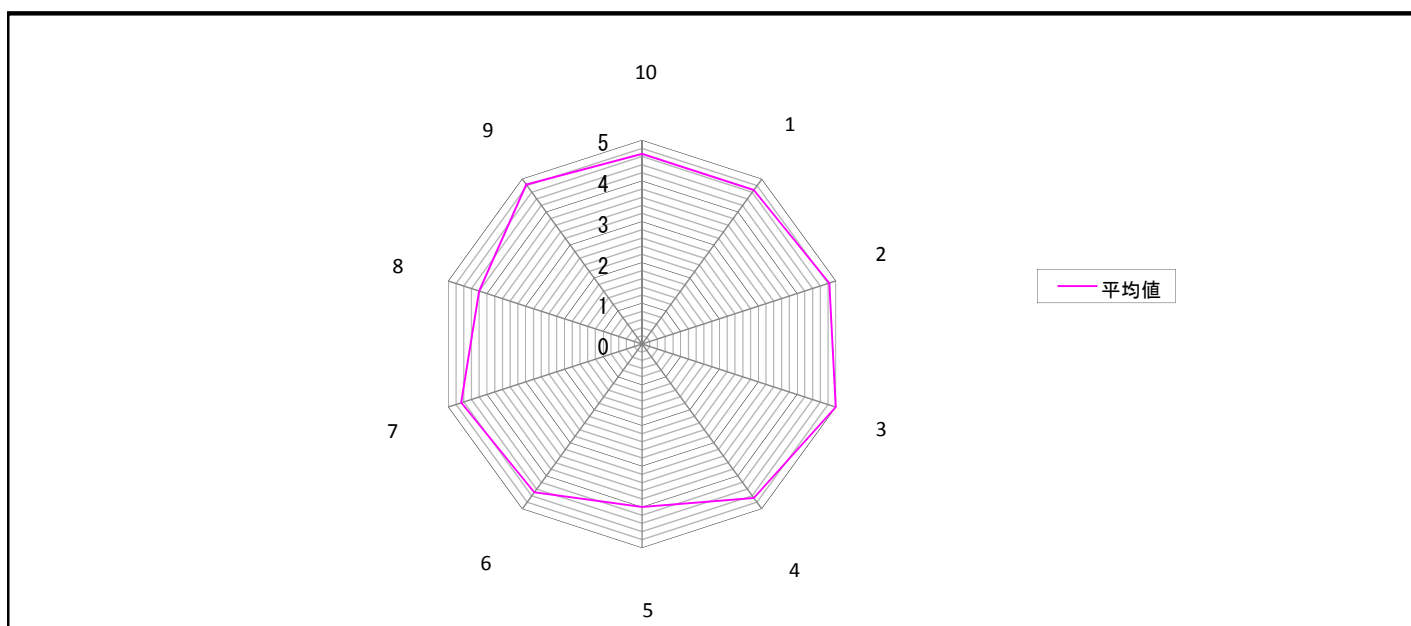
受講学生数が少ないため統計的に扱うことは難しい。  
 学生の多くが、5段階で4または5と回答、学生にとっておおむね満足できる授業内容であったと判断する。  
 なかでも、項目2及び3は全員が5の回答であることは、本授業の目的が学生に十分に伝わっていると判断できる。  
 今後も、より多くの学生にとって実践的で有意義な授業となるように改善につとめたい。

# 結果報告書

授業科目名 美術科教育研究法演習  
 評価実施日 平成21年7月28日  
 担当教員名 山木 朝彦, 山田 芳明

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5		1			4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5		1			4.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	3		1		4.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	1	1			4.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5		1			4.7
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1		1	1	4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	2				4.7



## 教員のコメント

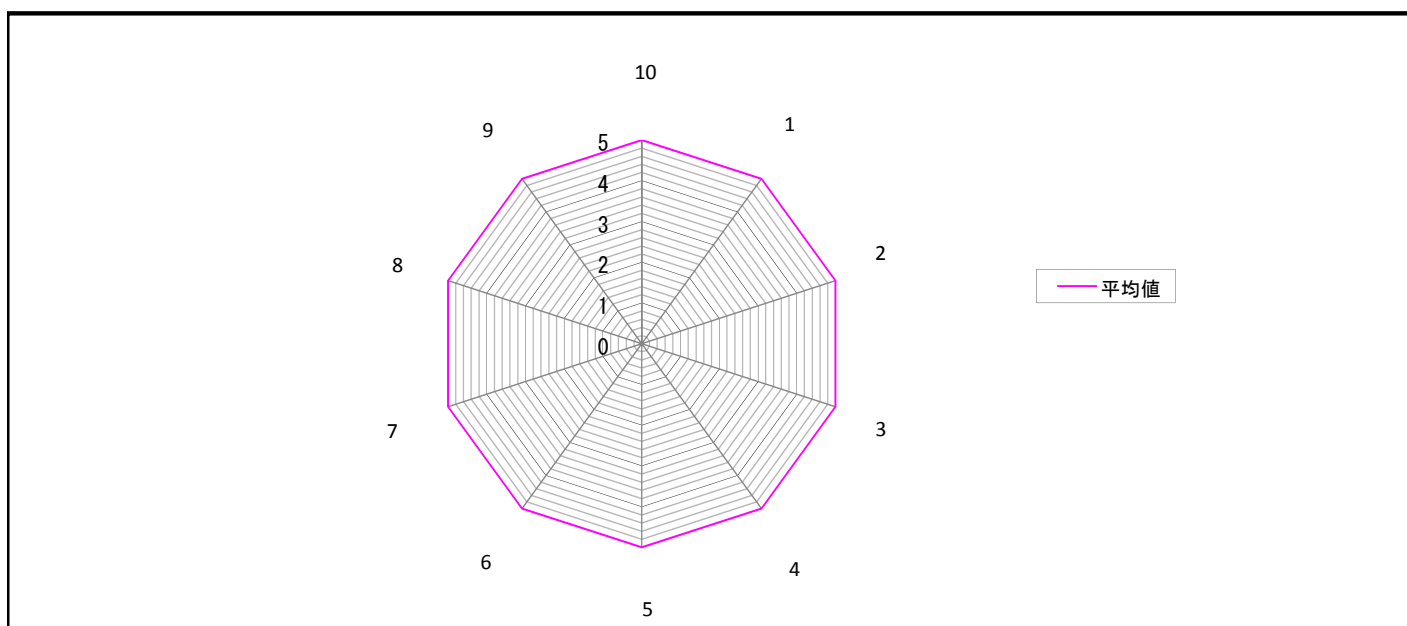
授業者として嬉しかったことは、受講生全員が教師の実践力育成に役立つ授業だったと評価してくれたことである。この授業も長い試行錯誤の上、ようやく実践力育成に寄与する形態に発展してきたと思え、感慨深い。また、総合評価もよいので満足している。ただし、相対的にみて、授業の進度について完全とはいえなかった点に、改善の余地はある。おそらく、実際の鑑賞用教材の開発に着手する時期が授業の終わりにずれこんだためであろう。この点、次年度に改善したいと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 体育授業計画研究  
 評価実施日 平成21年7月23日  
 担当教員名 坂本 和文

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

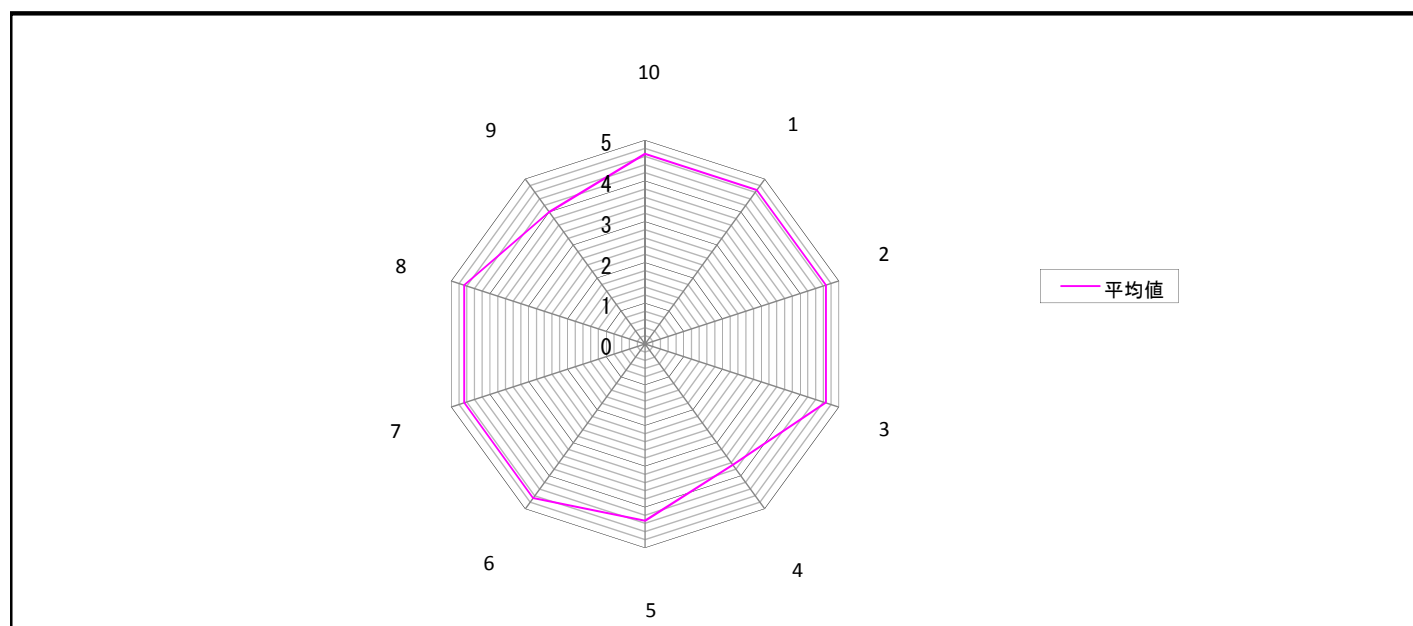
本授業は、隔年開講の体育授業計画研究(講義)であるが、受講者が2名であった。受講者は、全授業時間を通して熱心に受講していた。  
 受講生の評価は、すべて評価5/5となっているが、2名の受講者は授業者との面識もあり、この評価結果は必ずしも適性ではないかも知れない。  
 大学院の授業といえども、受講者の少ない場合には授業評価を実施しない方向で考えるべきではないかと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 技術科教育研究  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 尾崎 士郎

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				1	4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				1	4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				1	4.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。		2	1			1	3.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	1	2				1	4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2	1				1	4.7
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				1	4.7
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				1	4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3				1	4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				1	4.7



## 教員のコメント

受講者が少ないので、偶然の評価結果の可能性はあるが、高い評価を得ている。「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。」の評価が低いのは、シラバスに書いているので、特に講義中に説明を行っていないためであろう。大学院の授業とは言え、受講者の背景が多様であるため、できるだけ、研究の成果をもとに解説を行うことに加えて、それに関連の基礎的な知識に関する説明も工夫しているつもりである。したがって、逆に、講義の内容を体系的あるいは網羅的に組み立てて、多くの知識について理解を図ることを控えることを意識している。本学以外から進学してきた受講者が含まれるが、その学生から、少人数でディスカッションを取り入れて説明してくれたので、今まで知らないことを丁寧に説明してもらえたと、講義終了後に直接聞いたことがある。今回は高い評価を得ているが、年度がかわると、同様の評価を得ることが出来るかどうかは、不明である。もう一つの課題は、「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」が相対的に低いことである。単純に宿題を増やすことでは改善できないように思うが、講義であっても、演習の要素を取り入れた課題を増やすべきかと考えられる。工夫してみたい。

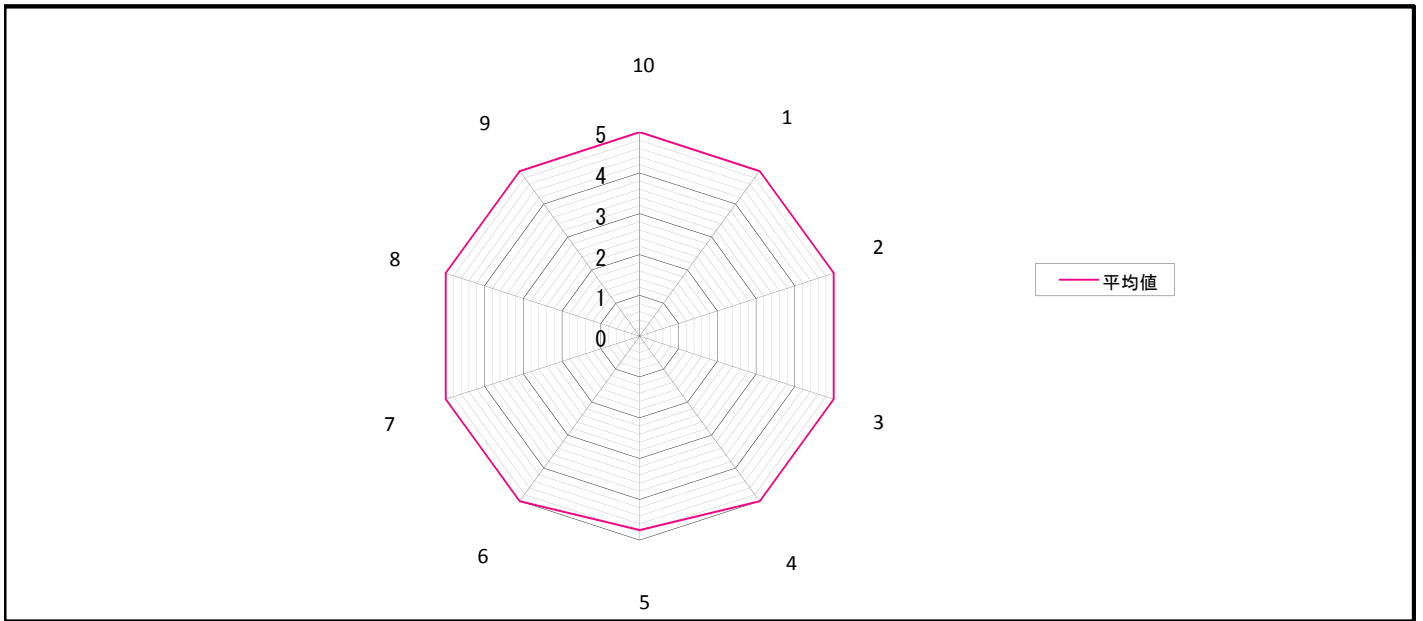


# 結果報告書

授業科目名 国際教育教材開発研究  
 評価実施日 平成21年7月24日  
 担当教員名 小澤 大成, 松壽 昭雄, 服部 勝憲

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

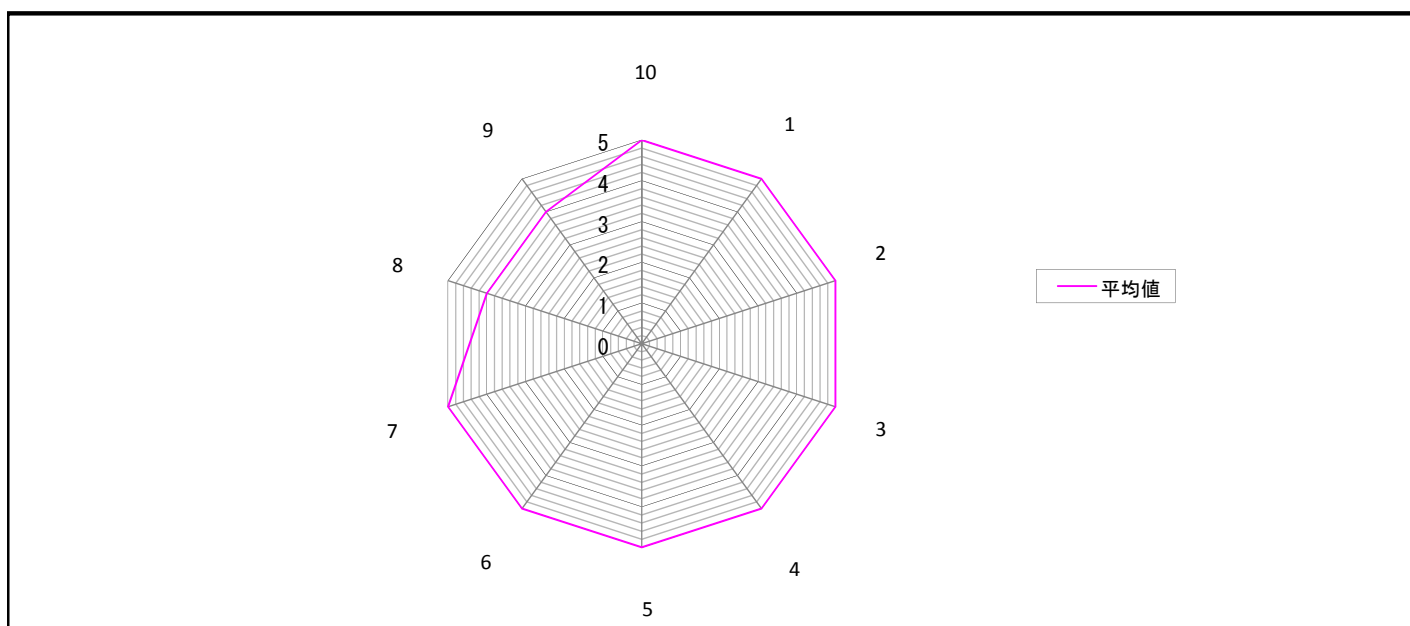
全般的に高い評価であった。受講生からは良かった点として「授業観察」「他の受講生との意見交換」「授業研究の手法を学べたこと」等があげられている。今後改善すべき点として日本の学校での授業を観察してみたいという要望があり、附属の研究会などを生かして今後対応していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 国際教育教材開発演習Ⅱ  
 評価実施日 平成21年7月31日  
 担当教員名 服部 勝憲, 小澤 大成, 松寿 昭雄

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1				4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



## 教員のコメント

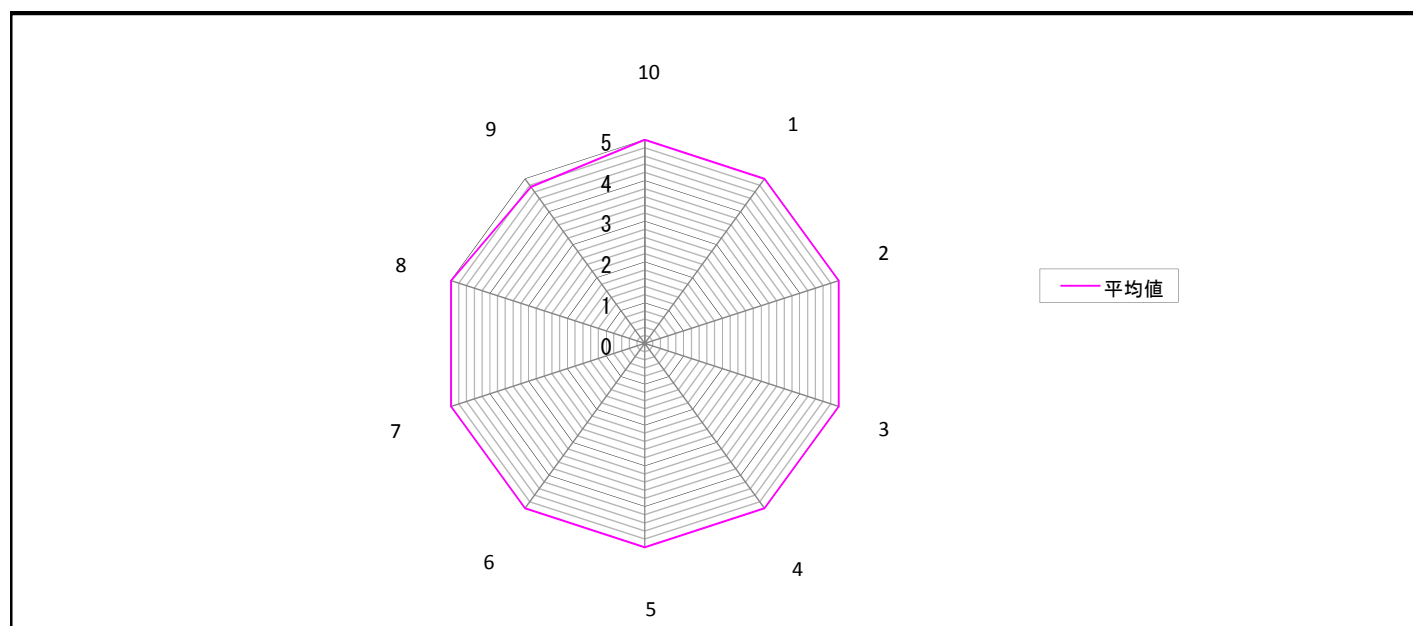
受講生からは次のような意見、コメントが寄せられている。・論文作成につながる教材開発とその活用についての実践事例の検討やそのまとめ方への適切な指導をいただいた。また外国人留学生の研究を想定して英語他の言語で発表資料を作成するなど視野を広げることができた。また評価やカリキュラムに関する本や資料を紹介していただいたり、具体的な統計処理の方法も指導いただいたのもありがたく思っている。一方、マンツーマンの授業のよさもあるが、複数の受講生での意見交換等ができればさらに素晴らしい経験になると思う。という意見があった。単独の受講生での授業展開の難しさが指摘されていると考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 学級経営改善研究  
 評価実施日 平成21年7月29日  
 担当教員名 久我 直人

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

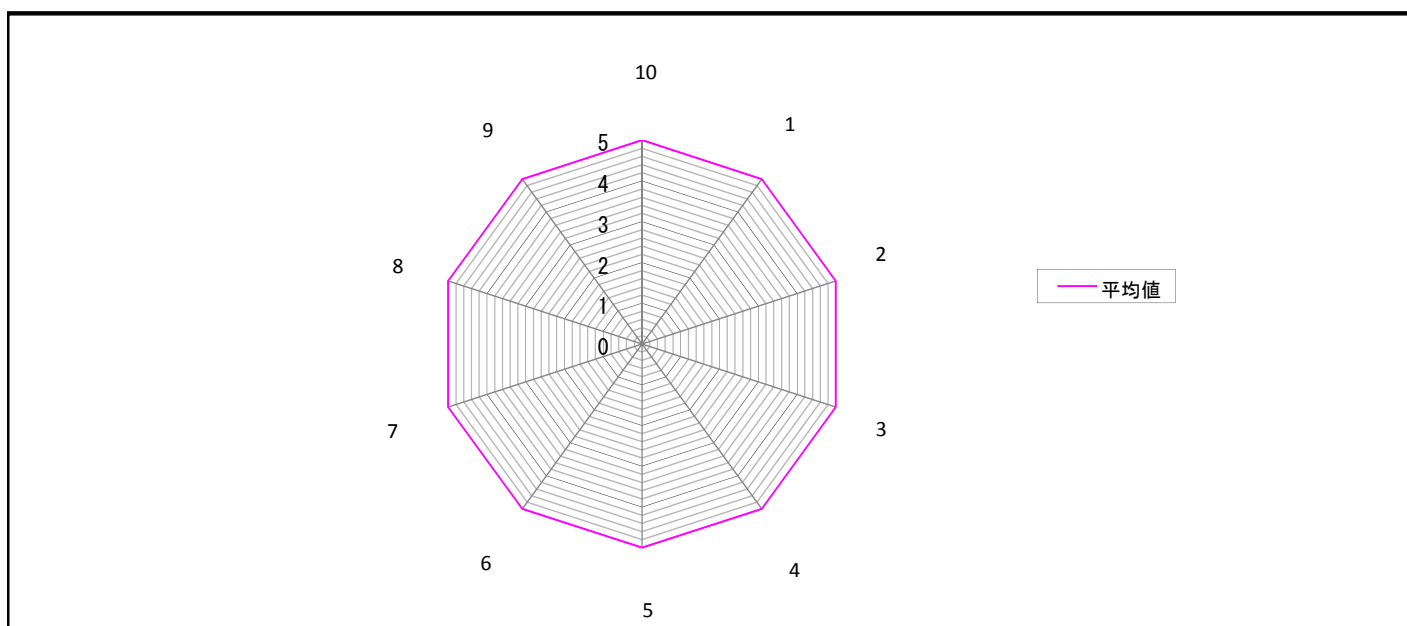
全ての面で高い評価が得られた。  
 その理由として、学校現場における実践的な課題を取り上げて授業を進めている点と、それら実践的課題に応える理論的な知見を合わせて提供し、求められる実践的指導力の内容に踏み込んだ授業を構成し、展開したことが教育効果につながったと考えられる。  
 そのことは、受講者の感想からも読み取れ、「非常にイメージが湧いてきて、分かりやすかった」「これから学校現場に出ようとしている学生に対して、「学校」という組織がどのような場所で、どのような役割をしているのかを認識できた。」「これから教壇に立つための糧になった」等の記述があった。  
 また、授業後の感想で、「学校現場へ出ることの不安が大きかったが、基本的な考え方や具体的な対応策が具体的にイメージでき、早く現場に出たい、という気になった。」というコメントがあり、教育課題に対する展開の具体的なビジョン(見通し)や解決の視点を獲得することが、教員養成段階においても有効であることがとらえられた。  
 今後も具体的な実践事例と理論的な知見を組み合わせ、受講者にとって教育課題解決の見通しがもてる授業を展開することを授業改善の視点に置きたい。

# 結果報告書

授業科目名 教育課題探究(生徒指導基礎研究)  
 評価実施日 平成21年7月27日  
 担当教員名 兼松 儀郎, 小坂 浩嗣

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



## 教員のコメント

受講生は意欲的に授業に取り組んだといえる。受講生が1名であることから、学生の問題意識をとらえながら授業を進めることができた。受講生は、生徒指導や道德教育に関する理論的な内容を習得できたこと、また、教員に求められるカウンセリングマインドやカウンセリングスキルの基礎を演習を通して実際に学べたことを高く評価していた。